鈴鹿工業高等専門学校	機械工学科	開講年度	令和06年度 (2024年度)
学科到達目標			

本学科の卒業生は実践的機械技術者として以下の姿勢・知識・技術・能力を身につけている必要がある.

- (A) 技術者としての姿勢
- 〈視野〉 自己と世界の関係を理解し、地球規模で物事を眺める。
- <技術者倫理> 生産により生じる環境と社会の変化を認識し責任を自覚する。
- <意欲> 習得した知識・技術・能力を超える問題に備えて、継続的・自律的に学習する。
- (B) 基礎・専門の知識とその応用力
- <基礎> 数学、自然科学および情報技術の知識を習得している。
- <専門> 機械主要分野の専門基礎知識、および機械分野の諸問題解決に必要な専門知識・技術を身につけている。
- <展開> 習得した知識をもとに創造性を発揮し、限られた時間内で仕事を計画的にまとめることができる。
- (C) コミュニケーション能力
- <発表> 自らの取り組む課題に関する成果・問題点等を論理的に記述・伝達・討論できる。
- <英語> 英語による基本的なコミュニケーションができる。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

合計単位:10単位

		学科	開講年	ויתו	・学 科	専門・一般	科目名	位数実務紹	経験のある教員名
		機械工学科	本44		学科	専門	機械力学	2	白井達也
		機械工学科	本44	<b></b>	学科	専門	機械設計製図Ⅱ	2	末次 正寛
		機械工学科	本5年	<b>∓</b>	学科	専門	計算機援用工学	1	
		機械工学科	本54	<b>∓</b>	学科	専門	計測工学	1	
		機械工学科	本5年	¥ =	学科	専門	ロボット工学	1	白井達也
		機械工学科	本5年	<b>E</b> 5	学科	専門	生産システム	1	戸田敏宏
		機械工学科	本43	<b>E</b> 5	学科	専門	インターンシップ	1 :	企業担当者
		機械工学科	本5年	<b>E</b> 5	学科	専門	インターンシップ	1 :	企業担当者
科目分	区	授業科目	科目番 号	単位種 別	単位数	1年			担当教 履修上 員 の区分
—	必修	化学	0001	履修単 位	2	2 2			山崎 賢
一般	必修	歴史 I	0002	履修単 位	2	2 2			藤野 月
一般		現代社会 I	0003	履修単位	1	2			三田 暁 ,藤野 月子
一般	必修	英語 I A	0004	履修単 位	4	4 4			日司浩松江県み古百四司浩松江県み古百四部北京 である できません できません できません さいしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい
—	必修	英語 I B	0005	履修単 位	2	2 2			古野 百合
般	必修	保健体育	0006	履修単 位	2	2 2			宝来 毅
一般	必修	国語 I A	0007	履修単 位	2	2 2			石谷 春樹
一般	必修	国語 I B	0008	履修単 位	1				熊澤 美
一般	755	美術	0009	履修単位	1				久留原 昌宏 ,松原 豊
— 般	選択	音楽	0010	履修単 位	1				久留原 昌宏 ,阿部 浩子
一般	選択	書道	0011	履修単 位	1	2			久留原 昌宏 ,樋口 弓弦
— 般	選 択	海外語学実習	0012	履修単 位	1	集中講	4 HP2		全学科 全教員

般	必修	情報処理 I	0013	履修単 位	1	2	遠藤 健太
一般	必修	情報セキュリティ概論	0014	履修単 位	1	2	遠藤 健太
一般	必修	基礎数学A	0015	履修単 位	4	4 4	飯島 和人
般	必修	基礎数学B	0016	履修単 位	2	2 2	川本 正治
一般	必修	物理 I	0022	履修単 位	2	2 2	三浦 陽子
専門	必修	工学基礎実験	0017	履修単 位	1	2	打田正樹,長谷川賢二
専門	必修	機械工作実習	0018	履修単位	4	4 4	白木原 香織 ,松枝 剛広
専門	必修	機械製図I	0019	履修単 位	2	2 2	藤松 孝 裕
専門	選択	創造工学演習	0020	履修単 位	1	集中講義	創造活 動プロ ジェク ト 担当 教員
専門	選択	インターンシップ	0021	履修単 位	1	集中講義	各学年 担任

鈴馬	 花工業高等	 専門学校	開講年度 令和06年度 (2	 2024年度)	授業科目	化学			
科目基础					1	, <i>-</i>			
<u>17 口坐。</u> 科目番号		0001		科目区分	一般/必				
授業形態		授業		単位の種別と単					
開設学科		機械工学		対象学年	1				
<del>用政子科</del> 開設期			T11		2				
かり、		<del></del>	 「高等学校化学基礎」 山内薫 他著	1. —		 ッツトライノート化学基礎			
教科書/教	材		Vol. 1, 2, 3   東京書籍編集部(東京書籍)参考書:「フォトサイエンス化学図録」 数研出版編集部(数出版)						
担当教員		山崎 賢:							
到達目	票								
			里解し, 化学と人間生活, 物質の構成,	物質の変化に関す	「る知識,原理や用	語を理解し, 関連する問題を解くこ			
ルーブ!	リック								
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レ	 ベルの目安	未到達レベルの目安			
			化学と人間生活に関する知識 原	化学と人間生活	に関する知識。原	化学と人間生活に関する知識,原			
評価項目	1		理や用語を理解し、関連する応用 的な問題を解くことができる.	理や用語を理解 的な問題を解く	し,関連する基本 ことができる.	理や用語を理解しておらず,関連 する問題を解くことができない.			
評価項目	2		物質の構成に関する知識,原理や 用語を理解し,関連する応用的な 問題を解くことができる.	用語を理解し, 問題を解くこと		用語を理解しておらず、関連する 問題を解くことができない.			
評価項目	3		物質の変化に関する知識,原理や 用語を理解し,関連する応用的な 問題を解くことができる.	物質の変化に関 用語を理解し, 問題を解くこと	する知識,原理や 関連する基本的な ができる.	物質の変化に関する知識,原理や 用語を理解しておらず,関連する 問題を解くことができない.			
 学科の3	到達目標功	夏目とのほ	<del>!</del>						
教育方法		·							
水円ノバ	ムサ	/授業/	 Dねらい>						
概要		へ投業の   本科目   的なもの   くる.	りない。 日の学習を通し, 化学に関する基本的な りの見方や考え方を身に付ける. またこ	事項,及び物質の れらを身に付ける	)構成や物質の変化 )ことで, 高学年に	, その理論的な扱いを理解し, 化学 おける実践的技術者教育の基礎をつ			
授業の准	 め方・方法	<授業∅	○内容>前期・後期 すべての内容は, - 人間生活 学習・教育目標(A)<視野	学習・教育到達目		相当する.			
注意点		す く中 く	<ul><li>演習問題を解くので電卓は必要である 学特講の基礎となる教科である。</li><li>いじめ要求される基礎知識の範囲&gt;</li><li>での数学,理科,及び本校で履修する数</li></ul>	学系科目に関する けではその量は足 する. 評価割合は , 後期は課題提出 ない者には再試験 上限としてそれぞ	基礎知識が必要で とりない. 問題集「 20%とする。 はと中間試験および を課す場合がある れの試験の成績を	ある. 新課程レッツトライノート化学基礎  「学年未試験で評価をする. ただし  ,再試験の成績が再試験の対象とな  再試験の成績で置き換えるものとす			
		学業成	8得要件> 戏績で60点以上を取得すること.						
	属性・履何								
□ アクラ	ティブラーニ	ニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	ঠ	□ 実務経験のある教員による授業			
授業計画	画	週	授業内容		週ごとの到達目標	<b>要</b>			
		\ <u>-</u>				<u>。</u> 質の区別について説明できる.			
		1週	シラバスを用いて授業の概要,進め方 物質の成分	うを説明する. 		夏の区別について説明できる。 まについて理解し,適切な分離法を選			
		2週	物質の成分			質の区別について説明できる. 生について理解し,適切な分離法を選			
前期	1stQ	3週	物質の構成元素		3.物質が原子から	らできていることについて説明できる こついて説明できる. こ説明できる.			
		4週	状態変化と熱運動		6.物質を構成する分子・原子が常に熱運動していることについて説明できる. 7.水の状態変化について説明できる. 8.物質の三態とその状態変化について説明できる.				

1.					
13			5週	原子の構造	ついて説明できる. 10.同位体・放射性同位体について説明できる. 11.原子の電子配置について電子殻を用いて書き表すことができる.
1					
15.8月 7 日本			6週	イオン	る.
16. 元素の地域について極端する場所とあることができる。					15.原子番号と価電子の数との関係について考えること
お田中部試験			7週	元素の相互関係	ができる. 16.元素の性質について価電子と周期律から考えること
### 17.4 オースの作字立とイオーの名称について説明できる 18.4 オース体合について説明できる。 19.4 イオン体合について説明できる。 20. 実際・ロットで説明できる。 20. 実際・ロットで説明できる。 20. 実際・ロットで説明できる。 21. 技有結合			8週	前期中間試験	1~7週に学習した内容を理解し、諸問題を解くことが
16년			9週		17.イオンの化学式とイオンの名称について説明できる
20 元型について説明でき、鬼解質と非常解質の区別ができる。 11週 共有結合 21共有結合について説明できる。 21共有結合について理解できる。 23 概正が発音について理解できる。 24 概述と発生でしいて理解できる。 25 元気に健康と類性について理解できる。 26 分子組合との手能のようが表面にあれて理解できる。 27 分子からできる側をその利用について理解できる。 27 分子からできる側をその利用について理解できる。 27 分子からできる側をその利用について理解できる。 28 主な共有結合的組品について程度できる。 29 自由電子と金属指令について説明できる。 21 類別は試験がは、解説 31 元間を関すしたり音を理解し、時間報を解くことができる。 32 対象量 33 元学 1元 記録について説明できる。 34 物質量 34 物質量 32 元間について説明できる。 34 物質量 36 元間について説明できる。 36 元間について説明できる。 37 モル湯度について説明できる。 36 元間について説明できる。 37 モル湯度について説明できる。 38 化学度の試について説明できる。 48 心学を必要について説明できる。 48 心臓がしていてが、これのでき、面について説明できる。 40 心学を必ずに対しる本法拠を指揮できる。 41 部・暗器の定義(アレニフスの定義、アレンステッ 22 3 1 1 1 1 1 2 2 2 3 1 1 1 2 3 1 3 1				17/2和日	
2nd			10週	イオン結合	20.電離について説明でき、電解質と非電解質の区別が
2ndQ 2ndQ 2ndQ 2ndQ 2ndQ 2ndQ 2ndQ 2ndQ			11週	共有結合	
### 2ndQ					23.構造式や電子式により分子を書き表すことができる
2 And 2			12週	共有結合	.  24 配位結合と錯イオンの形成について理解できる
14週 共有結合   27.分子からできる物質とその利用について理解できる   28.主以有結合の結晶について説明できる。   38.主以有結合の結晶について説明できる。   30.金属の性質について説明できる。   30.金属の性質について説明できる。   31.化学格合の種類によって、物質を分類できることを   32.原子様との理解し、新聞聴を解くこと   ができる。   31.化学体合の種類によって、物質を分類できることを   32.原子様・分子量と式量   32.原子様・分子量と式量   33.分子差・式量について説明できる。   34.物質量   20.日本間での過程を表すことができる。   34.物質量   20.日本間できる。   35.気体の体積と物質管の関係について説明できる。   36.質量/(・セント温度について説明できる。   35.気体の体積と物質管の関係について説明できる。   36.質量/(・セント温度について説明できる。   37.日心温度について説明できる。   37.日心温度について説明できる。   38.化学反応式ついて反応物、年成物、係数を理解し、   38.化学反応式ついて反応物、年成物、係数を理解し、   40.化学反応   40.化   40.化   40.化   40.任	2	2ndQ	13週	共有結合	25.電気陰性度と極性について理解できる. 26.分子間結合と分子結晶について理解し,共有結晶と
### 28					
### 25日 金属結合、結晶の比較 30 金属の性質 27日 由電学子 全属結合について説明できる。 30 金属の性質 27日 が関する。 31 化学結合の機類によって、物質を分類できることを 16週 前期末試験 9-15週に学習した内容を理解し、諸問題を解くこと かできる。 31 化学結合の機類によって、物質を分類できることを 13回 前期末試験返却・解説 32.房子の利対質量と原子量について説明できる。 32.房子の利対質量と原子量について説明できる。 34.物質量 (mol) を用いて物質の量を表すことができる。 35.気体の体能と物質量の関係について説明できる。 36.智麗について説明できる。 36.智麗について説明できる。 36.智麗について説明できる。 37.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がこと。 27.智麗の計算がことができる。 41.超・塩基の定義、アレニフスの定義、ブレンステッ 42.度・塩基の修算について説明できる。 41.超・塩基の定義、アレニフスの定義、ブレンステッ 42.度・塩基の修算について説明できる。 41.度・塩基の修算について説明できる。 41.度・塩基の修算について説明できる。 42.度・塩基の修算について説明できる。 43.常報度とは・塩基の施剤について説明できる。 44.月について説明できる。 49.月について説明できる。 49.度別・正塩の水子液の性質を説明できる。 49.度別・正塩の水子液の性質を説明できる。 49.度の健療、正塩の水子液の性質を説明できる。 48.度配達元を応じればら関係できる。 48.度配達元についてが説明できる。 48.度配達元についてが説明できる。 48.度配に還元反応に対はる酸化剤と還元剤の面的関係を 13.週 酸化過元の面の関係 49.度化測・返売剤の反応性について説明できる。 37.度に言る。 49.度に引力に対ける酸化剤と還元剤の面的関係を 25.6点の反反性について説明できる。 37.度に応じいてイオン化傾向に置いき記述明できる。 49.度に別に応じいてが説明できる。 49.度に別に応じいてが説明できる。 49.度に別に応じいて説明できる。 49.度に別に応じいて記明できる。 49.度に別に応じいて説明できる。 49.度に別に応じいて説明できる。 49.度に別に応じいて説明できる。 49.度に別に応じいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別にのいて説明できる。 49.度に別に定めれば関との利用のとして、電間を含むに対していて説明できる。 49.度に別に定めれば関係できる。 49.度に別に応じいて対して説明できる。 49.度に別に定めれば関係できる。 49.度に別に応じいて対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していて説明できる。 49.度に別に応じいに対していていて説明できる。 49.度に別に応じいていて説明できる。 49.度に別に応じいて説明できる。 49.度に別に応じいていていていていて説明できる。 49.度に別に応じいていていていて説明できる。 49.度に別に応じいていていていていていていていていていていていていていていていていていていて			14週	共有結合	
15週 金属結合、結晶の比較   30.金属の性質(こついて説明できる)。					
1回 前期末試験返却・解説   32.例子の相対質量と原子量について説明できる。   33.分子電・式量について説明できる。   33.分子電・式量について説明できる。   33.分子電・式量について説明できる。   33.分子電・式量について説明できる。   33.分子電・式量について説明できる。   35.気体の体積と物質量の関係について説明できる。   35.気体の体積と物質量の関係について説明できる。   36.質量/に・セント濃度(こついて説明できる。   36.質量/に・セント濃度(こついて説明できる。   36.で要応えについて反応物、年成物、係数を理解し、組み立てることができる。   40.化学変応に対いる基本法則を担理できる。   40.化学変応に対ける基本法則を担理できる。   40.化学変応に対ける基本法則を担理できる。   41.時・塩基の定義・プレンステット・ロールの定義)について説明できる。   42.時・塩基の企業・大型・企業・企業・大型・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・企業・			15週	金属結合、結晶の比較	30.金属の性質について説明できる。  31.化学結合の種類によって、物質を分類できることを
### 原子量・分子量と式量 33.分子量・式量(こついて説明できる。 34.物質量 (mol) を用いて物質の量を表すことができる。 35.気体の体験と物質量の関係について説明できる。 36.質量/「一セント濃度について説明でき。 36.質量/「一セント濃度について説明でき。 36.質量/「一セント濃度について説明でき。 37.モル温度の計算ができる。 37.モル温度の計算ができる。 38.化学反応式について反応物,生成物,係数を理解し、組み立てることができる。 42.00 作業のできま。 71.00 が、単元のできま。 71.00 にごびいて記明できる。 42.00 作量のできま。 71.00 にごびいて記明できる。 42.00 作量のできま。 71.00 にごびいて説明できる。 42.00 作量のできま。 71.00 にごびいて説明できる。 43.00 作量のできま。 71.00 に対するを理解し、諸問題を解くことができる。 71.00 に対するを理解し、諸問題を解くことができる。 71.00 に対するを理解し、 72.00 に対するを理解できる。 45.00 に対するを理解できる。 47.中和定量 45.中和定量の水溶液の性質を説明できる。 47.中和流度の計算ができる。 10.00 に利剤と返売利の反応 49.00 に利力・運売を理解できる。 10.00 酸化還元利の反応 49.00 に利力・運売を理解できる。 13.00 酸化還元反応における酸化利と還元利の量的関係を理解できる。 53.00 に対すた反応ではについて説明できる。 53.00 に対すた反応では同じこいて対対に関いに基づき説明できる。 55.00 に対すた反応の利用例として、電池の原理を理解できる。 55.00 に対すた反応の利用例として、電池の原理を理解できる。 55.00 に対すた反応の利用例として、電池の原理を理解できる。 55.00 に対すた反応の利用例として、電池の原理を理解できる。 55.00 に対すたての利用例として、電池の原理を理解できる。 55.00 に対すたての利用例として、電池の原理を理解できる。 55.00 に対すたての音を理解し、諸問題を解くことができる。 75.00 に対すに対すたる 75.00 に対すに対すたる 75.00 に対すたる 75.00 に対す			16週	前期末試験	
2週 物質量   3.5 気体の体積と物質量の関係について説明できる。   36 質量パーセント濃度について説明できる。   36 質量パーセント濃度について説明でき、質量パーセント濃度について説明でき、質量パーセント濃度について記明でき、質量パーセント濃度について記明でき、質量パーセント濃度について記明でき、質量パーセント濃度について記明でき、更量/トラント濃度について記明できる。   4週 化学変化と化学反応式   38.化学反応式について反応物、生成物、係数を理解し、組み立てることができる。   40.化学反応式を用いて化学量論的な計算ができる。   40.化学反応式をおける基本法則を把握できる。   41. 酸・塩基の定義(アレコウスの定義、プレンステット・20 での定義)について説明できる。   42. 酸・塩基の化学式と酸・塩基の働気について説明できる。   43. 電調度と酸・塩基の機関について説明できる。   44. pHについて説明できる。   43. 電調度と酸・塩基の機関について説明できる。   44. pHについて説明できる。   44. pHについて説明できる。   45. できる。   46. 塩の性質のはで表すことができる。   47. 中和心塩			1週		32.原子の相対質量と原子量について説明できる. 33.分子量・式量について説明できる.
315. 株の体積と物質量の関係について説明できる。   36. 質量パーセント温度について説明でき、質量パーセン   38. 化学反応できる。   37. もの課度について説明でき、質量パーセ   38. 化学反応式について反応物、生成物、係数を理解し、			つ:田	から	34.物質量 (mol) を用いて物質の量を表すことができ
3回   溶解と濃度   37.日/濃度について説明でき、モル濃度の計算ができる。   37.日/濃度について説明でき、モル濃度の計算ができる。   38.化学反応式について反応物、生成物、係数を理解し、			2.週	が見里	
### 1874			3週	溶解と濃度	36.質量パーセント濃度について説明でき、質量パーセント濃度の計算ができる。 37.モル濃度について説明でき、モル濃度の計算ができる。
1	3		4週	化学変化と化学反応式	38.化学反応式について反応物,生成物,係数を理解し、組み立てることができる。
42.酸・塩基の化学式と酸・塩基の価数について説明できる。		, a Q	5週	化学反応の量的関係、化学変化における諸法則	
後期			6週	酸と塩基	41.酸・塩基の定義(アレニウスの定義,ブレンステッド・ローリーの定義)について説明できる. 42.酸・塩基の化学式と酸・塩基の価数について説明できる.
後期中間試験	/// HD		7週	水素イオン濃度	44.pHについて説明でき,pHと水素イオン濃度の計算
中和と塩   46.塩の種類,正塩の水溶液の性質を説明できる。	<b>佐</b> 期		8週	後期中間試験	
11週 酸化と還元			9週		45.中和反応を化学反応式で表すことができる. 46.塩の種類,正塩の水溶液の性質を説明できる.
12週 酸化剤と還元剤の反応					47.中和滴定の計算ができる。
13週 酸化還元の量的関係   50.酸化還元反応における酸化剤と還元剤の量的関係を理解できる。					1 12 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
4thQ   14週   金属のイオン化傾向   251.金属のイオン化傾向について説明できる。   51.金属のイオン化傾向について式明できる。   52.金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。   53.酸化還元反応の利用例として,電池の原理を理解できる。   53.酸化還元反応の利用例として,電池の原理を理解できる。   54.酸化還元反応の利用例として,金属の製錬を理解できる。   54.酸化還元反応の利用例として,金属の製錬を理解できる。   55.化学と現代の社会課題との関連性について説明できる。   56週   学年末試験   9~15週に学習した内容を理解し,諸問題を解くことできる。   57ルコアカリキュラムの学習内容と到達目標			12週	酸化剤と還元剤の反応	
4thQ   14週 金属のイオン化傾向   52.金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。			13週	酸化還元の量的関係	理解できる.
15週   電池、金属の精錬化学と人間生活化学が拓く世界	4	lthQ	14週	金属のイオン化傾向	152.金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明で
			15週	化学と人間生活	53.酸化還元反応の利用例として,電池の原理を理解できる. 54.酸化還元反応の利用例として,金属の製錬を理解できる. 55.化学と現代の社会課題との関連性について説明でき
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標			16週	学年末試験	9~15週に学習した内容を理解し、諸問題を解くこと
	モデルコ	アカリキ	ニュラムの	 の学習内容と到達日標	
		1			到達しべい、授業调

記点	80		20	0	0	0	0		100
総合評価割合			20	0	0	0	0		100
۸ ۸ == ( <del> ا</del>	試験		課題	相互評価	態度	発表	その他		合計
工间的口	=-46-4		=田旦百	±0 <del>-</del> = = 0 /==	能莊	<b>≥</b> ×±	Z		∆≣∔
平価割合	1	1		<u>11</u> 2//20~//天//0 /上(C			_ 00		IIXIT
						<u>。</u> 頃向に基づき説明で	<u></u>	3	後14
					ついて説明できる ついて説明できる			3	後14
				中和滴定の計算		z		3	後10 後11
					反応式で表すこと   ができる	とかでさる。		3	後9
				·		ミイオン濃度の計算 ・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	かできる。	3	後7
					基の強弱についる			3	後7
				酸・塩基の化学	式と酸・塩基の位	画数について説明で	きる。	3	後6
				の定義)につい				3	後6
						で展及の計算ができ 定義、ブレンステッ			
				算ができる。		ル濃度の計算ができ	·ろ.	3	後3
					濃度について説明	明でき、質量パーセ	ント濃度の計	3	後3
				電離について説	明でき、電解質の	と非電解質の区別が	できる。	3	前10
				化学反応式を用	いて化学量論的な	な計算ができる。		3	後5
				10字反応式につことができる。	いい (以心物、生)	以7///、1が奴で珵胜し	、 祖の 立	3	後4
					質量の関係につし	<u>ハて説明できる。</u> 成物、係数を理解し	知ュナテフ	3	後2
					ついて説明できる			3	後1
						を表すことができる -	0	3	後2
				原子の相対質量	と原子量について	て説明できる。		3	後1
					いて説明できる。			3	前15
				自由電子と金属	結合について説明	明できる。		3	前15
ゲトコロロンフ	HWALL	10-3-	400	構造式や電子式	により分子を書る	き表すことができる		3	前12
 基礎的能力  自然科	自然科学	化学	化学	極性と水素結合について説明できる。				3	前11
				共有結合につい	て説明できる。			3	前11
				イオン結晶の性	質について説明	できる。		3	前10
					いて説明できる。			3	前9
						こついて説明できる		3	前9
						期律から考えること		3	前7
						こついて考えること	 ができる。	3	前7
					を化学式で表する		<b>ω</b> 0	3	前6
						<u>。</u> カについて説明でき	: る。	3	前6
					ついて説明できる		-C11 CC-00	3	前5
						<sub>説明</sub> できる。 を用いて書き表すこ	 とができる	3	前5
				きる。	 :同位体についてi	治田でキス		3	前5
					子核・電子)や原	原子番号、質量数に	ついて説明で	3	前5
				物質の三態とそ	の状態変化につい	ハて説明できる。		3	前4
					ついて説明できる	 る。		3	前4
				物質を構成する 明できる。	分子・原子が常(	こ熱運動しているこ	とについて説	3	前4
				混合物の分離法	について理解し、	適切な分離法を選	択できる。	3	前1,前2
					の区別について			3	前1,前2
				同素体について	説明できる。			3	前3
					ついて説明できる			3	前3
				物質が原子から	できていることに	こついて説明できる	10	3	前3

	毘丁業品等	<b>等専門学校</b>	開講年度	令和06年度(	2024年度)	授	 業科目	歴史 I
	<u> </u>		1					
<u> </u>		0002			科目区分		一般 / 必	修
授業形態	,	授業			単位の種別と単位	立数	履修単位	
開設学科	4	機械工学科	<b>斗</b>		対象学年	1		
開設期		通年			週時間数		2	
教科書/勃	教材	『新編世界	界の歴史』北村正義	(学術図書出版)	・『最新世界史図	説タペン	ストリー』	帝国書院編集部(帝国書院)・プリ
担当教員	į	藤野 月子						
到達目								
3. 列強	郎を直民地進	出及び対立が理	及び日本におけるま 民革命及び産業革命 理解・説明出来る. 理解・説明出来る.	対建時代の歴史的な の歴史的な意義と	発展が理解・説明 相違点が理解・説	出来る. 明出来る	3.	
ルーブ	゚リック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目	 ]安	未到達レベルの目安
評価項目	1		ヨーロッパ中世次 日本における封 発展が深く理解	から絶対主義及び 建時代の歴史的な ・説明出来る.	ヨーロッパ中世が 日本における封 発展が理解・説明	建時代の	歴史的な	ヨーロッパ中世から絶対主義及び 日本における封建時代の歴史的な 発展が理解・説明出来ない.
評価項目	12		ヨーロッパ・日 命及び産業革命の 相違点が深く理解	本における市民革 の歴史的な意義と 解・説明出来る.	ヨーロッパ・日本 命及び産業革命の 相違点が理解・記	の歴史的	な意義と	ヨーロッパ・日本における市民革命及び産業革命の歴史的な意義と 相違点が理解・説明出来ない.
評価項目	13			出及び対立が深く	列強の植民地進出・説明出来る.	出及び対	- け立が理解	列強の植民地進出及び対立が理解 ・説明出来ない。
評価項目	4			 史的な過程が深く	現代に繋がる歴史・説明出来る。	史的な過	程が理解	現代に繋がる歴史的な過程が理解・説明出来ない。
 学科の	到達目標	 項目との関(	1					
<u>,                                    </u>								
<del>双回23</del> 概要	<u>Д</u>	人類の歴史		, 世界を舞台に活	躍する国際人とし	 て必要を		 に付けることを目指す. 社会の発展
	₤め方・方法	・すべて <i>の</i> ・授業は める、通常	4の授業中には、ク	到達目標に対応す 義を聞き, スクリ ループによる自己	る。 ーンや教科書・図 学習の時間も設け	る.		.つつ,配布したプリントの空欄を埋 に相当するものとする.
		試験を課す	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	価基準>前期中間	・前期末・後期中間	引・学年	末の試験の	・ カ平均占で評価する ただし 前期の
注意点		(く間回 , くく . くば が とく . くば 回 , くく . くば 見が まん	動の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価を関中間・学年会には、その成績を登けたの模式の実践等をは、要要を表しましま。	<ul><li>○末の試験について</li><li>○60点として置き</li><li>○などを4回ほど課</li><li>○60点以上を取得</li><li>○知識の範囲&gt;今日</li><li>○はども教材として随い</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・	引・学年 ない者に 世界遺産 出も行い いる歴史	末の試験に には再試験 全に関する い, それら 的な出来	・ の平均点で評価する. ただし, 前期で をする. 再試験の結果が60点を上 レポート及びプレゼン, あるいは も評価に加味する. 事に普段から関心を寄せておくこと
	로싸 로	マライ   マーイ   マライ	動の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価を関中間・学年会には、その成績を登けたの模式の実践等をは、要要を表しましま。	<ul><li>○末の試験について</li><li>○60点として置き</li><li>○などを4回ほど課</li><li>○60点以上を取得</li><li>○知識の範囲&gt;今日</li><li>○はども教材として随い</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・	引・学年 ない者に 世界遺産 出も行い いる歴史	末の試験に には再試験 全に関する い, それら 的な出来	、目標の達成を確認出来るレベルの の平均点で評価する。ただし、前期の をする。再試験の結果が60点を上 レポート及びプレゼン、あるいは も評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくこと こ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となるま
授業の		大の区分	動の評価方法及び評集・後期中間・学年 ・後期中間・学年 を検定の成績を 経検定の模試の実践 ・学業成績で ・サップを ・サービのニュースを ・最新世界史図説タ	<ul><li>○末の試験について</li><li>○60点として置き</li><li>○などを4回ほど課</li><li>○60点以上を取得</li><li>○知識の範囲&gt;今日</li><li>○はども教材として随い</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・ 業に必ず携帯するこ	間・学年ない者に世界遺産出も行いる歴史	末の試験に には再試験 全に関する い, それら 的な出来	の平均点で評価する. ただし, 前期でをする. 再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン, あるいはも評価に加味する. 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となるま
授業の	属性・履 ティブラー <u>-</u>	大の区分	動の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価を関中間・学年会には、その成績を登けたの模式の実践等をは、要要を表しましま。	<ul><li>○末の試験について</li><li>○60点として置き</li><li>○などを4回ほど課</li><li>○60点以上を取得</li><li>○知識の範囲&gt;今日</li><li>○はども教材として随い</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・	間・学年ない者に世界遺産出も行いる歴史	末の試験に には再試験 全に関する い, それら 的な出来	の平均点で評価する. ただし, 前期でをする. 再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン, あるいはも評価に加味する. 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となるま
授業の 』 アク:	ティブラーニ	大の区分	動の評価方法及び評集・後期中間・学年 ・後期中間・学年 を検定の成績を 経検定の模試の実践 ・学業成績で ・サップを ・サービのニュースを ・最新世界史図説タ	<ul><li>○末の試験について</li><li>○60点として置き</li><li>○などを4回ほど課</li><li>○60点以上を取得</li><li>○知識の範囲&gt;今日</li><li>○はども教材として随い</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・ 業に必ず携帯するこ	間・学年ない者に世界遺産出も行いる歴史	末の試験に には再試験 全に関する い, それら 的な出来	・ の平均点で評価する. ただし, 前期で をする. 再試験の結果が60点を上 レポート及びプレゼン, あるいは も評価に加味する. 事に普段から関心を寄せておくこと
授業の 』アク:	ティブラーニ	く対   と   と   と   と   と   と   と   と   と	動の評価方法及び評集・後期中間・学年 ・後期中間・学年 を検定の成績を 経検定の模試の実践 ・学業成績で ・サップを ・サービのニュースを ・最新世界史図説タ	<ul><li>○末の試験について</li><li>○60点として置き</li><li>○などを4回ほど課</li><li>○60点以上を取得</li><li>○知識の範囲&gt;今日</li><li>○はども教材として</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・ 業に必ず携帯するこ	明・学年はい者は世界遺産出も行いる歴史 と、本	末の試験に には再試験 全に関する い, それら 的な出来	の平均点で評価する. ただし, 前期でをする. 再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン, あるいはも評価に加味する. まに普段から関心を寄せておくことに学習する「歴史Ⅱ」の基礎となるま □ 実務経験のある教員による授
受業の <sup>図 アク:</sup>	ティブラーニ	マライ   大学・では、	情の評価方法及び評 ・後期中間・学年 ・後期中での成績を を検定の模試の実践 引きを表する。 ・ジ業れる基礎 ・レビのニュースな ・最新世界史図説タ	: 未の試験について 60点として置き 3などを4回ほど課 60点以上を取得 知識の範囲>今日の でも教材として随 ペストリー』は授	・前期末・後期中間 60点に達してい 60点に達してい 換える・授業中に し,プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・ 業に必ず携帯するこ 図 遠隔授業対応	引・学年は世界遺産出も行いる歴史出もできます。 本	末の試験には再試験には再試験でいく、それらい、それらいな出来が教科は後に数料は後にある。	の平均点で評価する. ただし, 前期呼をする. 再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン, あるいはも評価に加味する. まに普段から関心を寄せておくことに学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる類
受業の <sup>図 アク:</sup>	ティブラーニ	大学・市場連修   大学・市場連修   大学・下の世半あ新備で   大学・・アダー   大学・アダー   大	動の評価方法及び評 ・後期中間・学年 ・後期中の成績を 全検定の模式の実践 引きをできまれる事業 ・サイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul><li>未の試験について 60点として置き 3などを4回ほど課 60点以上を取得 知識の範囲&gt;今日の 3でも教材として随 ペストリー』は授業</li><li>歴史を学ぶとに</li></ul>	・前期末・後期中間 60点に達してい 換える・授業中に し、プリントの提 すること・ の世界で起こってい 時利用する・ 業に必ず携帯するこ 図 遠隔授業対応	引・学年に サイン では サイン では サイン サイン では サイン では サイン サイン では サイン では サイン サイン では サイン では サイと サイン では サイン でも サイン でも サイと サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイン でも サイと サイン でも サイン でも サイと サイン でも サイと サイと サイと サイと サイと サイと サイと サイと サイと サイと	まの試験には再試験を をに関するい、それらい、それらい、それらいのな出来が を教科は後いの到達目標 とまるでは、	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となるす
授業の 』アク:	ティブラーニ	マリカ   マリ	動の評価方法及び評集・後期中間・学年・には、その成績を関する。 を検定の模式の機関を関する。 を検定の模式の表別でである。 を受ける。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	末の試験について 260点として置き 30点として置き 30点以上を取得 30点以上を取得 30部の範囲>今日 30でも教材として随 ペストリー』は授 20でを学ぶとは 中世ヨーロッパの 十字軍と中世都市	・前期末・後期中間・60点に達していまり、プリントの提りえる。 授業中の提りますること の世界で起こってい時利用する。 業に必ず携帯すること 遠隔授業対応 ② 遠隔授業対応	調・学年は 世出も 世出も を歴 でと、本 でと、本 でと、本 でと、本	末の試験には再試験を には再試験 をに関するい、それらい、それらい。 かな出来・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史II」の基礎となるす
授業の 』アク:	ティブラー <u>:</u> 画	Yell	情の評価方法及び評集を規則を開き、では、そのには、その成績を関する。 では、一般では、一般では、一般では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	末の試験について 60点として置き 30点として置き 30点と上を取得 60点以上を取得 知識の範囲>今日の ベストリー』は授 ベストリー』は授 中世ヨーロッパの 十字軍と中世都市 中央集権国家の出	・前期末・後期中間 60点に達していま 換える・授業中に 10,プリントの提 30で 10 で	引・学年は世出もでは、 は、いる歴史は、いる歴史は、こと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	まれの試験を こは再試験 こは再試験 全に関する い、それら い、それら かのな出来!! 教科は後し の到達学がを 世に軍が後世 分制議会の	の平均点で評価する。ただし、前期にをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史II」の基礎となるを 」 実務経験のある教員による授 意義が理解出来る。 ははした影響が理解出来る。 はに及ぼした影響が理解出来る。 ははみが理解出来る。
授業の 』アク:	ティブラーニ	マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マー・マ	情の評価方法及び評価方法及び評策・後期を開から、	末の試験について 60点として置き 30点として置き 30点以上を取得 60点以上を取得 知識の範囲>今日の ベストリー』は授 ベストリー』は授 中世ヨーロッパの 十字軍と中世都市 中央集権国家の出 展開1 大航海時代	・前期末・後期中間 60点に達していた 60点に達していた 2点に 2分した プリントの提 3 できること 2 できる	引・学年に 世出も は い は 関 し し る 歴 と 、 過 ご に し に り し に り る に り る た い し る た し る た し る た し る た る た る た る た る た	またの試験 には再言する には再言する い、それら い、お出来 教科は後 の到達学ぶたる といった。 をといった。 ののでは、 のので。 ののでは、 の。 ののでは、 の。 ののでは、 ののでは、 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上しポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授
授業の 』アク:	ティブラー <u>:</u> 画	大学・の世界を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	情の評価方法及び評集・後期で開から、	<ul> <li>未の試験についてきるの点として置きなどを4回ほどけるの点としてできるの点とは上を取得の地のでも数材としてでいる。</li> <li>一歴史を学ぶとは中世ヨーロッパの十字軍と中世都中中央集権国家の出ての場所を表現1 大航海時代表別2 ルネサンス</li> </ul>	・前期末・後期中間 60点に達していた 60点に達していた 2点に 2分した プリントの提 3 できること 2 できる	引 は 日本 は 日	まの試験を これに には には にして い、それら い、それら い、の の 到達目 が とい、 の 到達目 が とい、 の の り で に い、 の り の り の り の り の り に り の り の り の り の り	の平均点で評価する。ただし、前期にをする。再試験の結果が60点を上しポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験のある教員による授 □ 実務経験が理解出来る。 □ はに及ぼした影響が理解出来る。 □ は組みが理解出来る。 □ は組みが理解出来る。 □ は組みが理解出来る。 □ はに及ぼした影響が理解出来る。 □ は組みが理解出来る。
授業の 』アク:	ティブラー <u>:</u> 画	大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	動の評価方法及び評価方法及び評集・後期中間・学年を期中中間・学年を開中では、一般期間・学年の成実践課課を作っ、受業のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	<ul> <li>未の試験についてきるの点として置きなどを4回ほどけるの点としてできるの点とは上を取得の地のでも数材としてでいる。</li> <li>一歴史を学ぶとは中世ヨーロッパの十字軍と中世都中中央集権国家の出ての場所を表現1 大航海時代表別2 ルネサンス</li> </ul>	・前期末・後期中間 60点に達していた 60点に達していた 2点に 2分した プリントの提 3 できること 2 できる	明・学者 は は は い は 関 に に の に に の の に の に の に の に の に の に の に の に の に の に の の に の の に の の に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に に に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 に 。 に 。 に 。 。 に 。 に 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	まの試験を こは再試験 こには再試する。 これでは、それでは、 では、それでは、 では、それでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の平均点で評価する。ただし、前期の平均点で評価する。ただし、前期のでする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことに学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「大学習が理解出来る。 「大学記述を表し、「大学記述を表し、「大学記述を表し、「大学記述を表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表し、表
授業の 』アク:	ティブラー <u>:</u> 画	大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	情の評価方法及び評集・後期で開から、	<ul> <li>未の試験についてきるの点として置きなどを4回ほどけるの点としてできるの点とは上を取得の地のでも数材としてでいる。</li> <li>一歴史を学ぶとは中世ヨーロッパの十字軍と中世都中中央集権国家の出ての場所を表現1 大航海時代表別2 ルネサンス</li> </ul>	・前期末・後期中間 60点に達していた 60点に達していた 2点に 2分した プリントの提 3 できること 2 できる	明: がは 明: いい 明: いい	まの試験験にはにしている。 にはにしている。 にはにしている。 には、ののでは、は、ののでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 □ 実務経験のある教員による授業を表表が理解出来る。 とに及ぼした影響が理解出来る。 ○仕組みが理解出来る。 が後世に及ぼした影響が理解出来る。 ○使用が理解出来る。 ○使用が理解出来る。 ○展開が理解出来る。 ○展開が理解出来る。 ○展開が理解出来る。
授業の ② アク: 授業計	ティブラー <u>:</u> 画	Yell   Control   Contr	動の評価方法及び評価方法及び評集・後期中間・学年を期中中間・学年を開中では、一般期間・学年の成実践課課を作っ、受業のでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	末の試験について 全 6 0 点として置き さいでを 4 回ほど課 6 0 点以上を取得 知識の範囲 > 今日の ではも教材としてで でストリー』は投 でストリー』は投 中世ヨーロッパの 十字軍と中世都市 中央集権国家の出 展開 1 大航海時代 展開 2 ルネサンス 展開 3 宗教改革	・前期末・後期中間・60点に達していた。 10点に達していた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、 2	明が世出 る と 週 1	またのは にはにして、 にはにして、 にはにして、 にはにして、 にはにして、 にはにして、 にはにして、 にはにして、 にはにして、 ののとにででは、 では、 ののとにででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 □ 実務経験のある教員による授業を表した影響が理解出来る。 □ は、した影響が理解出来る。 □ は、した影響が理解出来る。 □ は、した影響が理解出来る。 □ は、した影響が理解出来る。 □ は、した影響が理解出来る。 □ は、した影響が理解出来る。 □ に及ぼした影響が理解出来る。 □ に及ぼした影響が理解出来る。 □ に及ぼした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。 □ に及ばした影響が理解出来る。
授業の ② アク: 授業計	ティブラー <u>:</u> 画	Yell   Control   Contr	情の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価を関する。 ま・後期・学様期・学様の成実践 を検定の学業成基準である。 を受ける。 では、、ででは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	末の試験についてきるの試験についてきるの点として置きまる点としの点とも回ぼ取得の点を以上を以上を対してでいた。となって、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	・前期末・後期中間・60点に達していた。 10点に達していた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、 2	まな世出 る と 週 1 2 3 4 5 6 7 上 8 内 9 来 と 歴 中 十 身 大 ル 宗 2 絶が ヨ・ と 歴 中 十 身 大 ル 宗 2 絶が ヨ・	またはには、 か 科 の 史世 字分航 そ 教 ~ 対理 ー の と で 軍制 時 が で 大 で 大 で 大 で 大 で 大 で 大 で 大 で 大 で 大 で	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 □ 実務経験のある教員による授い □ に及ぼした影響が理解出来る。 □ に及ぼした影響が理解出来る。 □ に及びした影響が理解出来る。 □ に及びした影響が理解出来る。 □ に及びした影響が理解出来る。 □ に及びした影響が理解出来る。 □ にないするとはないないないないないないないないないないないないないないないないないないない
授業の ② アク: 授業計	ティブラー <u>:</u> 画	Yell   Control   Contr	情の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法の・ 学集・には、そのでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	末の試験についてきるの試験についてきるの点として置きまる点としの点とも回ぼ取得の点を以上を以上を対してでいた。となって、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	・前期末・後期中間・60点に達していた。 10点に達していた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、 2	まな世出 る と 週 1 2 3 4 5 6 7 上 8内 9来 1 0 . 年(版) 日本 (本) と 歴 中 十 身大 ル 宗 2 絶が ヨ・1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	まの試験を によい、かは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はいでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びブレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 」 実務経験のある教員による授業が理解出来る。 」 実務経験のある教員による授業が理解出来る。 」 とは及ぼした影響が理解出来る。 」とは及ぼした影響が理解出来る。 」とは及ぼした影響が理解出来る。 」の展開が理解出来る。 」の展開が理解出来る。 」の展開が理解出来る。 」の展開が理解出来る。 」の展開が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。 」の表が理解出来る。
授業の	ティブラー <u>:</u> 画	Yell	情の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価を関する。 ま・後期・学様期・学様の成実践 を検定の学業成基準である。 を受ける。 では、、ででは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、	まの試験についてきる。 さらの点とし回にという。 はなども回にという。 はなども回にという。 はなども回にといい。 には、他のは、他のは、他のは、他のは、他のは、他のは、他のは、他のは、他のは、他の	・前期末・後期中間・60点に達場では、10点に達りていた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、20点の場合 20点の場合	引な世出 いる と 週 1 2 3 4 5 6 7 上 8内 9来 1 0 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	まの試験を によい、かは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はにに、いないは、 はいでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は	の平均点で評価する。ただし、前期にをする。再試験の結果が60点を上しポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「歴史Ⅱ」の基礎となる。 「世界」の基礎となる。 「世界」の基礎となる。 「大きないでは、まず、は、まず、は、まず、は、まず、は、まず、は、まず、は、まず、は、まず
授業の ② アク: 授業計	ティブラー <u>:</u> 画	Yell   Control   Contr	情の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法の・関係・では、のでは、のででは、のででは、のででは、のででは、のででは、のでででは、のでででは、のでででは、のでででは、のでは、の	まの試験についてきるのは、とのは、とのは、とのは、とのは、とのは、とのは、とのは、とのは、とのは、と	・前期末・後期中間・60点に達場では、10点に達りていた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、20点の場合 20点の場合	まな世出 る と 週 1 2 3 4 5 6 7 上 8内 9来 1 0 1 1 内 では関わる と 歴 中 十 身 大 ル 宗 2 絶が ヨ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	またはに、かり、教のというでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 」 実務経験のある教員による授業 」 実務経験のある教員による授ま 」 といる「といるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといるといると
授業の ② アク: 授業計	ティブラー <u>:</u> 画	Yell   Control   Contr	情の評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法及び評価方法のでは、 様には、一般を開発している。 を関するでは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	まの試験についてきる。 さらなどを以上をいるにはでいる。 さらの点をし回に取得られる。 はなどを以上を少しに取得の。 にの識の範囲として関係のでは、 にでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	・前期末・後期中間・60点に達場では、10点に達りていた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、20点の場合 20点の場合	まな世出 る と 週 1 2 3 4 5 6 7 上 8 内 9来 1 0 1 1 内 2 2 3 4 5 6 7 上 8 内 9来 1 0 1 2 1 1 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	まに置い、的、教の史世字分航を教で対理して日市がアはにに、なく科理の対象をに軍制海サ改の美出ツに革解リカは試すれ、来後のでは、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	の平均点で評価する。ただし、前期でをする。再試験の結果が60点を上レポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 量に登別を関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる。 世に登別を表現である。 を表現では、また、というでは、また。 はに及ぼした影響が理解出来る。 はに及ぼした影響が理解出来る。 はに及ぼした影響が理解出来る。 のとは組みが理解出来る。 のとは、また、というでは、また。 のというでは、また、というでは、また。 を表現では、また。というでは、また。 を表現では、また。というでは、また。 を表現では、また。というでは、また。 を表現では、また。というでは、また。 を表現では、また。というでは、また。 は、また。というでは、また。というでは、また。 は、また。というでは、また。というでは、また。 は、また。というでは、また。というでは、また。というでは、また。 は、また。というでは、また。これは、また。というでは、また。これは、ま
授業の ② アク: 授業計	ティブラー <u>:</u> 画	Yell   Alia	情の評価方法のでは、 情の評価方法のでは、 を対して、でいます。 を対して、でいます。 を対して、でいます。 を対して、でいます。 を対して、でいます。 では、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	末の試験にして に	・前期末・後期中間・60点に達場では、10点に達りていた。 20点に達りていた。 20点の世界である。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界です。 20点の世界では、20点の場合 20点の場合	引な世出 いる と 週 1 2 3 4 5 6 7 上 8 内 9来 1 0 1 1 n 2 3 4 5 6 7 上 8 内 9来 1 1 の 1 2 3 1 1 3 1 1 3 1 3 1 1 3 1 3 1 1 3 1 3	またはにない。 教 型をに軍制 がア フートのははできない。 教 到をに軍制 海サ 改 7 主解ロートを展理 リーンス の 対理 ロート の で で で で で で で で で で で で で で で で で で	の平均点で評価する。ただし、前期にでする。再試験の結果が60点を上しポート及びプレゼン、あるいはも評価に加味する。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる材でである。 事に普段から関心を寄せておくことこ学習する「歴史Ⅱ」の基礎となる材では、 定業務経験のある教員による授いでは、 はに及ぼした影響が理解出来る。 はに及ぼした影響が理解出来る。 は他組みが理解出来る。 が後世に及ぼした影響が理解出来る。 の展開が理解出来る。 の展開が理解出来る。 のをが理解出来る。 を対理解出来る。 を対理解出来る。 を対理解出来る。 を対理解出来る。 を対理解出来る。 を対理解出来る。 を対理解出来る。 と組みとイギリスにおける絶対主義の もる封建制度の仕組みが理解出来る。 かは組みとイギリスにおける市民革命

		1週	産業革命1 産業革命とは?イギリス	の場合	15.産業革命の仕の内容が理解出来る	組みとイギリスにおける産業革命	
		2週	産業革命 2 ベルギーとフランスの場	合	16. ベルギー・フ 理解出来る.	ランスにおける産業革命の内容が	
		3週	産業革命 3 ドイツとアメリカの場合		17. ドイツ・アメ 解出来る.	リカにおける産業革命の内容が理	
	3rdQ	4週	産業革命4 ロシアと日本の場合		18. ロシア・日本 来る.	における産業革命の内容が理解出	
		5週	ヨーロッパ列強による植民地化1 オ	スマン帝国	19. 植民地の仕組 解出来る.	lみとオスマン帝国の植民地化が理	
		6週	ヨーロッパ列強による植民地化2 イ	ンド	20. インドの植民	地化が理解出来る.	
		7週	ヨーロッパ列強による植民地化3 東	南アジア	21. 東南アジアの	植民地化が理解出来る.	
後期		8週	後期中間試験		上記15~21の内	]容が理解出来る.	
122,73		9週	ヨーロッパ列強による植民地化4 中	国 1	22. 中国の植民地	化が理解出来る.	
		10週	ヨーロッパ列強による植民地化5 中	国 2	上記22に同じ、		
		11週	帝国主義1 帝国主義とは?イギリス	の場合	23. 帝国主義の仕の内容が理解出来る	組みとイギリスにおける帝国主義	
	4thO	12週	帝国主義 2 フランスとドイツの場合		24. フランス・ドイツにおける帝国主義の内容が理解出来る.		
	401Q	13週	帝国主義 3 ロシア・オーストリア・	イタリアの場合	25. ロシア・オーストリア・イタリアにおける帝国 主義の内容が理解出来る.		
		14週	帝国主義 4 アメリカの場合		26. アメリカにおける帝国主義の内容が理解出来る		
		15週	帝国主義 5 日本の場合		27. 日本における	帝国主義の内容が理解出来る.	
		16週	学年末試験		上記22~27の内	容が理解出来る.	
モデルニ	1アカリキ	ニュラムの	学習内容と到達目標				
分類		分野	学習内容 学習内容の到達目標			到達レベル 授業週	
評価割合	<u> </u>						
			試験	課題 (レポート ント・その他)	・プレゼン・プリ	合計	
総合評価害	   合		80	20		100	
配点			80	20		100	

鈴鹿	工業高等	5号门子位	交 開講年度 令和06年原	X (2027 <del>1</del> /X)	授業科目	現代社会 I
科目基礎	楚情報					
科目番号		0003		科目区分	一般 / 必修	<u> </u>
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位:	1
開設学科		機械工	学科	対象学年	1	
開設期		前期		週時間数	2	
教科書/教	材	『新地	理総合』(帝国書院)・『新詳高等	地図』(帝国書院)・プリ	ント	
担当教員		冨田 暁	表,藤野 月子			
到達目標	票					
1. 地理的 2. 事実の	的なものの の把握だけ	見方・考え にとどまら	方を習得できる. ず,様々な事象を地理的に考察する	Sことができる.		
ルーブリ	ノック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル	の目安	未到達レベルの目安
評価項目1	1		地理的なものの見方・考え方を く習得できる.	を深 地理的なものの見方 得できる.	・考え方を習	地理的なものの見方・考え方を深く習得できない.
平価項目2	2		様々な事象を地理的に深く考えることができる.	察す 様々な事象を地理的とができる.	こ考察するこ	様々な事象を地理的に深く考察することができない.
学科の発	到達目標	 項目とのI	 関係			
<u>。 </u> 教育方法		<u> </u>				
既要		また, うグロ えるこ	心を高める. 現代社会では一国のみで政治的・経 ーパル化・国際化が進展した時代認 とができるようにする. ての内容は学習・教育到達目標に対	にこれては、 これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	けではなく, <u>I</u> 域的な諸課題(	Eいに関係・影響し合っているとい こついて考え,その解決について考
受業の進む	め方・方法	・授業 ライン ・「授 ・地理	は講義形式で、行う、グループによ )での授業になった場合は,受講環 業計画」における各週の「到達目標 的な基本事項である,「地図投影法 分野については適宜説明を加える。	、る自己学習の時間も授業進 環境に応じた適切な授業方法 ミーはこの授業で、習得する	を用いる. 「知識・能力	に相当するものとする.
注意点		断する  になっ:  <単位(	. 成績不振者については再試または た場合は,その成績を60点として置 修得要件>学業成績で、60点以上を	は課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得する <i>こと</i> .	再試または課題	
	属性・履	断する ( く と ) と ( と ) と	. 成績不振者については再試または た場合は,その成績を60点として置 修得要件>学業成績で*60点以上を がし*め要求される基礎的事項>小 ども教材として随時利用するので, ' ートなと*>特になし. >教科書,地図帳,フ°リント,画 ことに努めること.	課題を課す.成績不審者が	再試または課題 9分野の知識, 項に広く関心を	<ul><li></li></ul>
受業の属	属性・履 <sup>1</sup> -ィブラー <u>:</u>	断に くる くる く と と と と と と が と に く 解 の に く 解 の と 解 の と 所 と が と が と に を に が と に に を に を に を に を に を に を に を に を に を	. 成績不振者については再試または た場合は,その成績を60点として置 修得要件>学業成績で*60点以上を がし*め要求される基礎的事項>小 ども教材として随時利用するので, ' ートなと*>特になし. >教科書,地図帳,フ°リント,画 ことに努めること.	課題を課す.成績不審者が	再試または課題 9分野の知識, 項に広く関心を	<ul><li></li></ul>
受業の属 3 アクテ		断に くる くる く と と と と と と が と に く 解 の に く 解 の と 解 の と 所 と が と が と に を に が と に に を に を に を に を に を に を に を に を に を	. 成績不振者については再試またはた場合は,その成績を60点として置き得要件>学業成績で、60点以上をかい、め要求される基礎的事項>小ども教材として随時利用するので,一トなと、>特になし、 >教書,地図帳,フ。リント,画にとに努めること。	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理は 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業	再試または課題 9分野の知識, 項に広く関心を	匪提出をおこなった結果が60点以上映像資料、新聞やテレビなどの二:     〒持つこと・     事象と事象の結び、付きについて理事。     □    □    □    □    □    □    □
受業の属 3 アクテ		断すな単のない。	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置 68得要件>学業成績で、60点以上を かい、め要求される基礎的事項>小 ども教材として随時利用するので、 ートなと、>特になし. >教科書、地図帳、プ。リント、画(ことに努めること.	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理! 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業/	再試または課題 対分野の知識, 項に広く関心を をするのて゛,	匪提出をおこなった結果が60点以上映像資料、新聞やテレビなどの二:     〒持つこと・     事象と事象の結び、付きについて理事。     □    □    □    □    □    □    □
受業の属 1 アクテ		断すな単のない。 く	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置 60倍以上を 8倍要件、学業成績で、60点以上を かし、め要求される基礎的事項シ小 ども教材として随時利用するので、 トトなと、>特になし、 対書、地図帳、プ。リント、画のことに努めること.  プ ICT 利用  授業内容	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理! 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応	再試または課題 対分野の知識,項に広く関心を をするのて、,	<ul><li>●提出をおこなった結果が60点以上映像資料,新聞やテレビなどの二:至持つこと。</li><li>事象と事象の結び、付きについて基</li><li>□ 実務経験のある教員による授業</li></ul>
受業の原 1 アクテ		断すな単あスレ備す の 上 グ 週 1 週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置 60点以上を 60点以上を 50点以上を かし、 か要求される基礎的事項 > 小 ども教材として随時利用するので、 トなと、 > 特になし. > 教書、 地図帳、 フ。 リント、 画(ことに努めること. 分	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 週2 ぶこととは?	再試または課題 対分野の知識, 項に広く関心を をするのて、, でとの到達目標 地理を学ぶ意	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま を持つこと。  事象と事象の結び、付きについて  □ 実務経験のある教員による授  義が理解できる。
受業の原 1 アクテ		断すな単あスレ備す の と	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件>学業成績で60点として置き得要件>学業成績で60点以上をかい。め要求される基礎的事項>小ども教材として随時利用するので、ハートなと、>特になし、>教科書、地図帳、フ。リント、画のことに努めること・分  ② ICT 利用  授業内容  オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 過ご ぶこととは? 1.	再試または課題の分野の知識,項に広く関心を であるので、, できるので、, できるので、, できるので、, できるので、, できるので、,	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料、新聞やテレビなどの二まま持つこと。  事象と事象の結び、付きについて理  □ 実務経験のある教員による授業  義が理解できる。  徴的な地理と時差が理解できる。
受業の原 1 アクテ		断にママーママー では、	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件、学業成績で、60点以上でかい、め要求される基礎的事項>小ども教材として随時利用するので、一トなと、>特になし、>教科書、地図帳、フ。リント、画でとに努めること・分  図 ICT 利用  授業内容 オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差 様々な地図投影法	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理! 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業・ 図 遠隔授業対応 週2 ぶこととは? 1.	再試または課題 対分野の知識, 項に広く関心を をするのて、, でするので、, ではの到達目標 地理を学ぶ意 世界各地の特 地図投影法が	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料、新聞やテレビなどの二元持つこと。  事象と事象の結び、付きについて到しまる経験のある教員による授業  養が理解できる。  世解できる。  理解できる。
受業の原 1 アクテ		断すな単あスレ備するつ位らな小者る 区グイマーマ (を) とり は 1 週 週 3 週 4 週 4 週 4 週 4 週 4 週 4 週 4 週 4 週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件>学業成績で60点として置き得要件>学業成績で60点以上をかい。 め要求される基礎的事項>小ども教材として随時利用するので、一トなと、>特になし、>教科書、地図帳、フ。リント、画位とに努めること・分  ② ICT 利用  授業内容  オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 事得すること. ・中学校で、学習した地理! 普段から授業に関連した事像・映像資料を用いて授業を 図 遠隔授業対応  過ごできます。	再試または課題 対分野の知識, 項に広く関心を をするのて、, ではなるので、, ではなるので、, ではないでは、 地理を学ぶ意 世界各地の特 地図を読み取 地図を読み取	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料,新聞やテレビなどの二ま持つこと。 事象と事象の結び、付きについて  □ 実務経験のある教員による授  義が理解できる。  徴的な地理と時差が理解できる。  理解できる。  ることができる。
受業の原 1 アクテ	ゴーニョーニョーニョー	断すな単あスレ備す の と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と か と か	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件、学業成績で、60点以上をかいし、め要求される基礎的事項シ小ども教材として随時利用するので、一トなど、>特になし、>教書、地図帳、プ。リント、画のことに努めること・分  図 ICT 利用  授業内容  オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差 様々な地図投影法  地形図の読み取り  地理的視野の拡大	課題を課す.成績不審者が 置き換える. 事得すること. ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業・ 図 遠隔授業対応 過ご ぶこととは? 1. 2. 3. 4. 5.	再試または課題の対象の知識,項に広く関心をするので、, でするので、, でするので、, でするので、, では理を学ぶも、 世理を学ぶの特地図を読み取地理の歴史的	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料,新聞やテレビなどの二ま持つこと。  事象と事象の結び、付きについて野会は、 ま務経験のある教員による授い。  養が理解できる。  徴的な地理と時差が理解できる。  理解できる。  な展開が理解できる。  な展開が理解できる。
受業の属 1 アクテ	ゴーニョーニョーニョー	断すな単あスレ備す の と 一 マ く解 の	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点以上を  を得要件、学業成績で、60点以上を  かい、め要求される基礎的事項 > 小 ども教材として随時利用するので、 ・ トなど、 > 特になし、 > 教書、地図帳、フ。リント、画の ことに努めること・  分  図 ICT 利用  授業内容  オリエンテーション 地理を学ぶ 地球と時差 様々な地図投影法  地形図の読み取り  地理的視野の拡大  国家と領域	課題を課す. 成績不審者が 置き換える. 事得すること. ・中学校で、学習した地理は 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業・ 図 遠隔授業対応  ぶこととは?  1. 2. 3. 4. 5. 6.	再試または課題の分野の知識,項に広く関心をするので、, でとの到達目標地理を学ぶので、, 地理を学ぶの特地図投影法が 地図を読み取地理の歴史的 国家や国境が	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料、新聞やテレビなどの二ま持つこと。  事象と事象の結び、付きについて理  □ 実務経験のある教員による授業  養が理解できる。  徴的な地理と時差が理解できる。  理解できる。  ることができる。  な展開が理解できる。  理解できる。  理解できる。
受業の原 1 アクテ	ゴーニョーニョーニョー	断すな単あスレ備す の と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と が と と か と か	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件、学業成績で、60点以上をかいし、め要求される基礎的事項シ小ども教材として随時利用するので、一トなど、>特になし、>教書、地図帳、プ。リント、画のことに努めること・分  図 ICT 利用  授業内容  オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差 様々な地図投影法  地形図の読み取り  地理的視野の拡大	課題を課す. 成績不審者が 置き換える. 取得すること. ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 3. 4. 5. 6. 7. 上記	再試または課題の分野の知識,項に広く関心をきするので、,位との到達目標を出ている。世界各地の特地図を読み取地図を読み取地理の歴史の、国家や知える。	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料,新聞やテレビなどの二ま持つこと。  事象と事象の結び、付きについて野田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
受業の原 <i>アクテ</i> 受業計画	ゴーニョーニョーニョー	断にママーママ解 の 上グ 週 1週 週 3週 4週 5週 7週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件、学業成績で、60点以上でいい。 か要求される基礎的事項 > 小ども教材として随時利用するので、一トなと、 > 特になし、 > 教科書、地図帳、フ。リント、画のでとに努めること・分	課題を課す. 成績不審者が置き換える. 調けまること. ・中学校で、学習した地理は普段から授業に関連した事像・映像資料を用いて授業を	再試または課場 対分野の知識, 項に広く関心を きするので、, でとの到達目標 世界各地図を読み取 地理を歴史がが、 地図を読み取 地理の歴史がが、 国家やが抱える。 は、できる。	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま持つこと。 事象と事象の結び、付きについて  □ 実務経験のある教員による授業  養が理解できる。 徴的な地理と時差が理解できる。 理解できる。 ることができる。 な展開が理解できる。 には、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の
受業の原図 アクテ	ゴーニョーニョーニョー	断にママーママ解の 上グ 週週週週週週 3週週週 5週 7週 8週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件、学業成績で、60点以上でかい。 か要求される基礎的事項 > 小ども教材として随時利用するので、一トなと、 > 特になし. > 教科書、地図帳、フ。リント、画のことに努めること. 分	課題を課す. 成績不審者が 置き換える。 取得すること。 ・中学校で、学習した地理は 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業・ 図 遠隔授業対応	再試または課場 対分野の知識, 項に広く関心を できるので、, できるので、, できるので、, できるので、, が中では、 地理を学がのででは、 地理を関を表したが、 地理のを歴史的が、 地理のを歴史的が、 国家をが抱える。 は、これでできる。 2年生で訪れ	歴史出をおこなった結果が60点以上映像資料、新聞やテレビなどの二ま持つこと。  事象と事象の結び、付きについて理  □ 実務経験のある教員による授業  養が理解できる。  徴的な地理と時差が理解できる。  理解できる。  ることができる。  な展開が理解できる。  理解できる。  理解できる。
受業の原 2 アクテ 受業計画	ゴーニョーニョーニョー	断にママーママ解の 上グ 週 12週 3週 4週 5週 7週 8週 9週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件>学業成績で60点以上の事項>小とも教材として随時利用するので、一トなと、>特になし、>教科書、地図帳、フ。リント、画のことに努めること・分分 図 ICT 利用 授業内容 オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差様々な地図投影法地形図の読み取り地理的視野の拡大国家と領域 日本の領土問題 中間試験 京都の地理	課題を課す.成績不審者が 置き換える。 取得すること。 ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 3. 4. 5. 6. 7. 上記さる。 8. 9. 理算	再試または課題の野の知識、可以によりの知識のでは、 はまままでは、 はままままままままままままままままままままままままままま	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま を持つこと。 事象と事象の結び、付きについて 事象と事象の結び、付きについて  実務経験のある教員による授  のは、実務経験のある教員による授  のは、実務経験のある教員による授  のは、実務経験のある教員による授  のは、実務経験のある教員による授  のは、まできる。  のは、表情が理解できる。  のは、まずない。  まずない。  のは、まずない。  まずない。  まずない。  まずない。  まずない。  まずない。  まずない。  まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。 まずない。まずない。まずない。まずない。まずない。まずない。まずない。まずない。
受業の原 2 アクテ 受業計画	ゴーニョーニョーニョー	断にママーママ解の 上グ 週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績を60点として置き得要件、学業成績で60点として置き得要件、学業成績で60点以上小りとも教材として随時利用するので、一トなと、当時になし、当時にない。 対し、	課題を課す.成績不審者が 置き換える。 取得すること。 ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 3. 4. 5. 6. 7. 上記さる。	再試または課場 対分野の知識、な 項によるので、、 でとの型を対し、 地理を関係を表し、 地理を関係を表し、 地理を関係を表し、 地理ののでは、のでは、のでは、のできる。 は、では、のでは、では、のでは、のできる。 では、のでは、のでは、のできる。 では、のでは、のでは、のできる。 では、のでは、のでは、のできる。 では、のでは、のでは、のでは、のできない。 は、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、ので	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま持つこと。 事象と事象の結び、付きについて理  「実務経験のある教員による授業  養が理解できる。 とができる。 とができる。 な展開が理解できる。 理解できる。 のことができる。 は、日題が理解できる。 までの学習内容を理解し、説明する。 る京都の歴史的な地理が理解できる。 の出身国が多い東南アジアの地理か
受業の原 <i>アクテ</i> 受業計画	コ コ コstQ	断にママーママ解の 上グ 週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績で60点以上ででき得要件、学業成績で60点以上小りとも教材として随時利用するので、一ト科書、地図帳、フ。リント、画のことに努めること・分 ② ICT 利用  授業内容 オリエンテーション 地理を学ぶ地球と時差様々な地図投影法地形図の読み取り地理的視野の拡大 国家と領域日本の領土問題中間試験 京都の地理 東南アジアの地理 ヨーロッパの地理	課題を課す.成績不審者が 置き換える。 取得すること。 ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 ② 遠隔授業対応 3. 4. 5. 6. 7. 上記さる。 8. 9. 9. 9. 9.	再試または課場 対分野の人間では、 項によって、、、 でとの理を学の知識が、、 でとの理を学ののででは、では、では、ののでは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま持つこと。 事象と事象の結び、付きについて野田・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
受業の原 <i>アクテ</i> 受業計画	コ コ コstQ	断にママーママ に で で で で で で で で で で で で で で で で で で	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績で60点と以上を多得要件、学業成績で60点と以上をかいし、必要求される基礎的事項と小いとも教材として随時利用するので、一本科書、地図帳、フ。リント、画がった。一本科書、地図帳、フ。リント、画がった。一本科書、地図帳が、サロック・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・カー・	課題を課す.成績不審者が 置き換える。 取得すること。 ・中学校で、学習した地理 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 3. 4. 5. 6. 7. 上記さ 8. 9. 理期	再試または課場の分になって、	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二記 を持つこと。 事象と事象の結び、付きについて  実務経験のある教員による授  護が理解できる。 微的な地理と時差が理解できる。 理解できる。 ることができる。 な展開が理解できる。 健解できる。 のことができる。 までの学習内容を理解し、説明する る京都の歴史的な地理が理解できる。 の出身国が多い東南アジアの地理が 訪れるヨーロッパの地理が理解できる。 あれるアメリカの地理が理解できる。 またが、おきたが、おきたが、おきたが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、またが、ま
受業の属	コ コ コstQ	断にママーママ解の 上グ 週週2週3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週 3週	. 成績不振者については再試またはた場合は、その成績で60点と以上を多得要件、学業成績で60点と以上をかいし、参数なとして随時利用するので、さも教材として随時利用するので、一ト科書、地図帳、フ。リント、画のとに努めること・分	課題を課す.成績不審者が置き換える. 動き換える. ・中学校で、学習した地理は 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業 図 遠隔授業対応 3. 4. 5. 6. 7. 上記さる。 8. 9. 理角 1. 2.	再試または課場の分になって、	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま 対力こと。 事象と事象の結び、付きについて 実務経験のある教員による授 護が理解できる。 徴的な地理と時差が理解できる。 理解できる。 ることができる。 な展開が理解できる。 は展開が理解できる。 できる。 なを関が理解できる。 はまずの学習内容を理解し、説明する る京都の歴史的な地理が理解できる。 の出身国が多い東南アジアの地理が 訪れるヨーロッパの地理が理解できる。 あれるアメリカの地理が理解できる。 はる中国の地理が理解できる。 れる中国の地理が理解できる。 れる中国の地理が理解できる。 れる中国の地理が理解できる。 れる中国の地理が理解できる。 れる中国の地理が理解できる。
受業の原 2 アクテ 受業計画	コ コ コstQ	断にママーママ解の 上グ 週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週週	. 成場不振者については再試またはた場合は、その成績で60点点以入から得要件、学業成績で60点以入からも教材として随時利用するので、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでで、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、一人計画が20点のでは、1点には、1点には、1点には、1点には、1点には、1点には、1点には、1点に	課題を課す.成績不審者が置き換える. 動き換える. ・中学校で、学習した地理は 普段から授業に関連した事 像・映像資料を用いて授業・ 図 遠隔授業対応	再試または課場の分にでするのででは、	歴史の表示である。  歴史の表示を表示である。  歴史を表示できる。  「世解できる。  「世解できる。  「世解できる。  「世解できる。  「な展開が理解できる。  「は、とができる。  「な展開が理解できる。  「は、とができる。  「な、な展開が理解できる。  「は、とができる。  「な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な、な
受業の原図アクテー・受業計画	コstQ 2ndQ	断にママーママ	. 成績不振者については再試またはた場合は、大場では、、その成績で60点点と以上で多りでも教材とです。 対し、	課題を課す、成績不審者が 置き換える。 ・中学校で、学習した地理 ・中学校で、学習した地理 ・中学校で、学習した地理 ・中学校で、学習した地理 ・中学校で、学習した地理 ・中学校で、学習した地理 ・中学校で、学習した地理 ・ は で	再試 野点 では 世地地地国日 は からに るので 単地地地国日 は がって の理界図図理家本~で年 校き国 国 国 2 我 地 で 2 年 校 で 2 年 が 形 の で で で が 形 の が るれ れ 生 で で で 訪 活 形 の の で で い か の の の の の の の の の の の の の の の の の の	歴史出をおこなった結果が60点以上 映像資料,新聞やテレビなどの二ま 対力こと。 事象と事象の結び、付きについて 事象と事象の結び、付きについて 実務経験のある教員による授  護が理解できる。 とができる。 な展開が理解できる。 は異解できる。 は異解できる。 は異解できる。 な展開が理解できる。 はまり題が理解できる。 までの学習内容を理解し、説明する る京都の歴史的な地理が理解できる。 の出身国が多い東南アジアの地理が 訪れるヨーロッパの地理が理解できる。 はる中国の地理が理解できる。 する三重県の地理が理解できる。 する三重県の地理が理解できる。 する三重県の地理が理解できる。  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

	試験	課題 (小テスト・プリント・その他)	合計
総合評価割合	80	20	100
配点	80	20	100

如庇.	L業高等専門:	≥校	開講年度	令和06年度(	2024年度)	授業科目	英語 I B
科目基礎	情報						
科目番号	000	5			科目区分	一般 / 必	·修
受業形態	授業				単位の種別と単位	数 履修単位	ː: 2
開設学科	機柄	工学科			対象学年	1	
開設期	通年				週時間数	2	
教科書/教林	教科 生の	,			n I』(Workbook等a 技術英語ハンドブッ	含む)(開隆堂 ク』(日本工業	》)参考書:『COCET2600 -理工系学 (英語協会)
旦当教員	古野	百合					
到達目標							
	, 文化などに関す を身につける.	る英文の	D内容を理解する	5読解力・聴解力,	内容に関する質問に	答えたりできる	3日本語および英語でのコミュニケー
ルーブリ	ック						
		3	理想的な到達レイ	ベルの目安	標準的な到達レベ	ルの目安	未到達レベルの目安
評価項目 1			習得間では 関係で で手 は で 手 は で に な に を が に を し し し に に た し に れ し る し る し る し る し る し る し る し る し る し ま は も の も は も の も は も も も も も も も も も も も も も	で既習の語彙や文 情を図り, 高等学 こ準じた新出語彙 及び専門教育に 専門用語を習得し	英語の ・ では ・ でき ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で	るよりでいた。というでは、からなりでは、からなりでは、からなる。ないないでは、からないないでは、からないないでは、からないないでは、からないないでは、からないないでは、からないでは、いっしゃくないでは、ないでは、いっしゃくないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これではないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	膜で聞き手に伝わるように、句・ でにおける基本的なリズながりにかって トネーション・手に伝わなように人やく配 ・
T. 日, り必のる 10 3 本を情を者め			りと と と な 情 を 者 を も に は に に に に に に に に に に に に に	になった。 上の速度できない。 でもそとできまができませい。 でもそとでできるというでではできるでででできるでででででででででででででででででででいる。 できながでででできるだいのででは、これでいるとでできない。 できないででは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、こ	日本 日	からないでは、これでは、これでは、これでは、これの説明程にある。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	りとした発音で話されたものから容明とした発音で話さりない。 お要な情報を聞きとできない。 を把握などでき分100ようなでは、 を把握などでは、 を把握などでは、 を記述された文章を伝わという。 を記述された文章を記みよいのできた。 できない。 を記述された文章な情報をきな概し、 でという。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、
評価項目3		; ; ;	を払い, その違い容さが必要であるがら, その国の信条、価値観なる	文化や歴史に敬意いを受け入れる寛かを受け入れる寛まることを認識しないを活習慣やのな事象とと関連付けて説ができる.	それぞれの国の文を払い、その違い容さが必要である。がら、その国の生に信条を、付けている。 できる できる できる がら、 できる できる できる かいます できる かい しょう はい	を受け入れる寛 ことを認識しな 舌習慣や宗教的 の基本的な事象 と関連付けて説	<ul><li>を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識しながら、その国の生活習慣や宗教的は、信条、価値観などの基本的な事象</li></ul>
学科の到	達目標項目と	の関係		_			
教育方法	 等						
既要	中学						こりする能力を養うとともに,異文化 ようとする態度を育てる.
受業の進め	) ) ] [J	.C) <ቓ	5語>に対応する	٠.			存作文を通して英語で自分の意見を表 学習・教育到達目標(A)<視野>およ 当するものとする
「授業計画」における「到達目標」は、この授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする  <到達目標の評価方法と基準>「授業計画」の「到達目標」の達成度の確認を中間試験、期末試験で行い、提出課題 テスト等による確認と合わせて総合評価する、評価結果が60点以上の場合に目標の達成とする。 <学業成績の評価方法及び評価基準>前期中間・前期末・後期中間・学年末の試験結果を60%、授業中に行う小テス び提出課題の結果を40%としてそれぞれの学期毎に評価し、これらの平均値を最終評価とする。但し、定期試験には て60点に達していない学生については再試験を行うことがあり、60点を上限としてそれぞれの試験の成績に置き換え ものとする。 <単位修得要件>学業成績で60点以上を取得すること。 <あらかじめ要求される基礎知識の範囲>中学校3年間で学習した英単語,熟語、英文法の知識。 <レポートなど>授業に関連した・テストおよび課題(問題演習、英作文など)を課す。 <備考>本科目は英語 II Aおよび英語 II Bの基礎となるものである。教科書英文の音読を含めた予習をし、積極的に対 に参加すること。授業には必ず英和辞典(電子辞書、辞書アプリも可)を用意すること。							
授業の属	性・履修上の	<u>区分</u>					
7 7/=	ィブラーニング		☑ ICT 利用		☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
<u> </u>					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
u 7.772							

週ごとの到達目標

週

授業内容

_				
		1週	ガイダンス(授業の概要,効果的な学習の進め方,辞書の活用法など) Lesson 1 The Amazing Scenery (1)	〈英語連用能力〉 1.「授業内容」に示した教科書の英文の内容が理解できる。 2.英文の内容に関して簡単な質疑応答が英語でできる。 3.教科書の英文に使用されている英単語・熟語の意味を理解し、使用できる。 4.既習の英語表現を使用し、基本的な英文が作成できる。 4.既習の英語表現を使用し、基本的な英文が作成できる。 《文法に関する理解》 5.5文型が理解できる。 6.SVO(that節), 比較級と最上級が理解できる。 7.現在完了、過去完了が理解できる。 8.助動詞、受動態、助動詞+受動態が理解できる。 9.動名詞、不定詞、形式主語が理解できる。 10.分詞の後置修飾、知覚動詞、使役動詞が理解できる。 11.関係代名詞が理解できる。 12.前置詞+関係代名詞、関係副詞、非制限用法が理解できる。 13.条件を表す副詞節、仮定法過去、仮定法過去完了が理解できる。 14.関係代名詞what、強調構文、分詞構文が理解できる。 (4.関係代名詞what、強調構文、分詞構文が理解できる。 (4.関係代名詞what、強調構文、分詞構文が理解できる。
	1stQ	2週	Lesson 1 The Amazing Scenery (2)	15.500語レベルの英語語彙の意味が理解できる. 上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解〉5 〈語彙力〉15
		3週	Lesson 1 The Amazing Scenery (3)	上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解>5 〈語彙力>15
		4週	Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate (1)	上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解>6 〈語彙力>15
前期		5週	Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate (2)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>6 <語彙力>15
		6週	Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate (3)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>6 <語彙力>15
		7週	Lesson 3 The Scecrets of Top Athletes (1)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>7 <語彙力>15
		8週	中間試験	これまでの授業の内容が理解できる.
		9週	中間試験の振り返り Lesson 3 The Scecrets of Top Athletes (2)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>7 <語彙力>15
		10週	Lesson 3 The Scecrets of Top Athletes (3)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>7 <語彙力>15
		11週	Lesson 4 Evolving Airplanes (1)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>8 <語彙力>15
	2ndQ	12週	Lesson 4 Evolving Airplanes (2)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>8 <語彙力>15
		13週	Lesson 4 Evolving Airplanes (3)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>8 <語彙力>15
		14週	Lesson 5 The Symbol of Peace (1)	上記のうち <英語運用能力>1〜4 <文法に関する理解>9 <語彙力>15
		15週	Lesson 5 The Symbol of Peace (2)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>9 <語彙力>15
		16週	前期末試験	これまでの授業の内容が理解できる.
後期	3rdQ	1週	前期試験の振り返り Lesson 6 Serendipity (1)	上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解>10 〈語彙力>15

		2週		Lesso	on 6 Serendi	pity (2)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>10 <語彙力>15			
		3週		Lesso	on 6 Serendi	pity (3)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>10 <語彙力>15			
		4週	週 Lesso (1)		on 7 The Sec	crets Hidden in Vermeer's Works	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>11 <語彙力>15			
		5週		Lesso (2)	on 7 The Sec	crets Hidden in Vermeer's Works	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>11 <語彙力>15			
		1616		Lesso (3)	on 7 The Sec	crets Hidden in Vermeer's Works	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>11 <語彙力>15			
		7週		Lesso	on 6 および I	Lesson 7 の復習	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>15~1 <語彙力>23	8		
		8週		中間語	<b>式験</b>		これまでの授業の内容が理解	できる.		
		9週			式験の振り返 on 8 Endang	O ered Species in the World (1)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>12 <語彙力>15			
		10週	]	Lesson 8 Endang		ered Species in the World (2)	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>12 <語彙力>15			
		11週	11週 Less		on 8 Endang	ered Species in the World (3)	上記のうち 			
	4thQ	12週	D週 Lesso		esson 9 The Dream of Special Makeup (1)		上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解>13 〈語彙力>15			
		13週		Lesso	on 9 The Dre	eam of Special Makeup (2)	上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解>13 〈語彙力>15			
				Lesson 9 The Dre		eam of Special Makeup (3)	上記のうち 〈英語運用能力>1~4 〈文法に関する理解>13 〈語彙力>15			
		15週	1	Lesso	on 8 および I	Lesson 9 の復習	上記のうち <英語運用能力>1~4 <文法に関する理解>12,13 <語彙力>15	3		
		16逓	]	学年末	に 試験		これまでの授業の内容が理解	できる.		
モデルコ	アカリキ	-ユラ	ムの	学習	内容と到達			· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
分類	·		分野		学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
					<del>-</del>	聞き手に正しく伝わるよう、語・句 るリズム・イントネーション、音の がら明瞭に音読あるいは発話できる	つながり・区切りを意識しな		- · · · <del>-</del>	
						中学校までに学習した語彙の定着を じた新出語彙、及び専門教育に必要 運用できる。	となる語彙を習得して適切に	2		
						中学校までに学習した文構造及び文 指導要領に準じた文構造及び文法事 用できる。 日常的な話題や社会的な話題につい	項について習得して適切に運 	2		
	1 -4-41 ^	IN				調整された速さで話された内容から   し手の意図を把握できる。	、必要な情報を聞き取り、話	2		
基礎的能力	人文社会 学	<b>[科</b> ]	英語		英語	日常的な話題や社会的な話題につい 情報や考え、気持ちなどを話すこと:	ができる。	2		
						日常的な話題や社会的な話題につい を読み、その概要を把握して必要な 図、概要や要点を把握できる。	に十ある火台で青かれに火草 情報を読み取り、書き手の意	2		
						日常的な話題や社会的な話題につい し、情報や考え、気持ちなどを伝え	て、自分の意見や感想を整理 る文章を書くことができる。	2		
						母国以外の言語や文化を理解しよう 面で積極的にコミュニケーションを	 とする姿勢を持ち、実際の場 図ることができる。	2		
						実際の場面や目的に応じて、基本的(ジェスチャー、アイコンタクト)		2		
評価割合	1					1-		1		

	定期試験	課題等	合計
総合評価割合	60	40	100
配点	60	40	100

科目基礎情報	0006		NDEA	ti⊓ / シ//s	7		
科目番号 受業形態	0006 授業		科目区分 単位の種別と単位数	一般 / 必修 履修単位:			
製業が <u>認</u> 引設学科	機械工学科	1	対象学年	1	2		
引設期 引設期	通年		週時間数	2			
数科書/教材		ステップアップ高校スポーツ(大修					
	宝来 毅						
列達目標	]識・態度を育む		終達を促すとともに,生涯	を通じて運動	動を楽しむことができる		
<u> </u>		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの	 目安	未到達レベルの目安		
平価項目 1		スポーツを通じて,しまいできる。 自身の立場に照らの応が表見 できる・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ストラック はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます はいます	囲自行,をの内ら動 のら動リ認発で,を 状のを一識揮の適促 い考とダしの相切す とえるー 際談なこ	スポーツを通じて、 周囲の状況と 自身の立場に照らし、 同目のの考え で責任を持ってい、 そいできるとう できべき行動や役割を発揮の には情報収集やチームがら、 適切 には情報収集を理解しながら、 適切 方向性に沿った協調行動を促す ととでき近い、 保健を通じて、 目標の実現に向け てき通じて、 目標の実現に向け てき面ができない.		
評価項目 2		スポーラッをでして、 ス・共一なが、 ボーマることのもで、 ・ 大・ の自ら上ででいます。 、 では、 ・ 大・ の自らにでいます。 ・ は、 発・ の自らにでいます。 ・ は、 発・ の自らにでいます。 ・ は、 発・ のをできます。 ・ は、 発・ のでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	スポーツを通じて、美・ので協調。 ・世のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいでは、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいて、一人のおいでは、一人のよいでは、一人のよいに、一人のよいに、一人のよいに、一人のよいには、一人のよいは、一人のよりは、一人の		スポーツを通じて、美・大一ムで協認 ・共同・メング、大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・大・		
平価項目 3		スポーツを通じて, 目標の実現に 向けて計画を立て, 日常の生活に おける時間管理, 健康管理などを 行いながら, その実現に向けて自 らを律した行動の応用ができる. 保健を通じて, 日常の生活におけ る時間管理, 健康管理などの応用 ができる.	スポーツを通じて,目標の実現に向けて計画を立て,日常の生活における時間管理,健康管理などを行いながら,その実現に向けて自らを律して行動ができる。保健を通じて,日常の生活における時間管理,健康管理などの応用ができる。		スポーツを通じて,目標の実現に向けて計画を立て,日常の生活における時間管理,健康管理などを行いながら,その実現に向けて自らを律して行動ができない.保健を通じて,日常の生活における時間管理,健康管理などができない.		
学科の到達目標	項目との関係	1	1,0 000.		10.0		
<u></u>							
观要	を自覚し, を高め, 心 保健 「保健」σ	望じて,基本的な運動能力の向上と基チームの力量に応じた練習やゲームの身の健全な発達を促す。 対象では,現代社会の健康,生涯を対り、集団の健康を高めることに寄生	ができるようにする. ま と通じる健康, 集団の生活	た,実践する	ることによって活動的で豊かな生活		
受業の進め方・方法	授業は保健 「授業計画	内容は, 学習・教育到達目標(A) < 【(座学)と体育実技(実技)を同時 [] における各週の「到達目標」はこ	間内に行う.	:・能力」に相	当するものとする		
注意点	9 0 分付まる 9 1 次	「方法により60点以上取得すること め要求される基礎知識の範囲> 「期) バスケットボール,(後期) 阜校で学んだ保健の内容及び一般常調	、保健30%及び体育実技 実施の可不可により、実 全 全 連球について、競技上のル は	を 70%を 合わ を	せて総合的に評価する。ただし、常容や授業形態が変更になる可能性が でである可能性が変更になる可能性が に学習し、覚えておくこと。		
 受業の属性・履	•		2 3 11-730 6100711	. prives CD/ 3			
		☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応				
〕アクティブラー							

				T
		1週	実技:ガイダンス (体操服の着用マナー,授業の集合について,体育館シューズの記名) 保健:運動・休養と健康	実技:体育実技の授業の流れについて知る.体操服・体育館シューズを使用する際のルールを知る 前期の 授業の流れについて理解できる 保健:健康からみた運動の意義について正しく理解す ることができる
		2週	スポーツテスト	協力し合って基本データを計測できる
		3週	スポーツテスト	協力し合って基本データを計測できる
		4週	スポーツテスト	協力し合って基本データを計測できる
	1stQ	5週	実技:バスケットボール (ルール,基本動作,ドリブル) 保健:交通事故について	実技:ルールを理解することができる.ボールを正確にドリブルすることができる 保健:交通事故が身近で危険である事を知り,自転車通学に対する安全意識を向上できる
		6週	実技: バスケットボール(ドリブル, パス, フリースロー) 保健: 応急手当について(1)	実技:ボールを正確にドリブルすることができる. フリースローを打つことができる. 相手に正確にパスができる 保健: 応急手当についての知識・方法を正しく理解することができる
		7週	実技:バスケットボール(ドリブル,レイアップ) 保健:応急手当について(2)	実技:ボールを正確にドリブルすることができる.レイアップ動作ができる. 保健: 応急手当についての知識・方法を正しく理解することができる
前期		8週	実技:バスケットボール (攻守の動き) 保健:熱中症について	実技: これまでにやってきた内容を発揮できる 保健: 熱中症についての知識・対処方法を正しく理解 することができる
		9週	実技:バスケットボール(練習試合) 保健:健康の考え方と成り立ち・私たちの	実技:取り組んできた内容が試合で出せる 保健:「健康」とは何か,ということについて,自分なりの考えを持ち,心身共に健康に過ごすための知識 を身につけることができる.また,健康に過ごすため に自分ではどのよ うな行動をするべきか考える事ができる.
		10週	実技:バスケットボール(リーグ試合) 保健:生活習慣病とその予防	実技:試合の運営ができる 保健:生活習慣病に対する正しい知識を持ち,日常生活において,食事,運動,休養などの面から生活習慣病の予防に役立つ知識を身につけることができる
	2ndQ	11週	実技:バスケットボール(リーグ試合) 保健:食事と健康	実技: 試合の運営ができる 保健: 健康的な食生活の重要性と意義について理解で きる.
		12週	実技:バスケットボール (リーグ試合) 保健:実施しない	実技:試合の運営ができる
		13週	実技 : バスケットボール(技術テスト)  保健 : 実施しない	実技:試合の運営ができる
		14週	実技:バスケットボール(技術テスト・リーグ) 保健:実施しない	実技: これまで練習してきたバスケットボールに関する動きを表現する事ができる
		15週 16週	まとめ	前期の反省・まとめを行う
		1週	体育祭の種目練習	実技:協力して運営することができる
		2週	体育祭に振替	実技:積極的に参加することができる
		3週	実技:卓球(基本の打ち方1)保健:喫煙と健康	実技:ラケットの持ち方・打ち方を理解できる 保健:喫煙が健康に及ぼす影響について正しく理解す ることができる
		4週	実技:卓球 (基本の打ち方2) 保健:飲酒と健康	実技:サーブ動作ができるようになる 保健:飲酒が健康に及ぼす影響について正しく理解することができる
	3rdQ	5週	実技:卓球(基本の打ち方3) 保健:薬物乱用と健康	実技:継続してラリーをすることができる 保健:薬物乱用が健康に及ぼす影響について正しく理 解することができる
	3.44	6週	実技:卓球(基本の打ち方4) 保健:精神疾患の特徴と予防	実技:サーブからラリーまでをスムーズに行う事ができる 保健:精神疾患に関する特徴を把握し、それに対する 予防について正しく理解することができる
後期		7週	実技:卓球(基本の打ち方5) 保健:現代の感染症とその予防	実技:様々な打ち方を理解できる  保健:薬物乱用が健康に及ぼす影響について正しく理  解することができる
		8週	実技:卓球(練習及び練習試合) 保健:欲求・心身相関・ストレス	実技:卓球の基本打ちが理解できる 試合の流れが理解できる 保健:欲求・心身相関・ストレスについて正しく理解し、うまくコントロールする方法を探究することができる
		9週	実技:持久走 保健:実施しない	実技: 2000m走を走りきることができる
		10週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
	4+50	11週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
	4thQ	12週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
		13週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる
		14週	実技:卓球(試合) 保健:実施しない	実技:リーグ戦を行い,結果をまとめることができる

	15週	まとめ			1年間の反省・ 欲を高める	まとめを行い,	次年度の体	育に対する意	
	16週								
モデルコア	モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週					授業週	
評価割合									
	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計	t	
総合評価割合	70	0	0	30	0	0	100	)	
配点	70	0	0	30	0	0	100	)	

	工業高等	<b>車門</b> 学校	開講年度 令和06年度 (2	 2024年度\	授業科目				
科目基礎		אי ננו <del>נד</del>	、	2027-12)	JX <del>X</del> 11U	四四1八			
竹日基版 科目番号	KE IFIFIX	0007		科目区分		夕			
2000年 1000年		授業		単位の種別と単位		履修単位: 2			
安美形態 開設学科			<b>∀</b> ₹\\	単位の種別と単位   対象学年					
用政子科 開設期		通年	F/ <del>1</del>	週時間数	2				
用政州		<del></del>	, 「喜笑学技、 言語文化」 (物斑山脂)	<sub>   廻时间数</sub> ,「高等学校 現代					
教科書/教	(材 ————————————————————————————————————	」(アー	: 「高等学校 言語文化」(数研出版) イブレーン)参考書 : 「五訂版 常用漢		で で で で で で で で で で り で り で り で り り り り	山似),「口本过11人义子选 培州11			
担当教員		石谷 春	<b></b>						
到達目標									
文学を学ん	ぶ意義につい		日本語の文章を学習することにより、日 ることができる。 	本語への理解力・表	現力を高めると	ともに、文学のもつ素晴らしさや、 			
レーブリ	ノツク		7m+0.46 ( ) 70 7 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	I#34445 1 3 713 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安			
平価項目1	1		評論・小説・詩歌などの現代の応 用的な文章について理解すること ができる.	評論・小説・詩歌本的な文章についができる.		評論・小説・詩歌などの現代の基本的な文章について理解することができない.			
平価項目2	2		語彙・文章などの応用的な表現能力を身につけることができる.	語彙・文章などの 力を身につけるこ		語彙・文章などの基本的な表現能力を身につけることができない.			
平価項目3	3		文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義 について十分に理解することがで きる.	文学の持つ素晴ら について理解する		文学の持つ素晴らしさや学ぶ意義 について理解することができない。			
学科の至	到達目標項	頁目との影	<b>■</b>						
教育方法	去等	•							
既要	<u>-</u>	本科目にの学生との基礎を	は、高等専門学校の国語の基礎能力を「ごとして中学校までの学習の復習を含めない 日識の獲得と、読解力の向上、及び的確	現代文・表現」の分がら、高専生、そしな表現能力を養う。	野を中心に身に て現代に生きる とを目標にする	つけさせる。具体的には、第1学年 日本人として必要な近代、現代文学 。			
受業の進め	め方・方法	・すべて ・授業に	この内容は学習・教育到達目標(A)の ( は講義・演習形式で行う。講義中は集中	視野〉および(C) して聴講する。	の〈発表〉に対応	<b></b>			
注意点	로바 문사	マ中マ理マは礎漢漢( ・中マ理マは一般漢漢( ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	かけるために、随時演習課題を与え、提授業中は学習に集中し、内容に対して利接でで提出すること。なお、本教科は後3科目である。 ストのない日はスピーチを実施する。 ストの範囲:第1回(P.5〜P.13)第2回〜P.55)第6回(P.61〜P.69)第7回(	つけていることが必 出させる。また夏期 責極的に取り組むこ に学習する国語Ⅱ、 (P.15~P.23) 第3	M休業中の宿題と と。疑問が生じた 日本文学、言語 B回(P.25~P.33	ら直ちに質問すること。また、課 表現学Ⅰ・Ⅱ、文学概論Ⅰ・Ⅱ <i>の</i> 基			
	属性・履修			1		T			
」アクテ	-ィブラーニ	ニング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授			
受業計画	<u> </u>	T	Treate to the	1	- w				
	-	週	授業内容		型ごとの到達目標 フェナギ ※ ※ ※				
前期 1stQ		1週	本授業の概容および学習内容の説明	29-30大40745配得	1. 国語を学ぶ意義について理解している 2. スピーチや討論、ディベートなどを行見を公の言葉で表現することができる。 ーション能力の養成) 3. 学習したことを踏まえ、相手に説得力の言いたいことを伝える感想文・小論文等ができる。(文章力の養成) 4. 短歌や詩、シナリオや映像作品などをにより、自らの心情を作品として表現する。(創作力・想像力の養成) 5. 「常用漢字アルファ」に基づき、漢字間8回実施し、社会人として必要な漢字得して必要な漢字・語彙力の養成) 6. 国語表現における常識・規則を理解し				
		2週	評論 水の東西 (山崎正和) ①	7   8   9   1	て、正確な読み書 3. 評論のもつ表 9. 評論について を把握することが .0. 評論について	は表現に使われる漢字・語句についきと用法を習得している。 見上の特色を理解することができる 、作者の意図を理解し、論理の展覧できる。 「、各段落,および全体の要旨につ			
		3週	   評論 水の東西(山崎正和)②		<u>てまとめることが</u> L記1~6、上記				
		ン旭			「叩て、ひ、工町	, / . ~10CIHO。			

		4週			上記1~6、上記7~10	<b>ν</b> ⊟ι"		
		5週	評論 水の東西(山崎]   評論 水の東西(山崎]		上記1~6、上記7~10	·		
		6週	評論・新聞記事など	<u> </u>	上記1~6、上記7~10	_,		
		7週	評論・新聞記事など		上記1~6、上記7~10			
		8週	前期中間試験		これまで学習した内容を	·		
		9週	前期中間試験の反省小説の伊豆の踊り子(川	端康成)①	上記1~6と同じ。 11. 小説の文学的な表現 て、正確な読み書きと用 12. 小説のあらすじを把 を理解することができる。 13. 小説について、終賞	記に使われる漢字・語句につい 法を習得している。 握し、登場人物の心情・行動 能力を養い、自分の感想を文 る。 史的知識を身につけ、作品が		
	2ndQ	10週		端康成) ②	上記1~6、上記11~142			
		11週	小説 伊豆の踊り子(川		上記1~6、上記11~14	·		
		12週	小説 伊豆の踊り子 (川		上記1~6、上記11~14	·		
		13週	小説 伊豆の踊り子(川		上記1~6、上記11~14台			
		14週	表現・読書体験記を書く		上記1~6、上記11~14台	•		
		15週	表現 エッセイを書く	`	上記1~6、上記11~14台			
		16週	200 = 2 = 1 = 1					
		1週	前期末試験の反省 短歌・俳句①		上記1~6と同じ。 15. 詩歌の文学的な表現に使われる漢字・語句について、正確な読み書きと用法を習得している。 16. 詩歌について、作者の意図を理解し、表現技巧を把握することができる。 17. 詩歌について、鑑賞能力を養い、自分の感想を文章にまとめることができる。 18. 詩歌について、文学史的知識を身につけ、作品が書かれた時代背景を理解することができる。			
	2 10	2週	短歌・俳句②		上記1~6、上記15~18	∴同じ。		
	3rdQ	3週	短歌・俳句③		上記1~6、上記15~18と	二同じ。		
		4週	短歌・俳句④ 表現 短歌の創作		上記1~6、上記15~18	⊆同じ。		
		5週	詩 サーカス(中原中也	2) ①	上記1~6、上記15~18と同じ。			
≪ Ħ□		6週	詩 サーカス(中原中也	3) ②	上記1~6、上記15~18と	≤同じ。		
後期		7週	詩 サーカス (中原中也 表現 詩の創作	3) 3	上記1~6、上記15~18と	≤同じ。		
		8週	後期中間試験		これまで学習した内容を	説明することができる。		
		9週	後期中間試験の反省 小説 羅生門(芥川龍之	2介) ①	上記1~6、上記11~14台	≤同じ。		
		10週	小説 羅生門(芥川龍之	2介)②	上記1~6、上記11~14と	≤同じ。		
		11週	小説 羅生門(芥川龍之	2介) ③	上記1~6、上記11~14と	:同じ。		
	4thQ	12週	小説 羅生門(芥川龍之	2介) ④	上記1~6、上記11~14と	:同じ。		
	TuiQ	13週	小説 羅生門(芥川龍之		上記1~6、上記11~14と	:同じ。		
		14週	小説 羅生門 (芥川龍之	2介)⑥	上記1~6、上記11~14년	·		
		15週	小説 羅生門(芥川龍之 年間授業のまとめ	2介) ⑦	上記1~6、上記11~14 d 19. 年間授業内容の意義			
		16週		-				
	コアカリ	1	の学習内容と到達目標					
分類	_	分野	学習内容  学習	内容の到達目標		到達レベル 授業週		
評価割金	合			T		_		
DI IMIDI		4_=	験	課題・ノート提出	小テスト	合計		
рт імідэ		証	时天			<del>                                    </del>		
総合評価	割合	部 60		20	20	100		

		専門学校	開講年度	令和06年度(	2024年度)	授	業科目	国語 I B		
科目基础	礎情報									
4目番号		0008			科目区分		一般 / 必			
受業形態		授業			単位の種別と単位		履修単位	: 1		
設学科		機械工学	科		対象学年		1			
設期		後期			週時間数		2			
対書/教	效材		「高等学校言語文化 石谷春樹編「日本近		· · 」(アイブレーン	)				
⊒当教員		熊澤美見				,				
引達目	 標	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	-							
典学習	を诵じて、	 当代の人間の	考え方や生き方を知	口ることから始まり	, 加えて現代に生	 きる日本	人として	こ必要な「古典文学」の基礎知識の獲		
		果たすことが	できる.							
レーブリ	リック									
			理想的な到達レ		標準的な到達レ			未到達レベルの目安		
			古文・漢文につい	いて,音読・朗読も ことにより,特有の	古文・漢文につい			6.10メ・漢义につい(,日恋・聞恋t		
<b>严価項目</b>	1		リズムや韻など	を味わい理解する	リズムや韻など					
			ことができる.		きる.	<del></del>				
				漢文を読み,言葉や をふまえて人物・	代表的な古文・流表現方法の特徴を	美文を読 をふます	み,言葉ヤ て人物・	り   代表的な古文・漢文を読み,言葉や   表現方法の特徴をふまえて人物・		
阿項目	2		情景などを理解	し、人間・社会・白	情景などを理解	し,人間・	社会・自	目 │情景などを理解したり,人間・社会		
			然などについて <sup>2</sup>   げたりすること	考えを深めたり広 ができる.	然などについて <sup>3</sup>   る.	考えるこ	とかでき	・自然などについて考えることが できない.		
				<u>かてきる。</u> 上げた作品につい	教材として取り	上げた作	品につい	教材として取り上げた作品につい		
ı, /≖⊤≠ ⊂	2		て,用いられてい	る言葉の現代の言	て,用いられてい	る言葉の	現代の言	て、用いられている言葉の現代の記 で、作のつかがりや、既然は、		
F価項目	3			や,時代背景などに 文の基礎的知識を	集とのつなかり					
			習得できる.		理解できる.			理解・習得することができない.		
料の	到達目標耳	頁目との関	係							
育方》	法等									
		本科目は	, 高等専門学校の国	語の基礎能力を「	古文・漢文」の分	野を中心	にして身	またつけさせる. まず, 「古典」学習		
要		の意義(  す )を	(1)当時の人々の考: 再確認する 目休的	え方,生き方を知る	3. (2)古典を通じ の古典学習の終復	て現代の 翌を今々	)自分たち ながら	5の生活,考え方,生き方を捉えなお   高恵生としてそして現代に生きる日		
		本人とし	て、必要な古典文学	の基礎知識の獲得	と、読解力の向上	をねらい	いとする.	5の生活、考え方、生き方を捉えなお 高専生としてそして現代に生きる日		
: Mr - Mr		・すべて	の内容は学習・教育	育目標(A)の<視	野><意欲>,及					
業の進	め方・方法	・授業は  ・「授業	講義・演習形式で行 計画   における各週	」つ. 講義屮は集4 8の「到達目標」は	し(聴講する. :この授業で習得す	る「知識	₺・能力	に相当するものとする.		
注意点		下記授業目 題る業目 後期や成 後期やとし 40%とし 「単位修	標の達成度を評価す ルの試験を課す. 績の評価方法およて ・学年末の2回の記 ンて評価する. ただ /得要件1	のすべてを網羅して、各「到達目標 が評価基準」 は験の平均点を60% し、後期中間・学	」の重みは概ね均 %,課題提出,小テ 年末の2回の試験。	等する. スト, 授 ともに原!	合計点の登業中の問	E期考査とレポート・小テスト等で出 260%の得点で,目標の達成を確認で 問題演習への取り組み等の結果を 再試験は行わない.		
		[あらか	た演習課題を提出し,学業成績で60点以上を修得すること. じめ要求される基礎知識の範囲] 業程度の国語能力,特に「古文・漢文」についての基礎学力を身につけていることを前提とする.							
		「レポー	卜等]		_	_				
		「注意事	項		•		•	課題提出等を課する.		
		授業中は	学習に集中し、内容	客に対して積極的に マウザー 東京東田学	取り組むこと。ま	た,課題におるも	は期限崩	好して提出すること. なお, 本教科 5.		
4₩ΛF	<b>富州、房</b> 4			·×士,吕祜衣况子	,メナ阪픎り奉従	にはるか	1日 このる	J.		
		<u> 多上の区分</u> ->.グ	☑ ICT 利用			<del>.</del>		□ 宝数奴段の七2数号/- トっ塚		
ナクフ	ティブラーニ	<b>-</b> ンソ			凶 、	'n		□ 実務経験のある教員による授		
 (業計i	面									
( <del>  </del>		週	授業内容			调ブレク	の到達目標	<u> </u>		
			<del>☆素四台</del> ガイダンス							
		1週	古文入門および学習	<b>習方法について</b>	(「言語文化と古		5典」の写 を確認する	学習の目当ての意義を理解し, 学習す る.		
			文」)							
			古文入門および学習	<b>習方法について</b>	(「古文の特徴」	文を読む	元で埋しいための基	て現代文との違いに注意しながら,さ 基礎(歴史的仮名遣い等)を理解してい		
		2週	) 「児の子に寝」①	(『空海や海伽語』	)	る.		,		
			「児のそら寝」①(『宇治拾遺物語 		, 	<u>,</u> 古文卷	を読むため	D心理に注目して,古文の世界を理解し こめの基礎(品詞等)を理解している.		
		3週	「児のそら寝」(	『宇治拾遺物語』)	2		・3に同し			
期	3rdQ	4週	古文の文法(品詞グ	分類・用言と活用形	・動詞・形容詞	4. 古典	文法の基	礎学習 (動詞・形容詞・形容動詞) (		
		구/坦	・形容動詞」)					している.		
		5週	随筆 「つれづれた	よるままに」(『彼	然草』)	5.前期	中間試験の文学的な	の内容を理解した上で, 三大随筆の <sup>.</sup> 西値を理解している.		
		4)5						<u>■値を理解している。</u> 生観および「徒然草」の世界観を理解		
		6週	) ① 1		-」 ( 『NE然子』	し, 古	典文法の基	主観のよび「従ぶ早」の世界観で達 基礎学習の学習内容を理解している.		
				弓射ることを習ふに	 」(『徒然草』	7 古立	<u></u> を読むた			
		7週	) ② 前期中間までの復習	2		期中間	までの学習	めの基礎(保り粘び等)を達解し、削 習内容を理解している.		
			ロロカロコロの しりガを見	=		i				

後期中間試験

8週

後期中間試験

		9週	前期中間試験の 漢文入門 訓読・返読文号			8. 前 を学ん 理解し	期中間試験の内容を理解 で, 漢文訓読の基礎(訓 ている.	るとした上で、漢文の特色 日点・書き下し文等)を		
		10週	漢文入門 再読文字・助写	字 字		9. 漢 読文字	文の特色を学び,漢文訓 等)を理解している.	読の基礎(置き字・再		
		11週	故事 虎借威( 否定・疑問の句	①(「戦国策」) 可法		10. 故事成語の学習を通して, 戦国時代の諸国と遊説家の言行を理解し, 漢文の句法(否定・疑問)を理解している. 11. 故事成語の学習を通して, 文学史的価値を理解して, 漢文の句法(反語・感嘆)を理解している.				
	4+h-O	12週	故事 虎借威②(「戦国策」) 反語・感嘆の句法				)・11に同じ			
	4thQ	13週	歌物語 「芥川」①(「伊勢物語」)			12. 音読を通して現代文との違いに注意しながら、古典文法の基礎学習(助動詞)の学習内容を理解している。 13. 登場人物の心理に注目して、古文随筆の世界を理解し、古典文法の基礎学習(助動詞)の学習内容を理解している。				
		14週	歌物語 「芥川」②(「伊勢物語」) 和歌の修辞①				上記12・13に同じ			
		15週	歌物語 「芥川」③(「伊勢物語」) 前期末までの復習 授業のまとめ(アンケート)			上記8~13に同じ				
		16週								
モデルコ	アカリキ	ユラムの	学習内容と	到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			至	別達レベル 授業週		
評価割合	•									
		試験		課題・提出物	小テスト・発表			合計		
総合評価割	合	60		20	20		0	100		
配点		60		20	20		0	100		

	工業高等	専門学校	開講年度 令和06年度(	2024年度)	授業科目	
科目基礎				/		
科目番号	CIIJTK	0009		科目区分	一般 / 選	·····································
授業形態		授業		単位の種別と単位		
開設学科		機械工学	· 科	対象学年	1	
開設期		後期	•	週時間数	2	
教科書/教	· 材	教科書	高校美術1(日文)/教材 鉛筆 ス	マケッチブック タ	ブレット スマー	トフォン
担当教員		久留原 昌	量宏,松原 豊			
到達目標						
メージをſ 美しさ」(	也者に見ても こついて他者	ららえる形に	豊かな創造力を発揮し、オリジナルキャ )理解を深める。遠近法など描くための こすることができる。作品を観賞したと 気や違いについて認識できる。	ッラクターを描く事 )基本を習得してい さき「感じたこと」	が出きる。チーム る。時間をかけて を他者に言葉で伝	で映像作品を組み立てコラボ作品を 対象物を「見る」ことができる。イ えることができる。自分が感じる「
ルーブリ	ノツク		7774444 AVA A C C	4E)# 45 + \ 71\ ± 1		+ 70 + 1
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レク		未到達レベルの目安
評価項目1	L		応用的に創造力を発揮して創作で  きる.	基本的な創造力を   ることができる.	を発揮して制作す	制作に対する基礎的な知識や意欲がない。
評価項目2	2		応用的に感性豊かに動画課題が制作できる。	基本的な動画的		動画的表現が制作できない.
評価項目3	3		応用的な表現力で映像表現のチーム学習に取り組むことができる.	チーム学習に積むの意見を主張でき	極的に参加し自分 きる.	チーム学習に取り組むことができ ない.
学科の到	到達目標項	目との関	·····································			
教育方法	 去等					
概要		こ自す性美方るを々授を要をは考とるストラーが	他の概念 = 学問としての美術館でファイ では「芸術とは」生命の賛美・命の尊 とめ,自らに問いかけ「生まれて老いて 、「自己変革」の行為で有るこさる・ かにし,創造力を養い形にっる。 最も重要な心の栄養であり、とする自己変す ないかに多いか、について気づいても に、達の話を直接授業内で聴講、体験する がいで生きている人の「生」というこ	さを表現することで死にゆく」かけがいまする。その為に人どの手段であることである」といないがら制作をといないとにより社会ととに触れる。	. そして毎日の暮 えのない生命を慈 類の遺産に精通し を会得する. 言 いう行為を通しめていく。芸術の関係性や役 芸術の関係性や役	らしの中で「運命」に流されている しみ,明日へのエネルギーを汲み出 ,より良き未来の創造を考えて「感 以外でのコミニュケーションのあり 、私たちが日常の中で見過ごしてい や美術館学芸員などの専門的に仕事
授業の進め	め方・方法	・授業は ・授業は ・大で ・で ・で ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	「の授業内容は,学習・教育目標(A) に講義と実技制作で行う、講義中は集中 計画」における各週の「到達目標」は 術館や博物館、アートギャラリー、 遠 でのレポート提出についてはTeamsを でおくことを望む。・レポート提出を 行に自分が感じたイメージを「私のこと	□して聴講する. はこの授業で習得す 関劇鑑賞などを行っ を活用したWord書き で行う授業の出席に	る「知識・能力」 た場合、作品鑑賞 類での提出とする。 ついてはレポート	レボートの提出は成績に加点する。 、事前にTeamsとWordの使用につい 提出により授業の出席とする。・作
注意点		下すく学くと中く作チそ記る学年単あ学備品ーの授重業末位ら校考はム都を持たる。	選択者全員、各自で購入する鉛筆、ス 習では,デジカメもしくは携帯電話力 連絡する。	で、目標達成を確 5. 作品は提出期日 引すること。 か描画に対する意 なケッチブックで製	認できるレベルの を守ること、遅延 欲、(上手・下手 作する。	試験を課す. 提出者は評点が減少する. )ではなく真摯な制作努力が大切.
	属性・履修		1			
□ アクテ	ーィブラーニ	:ング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	2	□ 実務経験のある教員による授業
15.11/-1-7	_					
授業計画	<u> </u>	I.	Lesus -		l.= »== =	
	-	週	授業内容		週ごとの到達目標	2
		1週	芸術概論 美とは何か 芸術とは何か		1. 芸術の意味を える	理解説明できる. 「美」について考
		2週	美術史 - 世界の美の流れ 「人はなぜ絵を描くのか」		2. 美術史の時代	別変遷を説明できる.
		3週	建物や校舎の中を遠近法を用いて描く	〈/鉛筆デッサン	3.遠近法の紹介後法の理解と描写	学校内で建物を鉛筆画で描く/遠近
		4週	身近なものを描く/鉛筆デッサン		4.身近にあるいろ /立体物が描ける	いろな形をしたものを立体的に描く
後期	3rdQ	5週	自画像を描く/鉛筆デッサン		/人物が描ける、	
		6週	  美術館という場所について知ろう/作	作品に出会う場所	て美術館学芸員に	在の意味や学芸員という役割につい 教えてもらう/作品保存、後生に作 味について理解
					品を残すことの意味について理解	
		7週	オリジナルキャラクターを描く(イラ)	ラストレーション	7.制作設計図に記  その後描く。	スしなからイメージを具体化する。 

	9週	抽象表現・身体パフ の体験)	ォーマンス(演劇		9.抽象表現を理解し触れる。演劇につい	ノ、体を使 ハて理解す	ってアート <sup>;</sup> る。	をする世界に
	10週	写真・映像表現の魅	写真・映像表現の魅力を知る 10.表現の多様性を知る					
	11週	短編映像作品制作/ンテ作成	チーム分/ストー	リー考案、絵コ	11.「絵コンテ」を を組織化できる。 共	描き共有で も同制作の	することでチ 体験	ームのコラボ
4+h-O	12週	短編映像作品制作(	撮影・編集)/チ	ーム制作	12.絵コンテに沿っ	た映像撮影	影、編集	
401Q	13週	短編映像作品制作(	豆編映像作品制作(撮影・編集)/チーム制作			た映像撮影	影、編集	
	14週	映像プレゼンテーシ	ョン/チーム制作	発表	14.チーム学習の成	果を編集	して発表する	5
	15週	美術のまとめ (デ	ストの説明)	15.あなたにとっての「美」や「芸術」のへの認識は変化しましたか?自分の日常生活や仕事とアートの関わりについてもう一度考えてみる				
	16週							
]アカリ	キュラムの	学習内容と到達	目標					
	分野	学習内容 :	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
ì								
Ī	式験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合	it
合   2	25	75	0	0	0	0	10	0
2	25	75	0	0	0	0	10	0
	ì 信 2	10週 11週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 17カリキュラムの 分野	10週   写真・映像表現の魅   11週   写真・映像表現の魅   11週   短編映像作品制作 / ンデ作成   12週   短編映像作品制作 (	10週   写真・映像表現の魅力を知る   11週   欠字作成   12週   短編映像作品制作(撮影・編集)/チ   13週   短編映像作品制作(撮影・編集)/チ   14週   映像プレゼンテーション/チーム制作   15週   美術のまとめ (テストの説明)   16週	10週   写真・映像表現の魅力を知る   11週   短編映像作品制作/チーム分/ストーリー考案、絵コンテ作成   12週   短編映像作品制作(撮影・編集) /チーム制作   13週   短編映像作品制作(撮影・編集) /チーム制作   14週   映像プレゼンテーション/チーム制作発表   15週   美術のまとめ (テストの説明)   16週	### Pall	### 10週 写真・映像表現の魅力を知る	10週   写真・映像表現の魅力を知る

給鹿	 丁業高等	 専門学校	開講年度 令和06年度(2	2024年度)	授業	科目		
科目基礎		、五1 1丁"人	אידייטטווינון אי⊤ <del>רמ</del> ינואן ן	-v <u>c i <del>T</del>IX                                    </u>	JX <del>**</del> /	<del></del>	<b></b>	
科目番号	-113-TIA	0010		科目区分	<u> </u>	 般 / 選択	1	
授業形態		授業		単位の種別と単位		<u> </u>		
開設学科		機械工学科	4	対象学年	1			
開設期		後期		週時間数	2			
教科書/教	 材		- - - - - - - - - - - - - - - - - - -	•				
担当教員			宏,阿部 浩子					
到達目標	<u> </u>	•						
西洋音楽	と	]ックから近( それを表現し	tまでの音楽の時代の流れを把握し, して歌える.	作曲者とその作品	を理解し,	又,発起	ちをしっかり練習して,歌の内容を	
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1			バロックから近代の西洋音楽の時 代の流れを充分把握している.	バロックから近6 代の流れをあるす ・			バロックから近代の西洋音楽の時 代の流れを把握できていない.	
評価項目2			作曲者とその作品を充分理解している.	作曲者とその作品している.	品をある程	度理解	作曲者とその作品を理解できていない.	
評価項目3			授業内のノートと鑑賞の感想文が 充分理解し表現できている.	授業内のノートの ある程度理解し			授業内のノートと鑑賞の感想文が 理解できず表現できていない.	
学科の到	」達目標項	目との関係	系					
教育方法	等							
概要		の歴史と作	こより、より良い発声と歌詞の内容を F曲家,作風を理解する.			:出来るよ	こうにし, バロックから近代の音楽	
授業の進め	方・方法	・ 授業計	D授業内容は,学習・教育目標(A) 計画」における各週の「到達目標」は 後声に基づいて,リズム,音程を把握 D音楽の時代背景,作曲家,作品をよ	この授業で習得す	る 知識・	能力」に 解し,表 に対する	こ相当するものとする. 長現豊かに歌えるようにする. 5感想を文章にする.	
注意点		1 回単えあ学レ の位らら修 ボ D る考 大 し の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の	で課題レポートとノートを提出し、学業成績で60点以上を取得すること。 じめ要求される基礎知識の範囲> 程度.					
授業の属	性・履修	<u> 上の区分</u>					T	
□ アクテ	ィブラーニ	ング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	5		□ 実務経験のある教員による授業	
授業計画	Į							
		+	受業内容		週ごとの至			
			発声の練習「校歌」「おおシャンゼリ D音楽	ゼ」、バロック 	1. 腹筋を ている.	を使う事だ	が出来る.時代背景と曲の理解をし	
			発声・歌唱「翼を下さい」、バッハ、 監賞	ヘンデル解説、	2. 声を返 している.		ばす. オラトリオ・協奏曲の理解を	
		3個	 発声・歌唱「世界に1つだけの花」、 アルト	古典派、モーツ	3. 曲のP トの人生の		現して歌う事が出来る. モーツアル している.	
	2540		発声・歌唱「校歌」〜「世界に1つだ ベートーヴェン	けの花」まで、	4. 楽し <i>/</i> している.	しで歌う	事が出来る.交響曲第9番の理解を	
	3rdQ		発声・歌唱「待ちぼうけ」、DVD「ち ミュージック」	ナウンド・オブ・ 	5. 日本記楽しさを知		く歌う事が出来る. ミュージカルの 出来る.	
			発声・歌唱「夏の思い出」「野ばら」 ューベルト	、ロマン派、シ	6. ドイソ 理解してい		う事が出来る.ドイツ歌曲の良さを	
後期		7週	発声・歌唱「サンタ・ルチア」、ロマ	ン派、ショパン	7. イタ! 理解してい		歌う事が出来る. ピアノ曲の良さを	
			発声・歌唱「待ちぼうけ」〜「サンタ ソチーニ「蝶々夫人」	・ルチア」、プ	8. リズミ ーニを理解		日本歌曲を歌う事が出来る. プッチ る.	
		9週	発声・歌唱「ウィーン我が夢の街」ビ 	デオ「蝶々夫人	9. ウイン を理解して		ソを歌う事が出来る. オペラの内容	
			発声・歌唱「我が太陽」 コマン派、リスト				タリア語で声を響かせる事が出来る 曲を理解している.	
	4thQ		発声・歌唱「我が太陽」 コマン派、R.シュトラウス		11. イク 詩を理解し	フリア語 している.	でよく声を飛ばす事が出来る. 交響	
		12调	発声・歌唱「歌の翼に」 コマン派、ラフマニノフ			ノーズの流		
			発声・歌唱「私を泣かせて」 近代の音楽、ドビュッシー				典歌曲を理解して歌う事が出来る 解している.	

	14	<b>1</b> 週	発声・歌唱「ふる 近代の音楽、ラヴ	さと」 ェル		14. 声・言語の音楽を理解	葉・表情を考え している.	て歌う事が	出来る. 近代
	15	週	発声・歌唱 全体 近代・現代の音楽	まとめ 、ガーシュイン		15. 良い発力とジャズの	声で歌を表現す 融合の新しい音	る事が出来 楽を理解し	る.クラシッ ている.
	16	5週							
モデルコア	カリキュ	ラムの言	学習内容と到達	<b>鞋目標</b>					
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	標			到達レベル	/ 授業週
評価割合									
	試験		課題	相互評価	態度	発表	その他	合	<b>i</b> †
総合評価割合	50		50	0	0	0	0	10	00
配点	50		50	0	0	0	0	10	00

	工業高等	等專門学校	開講年度	令和06年度(	2024年度)	授	業科目	書道
科目基础								
科目番号		0011			科目区分		一般 / 選	訳
授業形態		授業			単位の種別と単位	位数	履修単位:	1
開設学科		機械工学科			対象学年		1	
開設期		後期			週時間数		2	
教科書/教	(材	教育出版						
担当教員 到達目標	<b></b>	久留原 昌宏	7.他口 与这					
目標・五書記到達・実践	書体(漢字), 道史の流れ 技は出席し 期末のみテ ストと実技	を把握・習得し た授業の課題は ストを実施する	ている. 必ず提出すること (中間は実施しな	í. ⟨∖).	的に特徴を理解し, とする)の場合は未		する.	
ルーブ!	<u> </u>		Γ		T			T
評価項目:	1		理想的な到達レル 応用的な書道史,している.	ベルの目安 , 専門用語を理解	標準的な到達レクタイプ 基本的な書道史,している.			未到達レベルの目安 基本的な書道史,専門用語を理解 していない.
評価項目2	2		古典の技法を理解と、半紙にバラ	解し再現すること ンスよく文字を配 が,両方ともでき	古典の技法を理が と、半紙にバラン 置して書くことの きる.	ンスよく	文字を配	古典の技法を理解し再現すること と、半紙にバランスよく文字を配 置して書くことが、どちらもでき ない.
評価項目:	3		_	題を提出できてい	課題・宿題を提	出できて	いる.	課題・宿題を全く提出できていない。
学科の発	到達目標」	項目との関係	•					
教育方法								
概要								でを愛好する心を養う.
授業の進む	め方・方法	・すべての ・「授業計i ・授業は最	内容は, 学習・教 画」における各週 初 2 0 分~ 3 0 分	対育到達目標(A) 別の「到達目標」は 対に講義を行い、残	の<視野>に対応 この授業で習得す り時間を書道実技	する. る「知識 とする.	哉・能力」	に相当するものとする.
注意点		授業は書道! また書道は く学業成績 く単位修得! くあらかじ	る.台計点の60 史・実技を行う. 書写とは違い,そ の評価方法およて 要件>試験・実技 め要求される基礎	%の得点で目標達   書道史は書道の成されぞれの書体の技 	成を催認できるレ 立を学ぶ上で重要 法が重要である. 試験結果を30% を修得すること. 中学校で培われて	ベルの記 な要素で 実技は技 , 提出作 きた書写	ば験を課す である。 を を を を を を を を う の き う の き う の き う の き ら の を う り う し 、 う う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 、 、 、	史の流れを把握して欲しい. 分けが重要である. %として, 最終評価とする. の読み・書き順.
授業の属		授業は書道は また学業成長 く単位の くあい くずるため するため を上の区分	る・合計点の60 会主技を記点の60 会実技を違い。 とではない。 の要件>はではいまで、 の要件>なきでで、 ののでで、 ののでで、 のでで、 のいででは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	%の得点で目標達   書道史は書道の成されぞれの書体の技 	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	ベルの記で表す。	ば験を課す である。 を を を を を を を を う の き う の き う の き う の き ら の を う り う し 、 う う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 、 、 、	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
授業の属	属性・履( Fィブラー:	授業は書道は また学業成長 く単位の くあい くずるため するため を上の区分	る. 合計点の60 史・実技を行う. そ 書字とは方法を ま評価/試験・る 要件/式談・る 数要求される 初の授業に中学校	1 %の得点で目標達 書道史は書道の成 『不れの書学年本 『評価基準>学年末 「現職で60点では 「対職での範囲>」小・ ○でではませい。	成を確認できるレ 立立を学ぶ上で重要 法が重要である 0 % 法が動実を 3 0 % 、 を修得すること、 で 中学校で培わか・ 書道用具を持参・	ベルの記で表す。	ば験を課す である。 を を を を を を を を う の き う の き う の き う の き ら の を う り う し 、 う う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 、 、 、	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	授業は書道は また学業成長 く単位の くあい くずるため するため を上の区分	る・合計点の60 会主技を記点の60 会実技を違い。 とではない。 の要件>はではいまで、 の要件>なきでで、 ののでで、 ののでで、 のでで、 のいででは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	1 %の得点で目標達 書道史は書道の成 『不れの書学年本 『評価基準>学年末 「現職で60点では 「対職での範囲>」小・ ○でではませい。	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	ベルの記で表す。	ば験を課す である。 を を を を を を を を う の き う の き う の き う の き ら の を う り う し 、 う う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 、 、 、	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	授業は書道は書道は書道は書道は書道は書きく学位のかまでである。 を単の区分 を上の区分 ニング	る. 合計点の60 史・実とは違い。 与実は違い。 男子とは違い。 の要件>試される 要件>求さに 対のの授いる 関係を 関係を である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	1 %の得点で目標達 書道史は書道の成 『不れの書学年本 『評価基準>学年末 「現職で60点では 「対職での範囲>」小・ ○でではませい。	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	ベルの な要素 技 は ま た 紙 は よ と と に は は よ と と に は は は よ と に は は は は は は は は は は は は は	は験を課すを課すを課すを である書する またまで またまで またまで またまで またまで またまで またまで またま	. せい ま   ・
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	授業は書道は書道は書道は書道は書道は書談を学単らのでである。 を上の区分 ニング	る・合計点の60 会主技を記点の60 会実技を違い。 とではない。 の要件>はではいまで、 の要件>なきでで、 ののでで、 ののでで、 のでで、 のいででは、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	19%の得点で目標達書道のは書道のは書道のは書体のおされてれる書体のない。 「評価基準>学年末を成績で60点以上を対議の範囲>小たまで使用していた。	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	ベル要な出れています。 ではません。 ではません。 ではまれています。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではままする。 ではまるなる。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではまるな。 ではなる。 ではななる。 ではなる。 ではなる。 ではななる。 ではなる。 ではなるな。 ではななる。 ではなるなな。 ではなるな。	ば験を課す である。 を を を を を を を を う の き う の き う の き う の き ら の を う り う し 、 う う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 う 、 、 、 、	・
授業の原 □ <i>アク</i> ラ	ティブラーニ	授業は書道は書道は書道は書道は書道は 会様の 会様の を 上 の 医 上 グ り り り り り り り り り り り り り り り り り り	る・合計点の60 会計点の60 会実技に 一点を違い 一点を違い 一点を 一点を 一点を 一点を 一点を 一点を 一点を 一点を 一点を 一点で 一点で 一点で 一点で 一点で 一点で 一点で 一点で 一点で 一点で	9%の得点で目標達 書道史は書体の成 会れぞれの書体学年末 成積で60点以上 を知識の範囲>小た を対談の使用していた のがあれば,事前 を対していて 記禮泉銘(楷書)	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べかまかれています。 べいまでは出います。 では出いますが、 では出いますが、 では、 では、 では、 では、 では、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも	<ul><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)</li><li>(場合)<td>・</td></li></ul>	・
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	授業は書道は 書道は 書道は 書道は 子単位 ら する 区 子 シ で する で と する で と り で り し ら り で り り り り り り り り り り り り り り り り り	る・ ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (	9%の得点で目標達 書道史は書道の成 会れぞれの書体学年末 が評価基準>学年末 が減値で60点以上 会知識の範囲>小た であがあれば、事前 を表について にでいて にでは、 にでは、 にでいて には、 にでいて には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べな実 , き半	、	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
授業の原 □ アクラ	ティブラーニ	授   	る・・ (1) (1) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	9%の得点で目標達 書道のは書道の成 書道とは書道の成 会れぞれの事件学年末 が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べな実 , き半 」。 週 持 書課 技 が P 史提 を が P 史提 を が P 史提 を が P と で 物 P と で か P と P と P と P と P と P と P と P と P と P	、験を含め、 で	・
授業の原 □ アクラ	ライブラー <u>-</u>	授業   では   では   では   では   では   では   では   で	る・音音を (1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べな実, き半 が要技提 た紙は が要技は出 書は がでするは出 書は がでする。 でする道題 法 をする。 でする道題 法 をする。 でする道題 法 をする。 をする。 をする。 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、 でも、	、	・
授業の原 □ <i>アク</i> ラ	ライブラー <u>-</u>	授 書道 唐毛 唐雁 唐顔 北方   1週   1週   1週   1週   1週   1週   1週   1	る・音音を (1) では、 (2) では、 (3) では、 (4) では	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べな実, き半 ル要技提 た紙 の素は出 書は ご ち 道題 法 法 法 を を を を り り り り り り り り り り り り り り	Total	・
授業の属	ライブラー <u>-</u>	授業道   標準   表表   表表   表表   表表   表表   表表   表表	る・・ち音を はいます できます できます できまと はいます できまり かいます できます できます できます いっぱい できます できます できます できます できます できます できます できます	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べな実, き半 ル要技提 た紙 の素は出 書は が要技出 きは が要技出 きば が要技出 きば が 要技出 きば が を が を が を が を が を が を が を が を が を が	(験あ法品 か) で 一	・
授業の原 □ アクラ 授業計画	ライブラー <u>-</u>	授 書道   唐毛   唐雁   唐顔 北方 創 王   王集   三   五   五   五   五   五   五   五   五   五	る・・	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	《公実 , き半 週 持 書課 技 技 雁 王る 王集の素は出 書は ど 物 史提 を を ・ 之 之聖	、	・
授業の原 □ アクラ 授業計画	ライブラー <u>-</u>	授書道   標子   表表   表表   表表   表表   表表   表表   表表	る・・	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	《公実 , き半 3 週 持 書課 技 技 雁 王る王集 日風の素は出 書は ど 物 史提 を を ・ 之 之聖書帖	、	・
授業の原 □ アクラ 授業計画	ライブラー <u>-</u>	授書道   唐毛   唐雁   唐顔 北方   創   王   王   王   王   王   王   王   王   王	る・・	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	《公実 , き半 3 週 持 書課 技 技 歴 王る 王集 日風 仮変ル要技提 た紙 ご ち 道題 法 法 法 議 羲王 本信 名体の素は出 書は と 物 史提 を を ・ 之 之聖書帖 文仮	、	・
授業の原 □ <i>アク</i> ラ	ョ 3rdQ	授書道 唐毛 唐雁 唐顔 北方 創 王 王集 空風 仮 仮 11 週 週 10 週 10 週 10 週 10 週 10 週 10	る・・	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	《公実 , き半 3 週 持 書課 技 技 歴 王る 王集 日風 仮変ル要技提 た紙 ご ち 道題 法 法 法 議 羲王 本信 名体の素は出 書は と 物 史提 を を ・ 之 之聖書帖 文仮	、「競技・お子・「か」である。 では、「ないでは、「ないです」では、「ないです。」では、「ないです。」では、「ないです。」では、「ないです。」では、「ないです。」では、「ないでは、これでは、「ないでは、これでは、「ないでは、これでは、「ないでは、これでは、「ないでは、これでは、これでは、「ないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	・
授業の原 □ アクラ 授業計画	ライブラー <u>-</u>	授書道   唐毛   唐雁   唐顔 北方 創 王   王集   空風 仮 仮 仮 の の の の の の の の の の の の の の の の	る・・ 写評 作 表 義王 海信 名 ・・ 字	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	《な実 , き半 3 週 持 書課 技 技 歴 王る 王集 日風 仮変 連と ない要技提 た紙 ご ち 道題 法 法 法 法 義 羲王 本信 名体 綿が めの素は出 書は と 物 史提 を を む ・ 之 之聖書帖 文仮 とで らおておか 写	、「競方」のでは、アイスでは、アイでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイスでは、アイでは、アイでは、アイでは、アイでは、アイでは、アイでは、アイでは、アイ	・
授業の原 □ アクラ 授業計画	ョ 3rdQ	授書道 唐毛 唐雁 唐顔 北方 創 王 王集 空風 仮 仮 仮	る・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	《な実 , き半 し 週 持 書課 技 技 歴 王る 王集 日風 仮変 連と な テるい要技提 た紙 ご ち 道題 法 法 法 法 義 羲王 本信 名体 綿が め ー・の素は出 書は と 物 史提 を を む え 之聖書帖 文仮 とで ら マロコイド (1) で ら マロー・ (1) で いっぱん (1)	、「競あ法品 から で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・
授業の原 □ アクラ 授業計画	ョ 3rdQ	授書道   E   E   E   E   E   E   E   E   E	る・・	1 %の得点で目標達 連びませき道の成 連びませいます。 連びまでは書体の対 が評価基準/シ点 が評価基準/シ点 が知識の範囲しています。 では、一次であれば、事前 をは、一次であれば、事前 をは、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次で	成を確認できるレ要を確認できるレックを学ぶ上である. 対が重果を30%を修得すること. を修得すること. を修得すること. 中学校で培われて 書道用具を持き. 準備すること.	べな実, き半 週 持 書課 技 技 歴 王る 王集 日風 仮変 連と な テる 多ル要技提 た紙 ご ち 道題 法 法 法 法 義 羲王 本信 名体 綿が め ー・文の素は出 書は と 物 史提 を を む ・ 之 之聖書帖 文仮 とで ら マ 字詞でおか 写	、「膝あ法品 から で で で で で で で で で で で で で で で で で で	・

モデルコアカ!	リキュラ	ムの学習	内容と到達	目標					
分類	4	分野	学習内容 =	学習内容の到達目標	<u> </u>			到達レベル	授業週
評価割合									
	試験	実	€技	相互評価	態度	発表	その他	合	<b> </b>
総合評価割合	30	7	0	0	0	0	0	10	0
配点	30	7	0	0	0	0	0	10	0

	配工業高等	安门子似	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	情報処理 I
科目基础	<b>礎情報</b>					
科目番号		0013		科目区分	一般 / 必修	§
授業形態		授業		単位の種別と単位	数 履修単位:	1
開設学科		機械工艺	科	対象学年	1	
開設期		前期		週時間数	2	
教科書/教 担当教員		高等学校 遠藤 健	を情報I (数研出版), ミニマニュアルシリ	リーズ これだけ!	Office 2021 8	Microsoft 365 (数研出版)
到達目						
ルーブ				٥.		
<del>ルーフ -</del>	シック		田相的 12 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	振送的+\70\**1 ×*		+701-41 - 611 - 612 - 61
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベ		未到達レベルの目安
評価項目	1		コンピュータや情報システムの応用的な操作ができる.	コンピュータや情 本的な操作ができ	報ン人テムの基 る	コンピュータや情報システムを十分に操作できない.
評価項目	2		情報の概念・価値・性質・影響について、社会との関連性を理解することができる.	情報の概念・価値ついて,理解する		情報の概念・価値・性質・影響について,理解することができない
評価項目	3		n進数表現・算術演算・論理演算を 理解することができ、自ら計算式 の変換・作成ができる.	n進数表現・算術演 理解することがで	質・論理演算を きる.	理解することができない.
評価項目	4		コンピュータの仕組み(ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク)について,理解することができ,それぞれの関係も理解できる.	コンピュータの仕 ア・ソフトウェア )について,理解す	・ネットワーク	コンピュータの仕組み(ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク)について,理解することができない.
評価項目	5		情報に関する法律・犯罪・セキュ リティについて,理解することが でき,自らの現状へ応用できる.	・ 情報に関する法律 リティについて, できる.	・犯罪・セキュ 理解することが	情報に関する法律・犯罪・セキュ リティについて,理解することが できない.
学科の	到達日煙I	項目との関	•	•		
<u> </u>		<u>жи С • У//</u>	J I/N			
	<del>広寸</del>	「桂井口」	の棚舎 医体 性筋 影郷丸 利労的	サーン・サービュー	<b>マキフ</b>	
概要			の概念・価値・性質・影響を, 科学的		<u>ਟਿਵਨ.</u>	
				/ニゥ+rさっせって		
授業の進	め方・方法	・本教科 <到達目 ・「到道 成を確認 <学業が ・中間記	の内容が学習・教育到達目標(B)<基礎> は座学・実技を織り交ぜて行っていく。 標の評価方法と基準> 詳目標」1~8を前期中間試験・前期末 できるレベルとする。 績の評価方法および評価基準> 、前期末試験の結果を合計70%,	試験, 課題および発		
	め方・方法	・ <・成<・る※<・・お<・・・扱本 到「を学中・中単学あ小よレ原備本う教 達到確業問 間位業ら学びポ則考教全	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は標の評価方法と基準> 国標」1~8を前期中間試験・前期末記できるレベルとする. 議の評価方法および評価基準> 試験,前期末試験の結果を合計70%, は験もしくは前期末試験が60点未満の 得要件> な績で60点以上を取得すること. いじめ要求される基礎知識の範囲> いや中学校の技術家庭科・情報科目・プロセッサの操作(文字入力とコピート等> 野回の授業における復習課題を課す. は後に学習する「情報セキュリティ概認の講義の基礎ともなる科目である.	試験,課題および発課題の評価を30% 諸へは再試験を行う コグラミング科目に ニーアンドペースト) 論」の基礎となる科	として, 100g て, MS-Windov を習得しているこ	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーション ことを前提とする.
注意点		・ <・成<・る※<・・お<・・・扱本 到「を学中・中単学あ小よレ原備本う教 達到確業問 間位業ら学びポ則考教全	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は標の評価方法と基準> 国標」1~8を前期中間試験・前期末記できるレベルとする. 議の評価方法および評価基準> 議験,前期末試験の結果を合計70%, 議験で60点以上を取得すること. にじめ要求される基礎知識の範囲> で中学校の技術家庭科・情報科目・プロードプロセッサの操作(文字入力とコピート等> 国の授業における復習課題を課す. は後に学習する「情報セキュリティ概にの講義の基礎ともなる科目である. には情報処理センター演習室で授業を認	試験,課題および発課題の評価を30% 諸へは再試験を行う コグラミング科目に ニーアンドペースト) 論」の基礎となる科	として, 100g て, MS-Windov を習得しているこ	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーション ことを前提とする.
注意点		・ く・成く・る※く・く・おく・く・扱・ 上 質知語が語 間値等らずびが則考教全室 区 上 の の と と と と と と と と と と と と と と と と と	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は標の評価方法と基準> 国標」1~8を前期中間試験・前期末記できるレベルとする. 議の評価方法および評価基準> 議験,前期末試験の結果を合計70%, 議験で60点以上を取得すること. にじめ要求される基礎知識の範囲> で中学校の技術家庭科・情報科目・プロードプロセッサの操作(文字入力とコピート等> 国の授業における復習課題を課す. は後に学習する「情報セキュリティ概にの講義の基礎ともなる科目である. には情報処理センター演習室で授業を認	試験,課題および発課題の評価を30% 諸へは再試験を行う コグラミング科目に ニーアンドペースト) 論」の基礎となる科	として, 100g て, MS-Windov を習得しているこ	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。 コンピュータ、インターネットを
注意点 <u>授業の</u> □ アクラ	属性・履作	・ く・成く・る※く・く・おく・く・扱・ 上 質知語が語 間値等らずびが則考教全室 区 上 の の と と と と と と と と と と と と と と と と と	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関係。 に	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にニアンドベースト)論」の基礎となる科実施する.	として, 100g て, MS-Windov を習得しているこ	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。 コンピュータ、インターネットを
注意点 <u>授業の</u> [ □ アクラ	属性・履作	・ く・成く・る※く・く・おく・く・扱・ 上 質知語が語 間値等らずびが則考教全室 区 上 の の と と と と と と と と と と と と と と と と と	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関係。 に	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にニアンドベースト)論」の基礎となる科実施する.	として, 100g て, MS-Windov を習得しているこ	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。 コンピュータ、インターネットを
注意点 <u>授業の</u> [ □ アクラ	属性・履作	・ く・成く・る※く・く・おく・く・扱・ 上 質知語が語 間値等らずびが則考教全室 区 上 の の と と と と と と と と と と と と と と と と と	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関係。 に	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にニアンドペースト)論」の基礎となる科実施する.	として, 100g て, MS-Windov を習得しているこ	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーションととを前提とする。 コンピュータ、インターネットを
注意点 <u>授業の</u> □ アクラ	属性・履作	・ <・成 <・る※ <・ <・お <・ <・扱・	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関標」1~8を前期中間試験・前期末記である. はでいたとする. はいいとするにはが、前期末試験の結果を合計70%,にはが要求される基礎知識の範囲> ないとが要求される基礎知識の範囲> ないでが要求される基礎知識の範囲> ないでが要求される基礎知識の範囲> ないでが要求される基礎知識の範囲> ないでが要求される基礎知識の範囲> ないである。と ないである。と ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にユアンドベースト)論」の基礎となる科実施する.	として, 100g . て, MS-Windowを習得している。 目である. また, 過ごとの到達目標.,,は授訴が行われて)内容が混在して内容が	点満点換算した結果を学業成績とす vsの基本的なマウスオペレーション ことを前提とする。
注意点 <u>授業の</u> [ □ アクラ	属性・履作	・ <・成 <・る※ <・ <・お <・ <・扱・	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関標。 1~8を前期中間試験・前期末記できるレベルとする. は験、前期末試験の結果を合計70%,にはが、前期末試験の結果を合計70%,にはが要求される基礎知識の範囲> ないとが要求される基礎知識の範囲> ない中学校の技術家庭科・情報科目・プロセッサの操作(文字入力とコピッサの授業における復習課題を課す。 は後に学習する「情報セキュリティ概にの講義の基礎ともなる和目である。または情報処理センター演習室で授業を設けています。  は後に対して、利用	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にユアンドベースト)論」の基礎となる科実施する.	として, 100g.  To MS-Window を習得している。  目である. また,  「会話を記されている。」  「会話を記されている。」  「は答が、記在している。」  「は容が、記をしている。」  「はいる。」  「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。 」 「はいる。 「はいる。」 「はいる。 「はいる。」 「はいる。 「はいる。」 「はいる。	は、満点換算した結果を学業成績とする。
注意点 <u>授業の</u> [ □ アクラ	属性・履作	<ul> <li>・ &lt; ・成 &lt; ・る※ &lt; ・ &lt; ・お &lt; ・ &lt; ・扱・</li> <li>・ がく・る※ &lt; ・ &lt; ・お &lt; ・ &lt; ・扱・</li> <li>上 グ</li> <li>週</li> <li>週</li> <li>10</li> </ul>	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は標の評価方法と基準> に関係の評価方法と基準 > に関係の評価方法と基準 > に関係している。 に関係している。 に関係のには前期未試験の結果を合計70%,に対象では対象のには前期未試験の結果を合計70%,に対象では対象では対象では対象では対象をできない。 に対している。 には、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にユーアンドベースト)論」の基礎となる科実施する.  □ 遠隔授業対応  の利用方法	として, 100g.  To MS-Window を習得している。  目である. また,  「会に、 の到達目標のは、 は一次では、 は一次では、 でいた。 は一次では、 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。 でいた。	は、満点換算した結果を学業成績とする。  wsの基本的なマウスオペレーションととを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ 標を活用できる。 なお、この到達目標 るたびに掲げられるものだが、省略
注意点 授業の)	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	<ul> <li>・ &lt; ・成 &lt; ・る※ &lt; ・・お &lt; ・・</li></ul>	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関でによりでは、1~8を前期中間試験・前期末にできるレベルとする. は験、前期末試験の結果を合計70%,に、は、前期末試験の結果を合計70%,に、は、前期末試験の結果を合計70%,に、は、前期末試験の結果を合計70%,に、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.	として、100g.  To MS-Windowを習得している。  目である.また、  の到達目標には授業が混在している。 は授業が混在している。 は情報の収集・ いて説明できる. こ記.2	は、満点換算した結果を学業成績とする。
注意点 授業の フクラ 授業計	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	・	は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法および評価基準> 、	試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.  □ 遠隔授業対応  の利用方法  ②  の利用方法	として、100g.  To MS-Windowを習得している。  目である. また、  の到達目標に、	に満点換算した結果を学業成績とす  vsの基本的なマウスオペレーション ととを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ を活用できる。なお、この到達目標 るたびに掲げられるものだが、省略  と理・発信・評価・管理・保護につ
注意点 授業の D アクラ	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	<ul> <li>・ &lt; ・成 &lt; ・る※ &lt; ・ &lt; ・お &lt; ・ &lt; ・扱・</li> <li>上グ</li> <li>週</li> <li>回</li> <li>回<td>は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準&gt; に関係の評価方法と基準&gt; に関係の評価方法と基準&gt; に関係の評価方法および評価基準&gt; は験、前期未試験の結果を合計70%、 に対しては前期未試験が60点未満のに対している。 に対しては前期未試験が60点未満のに対している。 には必要求される基礎知識の範囲&gt; においる要における復習課題を課す。 は後に学習する「情報や中・プローク・アント等&gt; にの授業における復習課題を課す。 は後に学習する「情報や中・プロークを表している。 には情報の理センター演習室で授業を認めて、 には情報処理センター演習室で授業を認めて、 には情報処理センター演習室で授業を認めて、 には情報処理センター演習室で授業を認めて、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には</td><td>試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ニーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.</td><td>として, 100g.  To MS-Window を習得している。  目である. また,  のでは、</td><td>に満点換算した結果を学業成績とす  vsの基本的なマウスオペレーション ととを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ を活用できる。なお、この到達目標 るたびに掲げられるものだが、省略  と理・発信・評価・管理・保護につ</td></li></ul>	は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準> に関係の評価方法と基準> に関係の評価方法と基準> に関係の評価方法および評価基準> は験、前期未試験の結果を合計70%、 に対しては前期未試験が60点未満のに対している。 に対しては前期未試験が60点未満のに対している。 には必要求される基礎知識の範囲> においる要における復習課題を課す。 は後に学習する「情報や中・プローク・アント等> にの授業における復習課題を課す。 は後に学習する「情報や中・プロークを表している。 には情報の理センター演習室で授業を認めて、 には情報処理センター演習室で授業を認めて、 には情報処理センター演習室で授業を認めて、 には情報処理センター演習室で授業を認めて、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ニーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.	として, 100g.  To MS-Window を習得している。  目である. また,  のでは、	に満点換算した結果を学業成績とす  vsの基本的なマウスオペレーション ととを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ を活用できる。なお、この到達目標 るたびに掲げられるものだが、省略  と理・発信・評価・管理・保護につ
注意点 授業の D アクラ	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	<ul> <li>・ &lt; ・成 &lt; ・る※ &lt; ・ &lt; ・お &lt; ・ &lt; ・ が、 ・</li></ul>	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関標。」1~8を前期中間試験・前期末記できるレベルとする. は験の評価方法および評価基準> は験、前期末試験の結果を合計70%,にしていて、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、	試験,課題および発課題の評価を30%者へは再試験を行うコグラミング科目にプーアンドペースト)論」の基礎となる科実施する.	として, 100g  .  て, MS-Window を習得している。 目である. また,  動ごとの到達目標 ., は内容・ . 計機業が行在している。 2. 情報できる・ こに説・2. 情報できる・ こ記・2 3. 文書作成アプ こ記・3 こ記・3	は満点換算した結果を学業成績とする。  wsの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ標を活用できる。なお、この到達目標をあるがに掲げられるものだが、自標のしまうので前期2周目以降から省略  整理・発信・評価・管理・保護につ  リの基本操作について説明できる。
注意点 授業の D アクラ	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	Part	は座学・実技を織り交ぜて行っていく. は際の評価方法と基準> に関標。 1~8を前期中間試験・前期末記できるレベルとする. は際の評価方法および評価基準>は験、前期末試験の結果を合計70%,に数・1000 には前期末試験の結果を合計70%,に数・1000 には前期末試験が60点末満の記憶で60点以上を取得すること. にめ要求される基礎知識の範囲>とで中学でロセッサの操作(文字入力とコピッサの授業における復習課題を課す. は後に学習する「情報や1日で変更が要素でで授業を記して、1000 には情報の理でで授業を記して、1000 には情報の理センター演習室で授業を記して、1000 には情報の理センター演習室で授業を記して、1000 には情報の理センター演習室で授業を記して、1000 には情報の理センター演習室で授業を記して、1000 には、1000 には、	武験,課題および発課題の評価を30% 者へは再試験を行うコグラミング科目にユアンドベースト) 論」の基礎となる科実施する.  □ 遠隔授業対応  □ の利用方法  □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	として, 100g  .  て, MS-Window を習得している。 目である. また,  動ごとの到達目標 . , , (持楽が行在して)である。 1、情報できる。 1、で説明できる。 1、文書作成アプ 1記. 3 1、表計算アプリ	は満点換算した結果を学業成績とする。 なの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。 コンピュータ、インターネットを □ 実務経験のある教員による授業 報通信ネットワーク、演習室パソコ標を活用できる。なお、この到達目標でしまうので前期2周目以降から省略 整理・発信・評価・管理・保護につ リの基本操作について説明できる。 の基本操作について理解している。
注意点 授業の □ アクラ	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	Part	は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法および評価基準> 試験、前期未試験の結果を合計70%、試験・前期未試験の結果を合計70%、 試験もしくは前期未試験が60点未満のに対している。 にはめ要求される基礎知識の範囲> においる復習課題を課す。 は後に学習する「情報やマラスカとコピードプロセッサの操作(文字入力とコピードプロセッサの操作(文字入力とコピードプロセッサの操作(文字入力とコピードの授業における復習課題を課す。 は後に学習する「情報や担きで授業を受ける。 「は後に学習する「情報や担当でで授業を受ける。」 「は後に対して、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、「ないでは、」では、「はないでは、「ないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、いきないでは、「はないでは、」はないでは、いきないでは、いきないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、いきないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないではないではないでは、はないではないではないではないでは、はないではないではないではないではないではないでは、はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.  □ 遠隔授業対応  の利用方法  □ 3	として、100g  .  て, MS-Window を習得している。 目である。また、  過ごとの到達目標	は満点換算した結果を学業成績とする。  wsの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ標を活用できる。なお、この到達目標をあるがに掲げられるものだが、目標のようので前期2周目以降から省略  整理・発信・評価・管理・保護につ  リの基本操作について説明できる。
注意点	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	Part	は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> にできるレベルとする。 説験、前期未試験の結果を合計70%、 試験、前期未試験の結果を合計70%、 試験、前期未試験の結果を合計70%、 試験、前期未試験の結果を合計70%、 にいめ要求される基礎知識の範囲> にいめ要求される基礎知識の範囲> にいめ要求される基礎知識の範囲> にいめ要求される復習課題を課す。 は後に学習する「情報セキュリティ概にの講義の基礎ともなる科目である。業を はは後に学習する「情報セキュリティ概にの講講の基礎ともなる科別習室で授業における復習課題をで授業を はないます。  「は後に学習する「情報とないの講習室で授業を はなるとリテラシー(歯、型とセキュリティの情報の理センター演習室で授業を はな式電子メール、学内無線LAN講習 を持ちます。 「情報に社会とリテラシー(word)の「にとリテラシー(word)の「にとリテラシー(word)の「にとリテラシー(excel)中間試験 の「にといてラシー(excel)中間試験	武験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.  □ 遠隔授業対応  の利用方法  「 」 」 」 」 」 」 」 」	として、100g  .  て, MS-Windov を習得している  目である。また、  型ごとの到達目標 に, は容がに対容がになって こ。情報が混在して たる。 に記、2 記、文書作成アプ 記記、3 に表計算アプリ にれまで学習した こ記、4	は満点換算した結果を学業成績とする。 なの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。 コンピュータ、インターネットを □ 実務経験のある教員による授業 報通信ネットワーク、演習室パソコ標を活用できる。なお、この到達目標でしまうので前期2周目以降から省略 整理・発信・評価・管理・保護につ リの基本操作について説明できる。 の基本操作について理解している。
注意点 授業の □ アクラ	属性・履作 ティブラーニ 画	Part	は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法および評価基準> 試験、前期未試験の結果を合計70%、試験・前期未試験の結果を合計70%、 試験もしくは前期未試験が60点未満のに対している。 にはめ要求される基礎知識の範囲> においる復習課題を課す。 は後に学習する「情報やマラスカとコピードプロセッサの操作(文字入力とコピードプロセッサの操作(文字入力とコピードプロセッサの操作(文字入力とコピードの授業における復習課題を課す。 は後に学習する「情報や担きで授業を受ける。 「は後に学習する「情報や担当でで授業を受ける。」 「は後に対して、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、「はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、「ないでは、」では、「はないでは、「ないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」では、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、」はないでは、「はないでは、いきないでは、「はないでは、」はないでは、いきないでは、いきないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、いきないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないでは、はないではないでは、はないでは、はないでは、はないではないではないでは、はないではないではないではないでは、はないではないではないではないではないではないでは、はないではないではないではないではないではないではないではないではないではないで	試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する.  □ 遠隔授業対応  の利用方法  「	として、100g  .  て, MS-Windov を習得している  .  ことの到達目である。また、  .  . (情報学派にはなって) . (情報できる) . (情報の収きる) . (表計学習したここ。3 . 表計学習したここ。4 . 表計学習したここ。4 . ここ。4	に満点換算した結果を学業成績とす  wsの基本的なマウスオペレーション ととを前提とする。  コンピュータ、インターネットを  □ 実務経験のある教員による授業  報通信ネットワーク、演習室パソコ標を活用できる。なお、この到達目標であるたびに掲げられるものだが、省略  整理・発信・評価・管理・保護につ  リの基本操作について説明できる。  の基本操作について理解している。 内容に対して説明ができる。
注意点 授業の □ アクラ	属性・履作 ティブラー <u>:</u> 画	Part	は座学・実技を織り交ぜて行っていく」 標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> 国標の評価方法と基準> にできるレベルとする。 説験、前期未試験の結果を合計70%、 試験、前期未試験の結果を合計70%、 試験、前期未試験の結果を合計70%、 試験、前期未試験の結果を合計70%、 にいめ要求される基礎知識の範囲> にいめ要求される基礎知識の範囲> にいめ要求される基礎知識の範囲> にいめ要求される復習課題を課す。 は後に学習する「情報セキュリティ概にの講義の基礎ともなる科目である。業を はは後に学習する「情報セキュリティ概にの講講の基礎ともなる科別習室で授業における復習課題をで授業を はないます。  「は後に学習する「情報とないの講習室で授業を はなるとリテラシー(歯、型とセキュリティの情報の理センター演習室で授業を はな式電子メール、学内無線LAN講習 を持ちます。 「情報に社会とリテラシー(word)の「にとリテラシー(word)の「にとリテラシー(word)の「にとリテラシー(excel)中間試験 の「にといてラシー(excel)中間試験	試験,課題および発 課題の評価を30% 者へは再試験を行う コグラミング科目に ーアンドペースト) 論」の基礎となる科 実施する. □ 遠隔授業対応 の利用方法 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	として、100g  .  て, MS-Windov を習得している  .  ことの到達目である。また、  .  . (情報学派にはなって) . (情報できる) . (情報の収きる) . (表計学習したここ。3 . 表計学習したここ。4 . 表計学習したここ。4 . ここ。4	は満点換算した結果を学業成績とする。 なの基本的なマウスオペレーションとを前提とする。 コンピュータ、インターネットを □ 実務経験のある教員による授業 報通信ネットワーク、演習室パソコ標を活用できる。なお、この到達目標でしまうので前期2周目以降から省略 整理・発信・評価・管理・保護につ リの基本操作について説明できる。 の基本操作について理解している。

		13週	情幸	<b>最に関する法律</b>	・犯罪		6. 情報に関する% るのか説明できる.	去律・犯罪	<b>にはどのよ</b>	うなものがあ
		14週	n進	数表現,2進数	の算術演算・論理演	算	7. 2進数・10x ことができる.	進数・16	進数に関す	る演算を行う
		15週	コンネッ	ノピュータの仕行 ノトワーク)	組み(ハードウェア・	ソフトウェア・	8. コンピュータの	の仕組みを	説明できる	•
		16週								
モデルコス	アカリキ	<u>-ユラ/</u>	ムの学	習内容と到達	目標				ı	
分類	1	分	野	学習内容	学習内容の到達目標	Ę			到達レベル	
		T	学実験技	5 工学実験技	実験テーマの目的を ら近似曲線を求める 果的に表現すること				2	前4,前5,前 6,前7,前 8,前9,前 10,前11,前 12
		術		術	必要に応じて適切なでき、定量的・論理 きる。	文献や資料を収算的な考察を行い、	集し、実験結果につ 報告書を作成する	いて説明 ことがで	2	前4,前5,前 6,前7,前 8,前9,前 10,前11,前 12
					社会の情報化の進展	そと課題について	理解し説明できる。		2	前1,前2,前 3,前8
					代表的な情報システ	ムとその利用形態	態について説明でき	:る。	1	前1,前2,前 3,前8
					コンピュータの構成 理解し、基本的な取	えとオペレーティン 扱いができる。	ングシステム(OS)の	O役割を	2	前15
基礎的能力	工学基礎	ķ			アナログ情報とデジデータ(数値、文字	ジタル情報の違い。 等)の表現方法にて	と、コンピュータ内 ついて説明できる。	における	2	前14
- ANCE 718073			報リテラ	・情報リテラ	情報を適切に収集・	取得できる。			2	前1,前4,前 5,前6,前 7,前8,前 9,前10,前 11,前12
		シ	_	シー	データベースの意義	と概要について記	説明できる。		1	前2,前3,前 8
					情報セキュリティの	必要性を理解し、	対策について説明	lできる。	2	前2,前3,前 8
					情報セキュリティに	基づいた情報への	のアクセス方法を説	明できる	1	前2,前3,前 8
					情報や通信に関連すできる。	る法令や規則等の	と、その必要性につ	いて説明	2	前13
					情報社会で生活するできる。	上でのマナー、	モラルの重要性につ	いて説明	2	前2,前3,前 8
					情報セキュリティを	運用するための	考え方と方法を説明	lできる。	1	前2,前3,前 8
評価割合										
	試馬	<b></b>		課題	相互評価	態度	発表	その他		計
総合評価割合				30	0	0	0	0		00
配点	70			30	0	0	0	0	10	00

———— 鈴馬	 第工業高等	事門学校	開講年度	令和06年度(2	2024年度)	授業科目	情報セキュリティ概論
科目基础			VI) E1461/1	15120112 (2		1,0011111	
科目番号		0014			科目区分	一般 / 必何	タ
授業形態		授業			単位の種別と単		
	-		· <b>1</b> N		1		1
開設学科	•	機械工学	·^		対象学年	1	
開設期	VL 1 -1	後期	· .k±+0+ /*/	\	週時間数	2	WE)
教科書/教				),ポイント整理	情報セフル 15t	h Edition(数研出	版)
担当教員		遠藤 健力	7				
到達目	<u>標</u>						
情報の重	要性を理解	し,情報セキ	ニュリティの基礎,持	支術,必要性を理解	, 導入, 周知でき	る.	
ルーブ	リック						
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ	ベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目	1		情報セキュリテ ついて,理解し ことができる.	イ技術の必要性に , 導入, 周知する		ィ技術の必要性に ることができる.	情報セキュリティ技術の必要性について,理解することができない。
評価項目	12		情報セキュリテ , 理解すること 用について説明	ができ,応用や適	情報セキュリティス・理解すること	ィ技術について ができる.	情報セキュリティ技術について , 理解することができない.
評価項目	13			ステムについて めて説明できる.	コンピュータシ. , 理解すること:	 ステムについて ができる.	コンピュータシステムについて , 理解することができない.
評価項目	14		ネットワーク技 することができ きる.	術について,理解 ,構築や利用がで	ネットワーク技 することができ	析について, 理解 る.	ネットワーク技術について, 理解することができない.
学科の?	到達日標]	項目との関			•		
<u>」(1702</u> 教育方)		<u>,                                    </u>	1111				
	<b>広</b> 寸	性却でも	・西州を明知! ホキキキ	22カナュリー・ヘサ	7林 壮壮 ンボル	<b>左珊般 道                                   </b>	ロッキス
概要				限セキュリティの基 別を日標(D) (基礎)		で理胜,得人,周	如じさる.
授業の進	め方・方法			列達目標(B)<基礎> Ͻ交ぜて行っていく			
注意点 	属性・履	   マ単位修   ・学業成   マルポー   原則, 毎   マ備考 >	得要件> 績で60点以上を ト等> 回の授業後に復習F たは情報処理センタ				
	ティブラー:		☑ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u>2</u>	□ 実務経験のある教員による授
授業計	画						
	<u> </u>	週	授業内容			週ごとの到達目標	
					:ナフ& <b>:</b>		ティの必要性とその脅威について説
		1週	カイタン人、情報7	セキュリティと関連	19る筲娗	明できる.	ナイの必安はとての自成についてご
		2週	情報セキュリティ	に即ませて名式		M CG 20:	ナイの必安はこての自然に ノい ( )
		3週	情報のデジタル表現	と   と   と   と   と   と   と   と   と   と		上記. 1	アイの必安住とての自成に りいしょ
	1		IH+IXOJJ J J J J J Z Z Z			上記. 1	アイの必要はこその自成に りいて に ル 表現について説明できる.
	1 .	4週	情報のデジタル表現	現		上記. 1	
	3rdQ		情報のデジタル表現	見	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホ について説明できる.
	3rdQ	4週	情報のデジタル表現	現 現 組み, オペレーティ	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットワーク	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 様について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりに
	3rdQ	4週 5週 6週	情報のデジタル表 コンピュータの仕 役割 ネットワークの基	現 現 組み, オペレーティ	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットワーク ついて説明できる	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 株について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりに
後期	3rdQ	4週       5週       6週       7週	情報のデジタル表 コンピュータの仕 役割 ネットワークの基 ネットワーク技術	現 現 組み, オペレーティ	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットワーク ついて説明できる 上記. 4	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりに.
後期	3rdQ	4週       5週       6週       7週       8週	情報のデジタル表 コンピュータの仕 役割 ネットワークの基 ネットワーク技術 中間試験	現 現 組み, オペレーティ	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットワーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がり(
後期	3rdQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週	情報のデジタル表す コンピュータの仕 役割 ネットワークの基本 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2.情報のデジタ 上記. 2 3.コンピュータ 築されるシステム 4.ネットワーク ついて説明できる 上記.4 これまで学習した 上記.4	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がり(
後期	3rdQ	4週         5週         6週         7週         8週         9週         10週	情報のデジタル表 コンピュータの仕 役割 ネットワークの基 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2.情報のデジタ 上記. 2 3.コンピュータ 築されるシステム 4.ネットワーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりい. 内容に対して説明ができる.
後期	3rdQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週	情報のデジタル表す コンピュータの仕 役割 ネットワークの基本 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2.情報のデジタ 上記. 2 3.コンピュータ 築されるシステム 4.ネットワーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりい. 内容に対して説明ができる.
後期		4週         5週         6週         7週         8週         9週         10週	情報のデジタル表 コンピュータの仕 役割 ネットワークの基 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2.情報のデジタ 上記. 2 3.コンピュータ 笑されるシステム 4.ネットワーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4 5.コンピュータ できる.	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりい. 内容に対して説明ができる.
後期	3rdQ 4thQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	情報のデジタル表す コンピュータの仕様 役割 ネットワークの基準 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運 データの分析	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2.情報のデジタ 上記. 2 3.コンピュータ 築されるシステム 4.ネットワーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4 上記. 4	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, ホについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりい. 内容に対して説明ができる.
後期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週	情報のデジタル表 コンピュータの仕 役割 ネットワークの基 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運 データの分析 データの分析 事例研究(1)	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットワーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 4 5. コンピュータ できる. 上記. 5 6. 事例から問題	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 札について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がり(). 内容に対して説明ができる.
後期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週	情報のデジタル表す コンピュータの仕 役割 ネットワークの基 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運 データの分析 データの分析 事例研究(1) 事例研究(1)	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットリークついて説明できる上記. 4 これまで学習した上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 5 6. 事例から問題上記. 6	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, れについて説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりいた。 内容に対して説明ができる. システムの知識を元にデータ分析が
後期		4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	情報のデジタル表すコンピュータの仕様役割 ネットワークの基本ネットワーク技術中間試験 ネットワーク構成情報システムと運がデータの分析 データの分析	見 現 組み, オペレーティ 遊	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットリークついて説明できる上記. 4 これまで学習した上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 5 6. 事例から問題上記. 6	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 村について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりい. 内容に対して説明ができる. システムの知識を元にデータ分析が点改善点を指摘できる.
	4thQ	4週       5週       6週       7週       8週       9週       10週       11週       12週       13週       14週       15週       16週	情報のデジタル表現 コンピュータの仕様 役割 ネットワークの基準 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運動 データの分析 データの分析 事例研究(1) 事例研究(2)	現 現 組み, オペレーティ 遊 用	ングシステムの	上記. 1 2. 情報のデジタ上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットリークついて説明できる上記. 4 これまで学習した上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 5 6. 事例から問題上記. 6	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 札について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりし. 内容に対して説明ができる. システムの知識を元にデータ分析が
モデル:	4thQ	4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 キュラムの	情報のデジタル表現 コンピュータの仕様 役割 ネットワークの基準 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運 データの分析 データの分析 事例研究(1) 事例研究(1) 事例研究(2)	現 現 組み, オペレーティ 遊 計 目標		上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットリーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 5 6. 事例から問題 上記. 6	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 株について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりい. 内容に対して説明ができる. システムの知識を元にデータ分析が点改善点を指摘できる. 野と本授業との関係が説明できる.
後期 モデル: 分類	4thQ	4週       5週       6週       7週       8週       9週       10週       11週       12週       13週       14週       15週       16週	情報のデジタル表現 コンピュータの仕様 役割 ネットワークの基準 ネットワーク技術 中間試験 ネットワーク構成 情報システムと運動 データの分析 データの分析 事例研究(1) 事例研究(2)	現 現 組み, オペレーティ 遊 用		上記. 1 2. 情報のデジタ 上記. 2 3. コンピュータ 築されるシステム 4. ネットリーク ついて説明できる 上記. 4 これまで学習した 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 4 上記. 5 6. 事例から問題 上記. 6	ル表現について説明できる. の構成, ハード・ソフトの役割, 株について説明できる. 技術, 構成, システムとの繋がりに、 内容に対して説明ができる.

代表的な情報システムとその利用形態について説明できる。			後1 後2 後
		1	後1,後2,後 6,後7,後 8,後9,後10
コンピュータの構成とオペレーティングシステム(OS)の役害 理解し、基本的な取扱いができる。	則を	2	後5,後6,後 7,後8,後9
アナログ情報とデジタル情報の違いと、コンピュータ内にお データ(数値、文字等)の表現方法について説明できる。	Sける	2	後3,後4,後 8
情報を適切に収集・取得できる。		2	後6,後7,後 8,後9,後10
データベースの意義と概要について説明できる。		1	後11,後12
情報セキュリティの必要性を理解し、対策について説明でき	<b>₹</b> る。	2	後1,後2,後 8,後13,後 14,後15
情報セキュリティに基づいた情報へのアクセス方法を説明で。	ぎきる	1	後1,後2,後 8,後13,後 14,後15
情報や通信に関連する法令や規則等と、その必要性についてできる。	説明	2	後1,後2,後 8,後13,後 14,後15
情報社会で生活する上でのマナー、モラルの重要性についてできる。	説明	2	後1,後2,後 8,後10,後 13,後14,後 15
情報セキュリティを運用するための考え方と方法を説明でき	きる。	1	後1,後2,後 8,後10,後 13,後14,後 15
評価割合		·	
試験   課題   相互評価   態度   ポートフォリオ   その	D他	合計	t
総合評価割合 70 30 0 0 0 0		100	
配点 70 30 0 0 0 0		100	)

	:   圣局等	専門学校	開講年度	令和06年度(2	2024年度)	授	業科目	 基礎数学 A
ᄭᄆᄆᄯ	<u>工来问与</u> 楚情報	7) 1 X	ארד דייינויון	1 12 1HOO FIX (2		1 12:	~~ I I I	
科目番号	E I FIX	0015			科目区分		一般 / 必何	\$
77日留 <u>5</u> 授業形態		授業			単位の種別と単位	<b>计数</b>		
開設学科		機械工学	**************************************		対象学年	11 AV	<u> 报 1                                  </u>	7
開設期		通年	717		週時間数		4	
		<del></del>	 「基礎数学」(佐々			「基礎数		(数理工学社),ドリルと演習シ
教科書/教	(材	<u> </u>	基礎数学」(TAM		編集).	1-1-7-1-2	X 1 1-1AE2/K.	
担当教員	#F	飯島 和ノ	(					
到達目標		D = 1.66. ==						
整式,分数 分に慣れ理	数式,無理 理解してい	式の計算に習 て応用も出来	熟し,集合と命題の  そる。	D基礎概念を理解し 	論理的思考ができ	, 三角	関数・指数	関数・対数関数の計算やグラフに十
ルーブリ	ノック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レイ	ベルの目	安	未到達レベルの目安
評価項目1	1		数と式の基本的が解し,応用的な問	な性質を十分に理  題を解くことがで	数と式の基本的な問題を解り	な性質を くことか	理解し,基 できる.	数と式の基本的な性質の理解が不 十分で,基本的な問題を解くことか できない.
評価項目2	2		方程式・不等式	・命題の基本的な 解し,応用的な問題 きる.	方程式・不等式 性質を理解し,基 ことができる.	・命題の 本的な	)基本的な 問題を解く	方程式・不等式・命題の基本的な 性質の理解が不十分で,基本的な問題を解くことができない.
評価項目3	3		三角関数の基本的	ーー 的な性質を十分に 問題を解くことが	指数関数・対数に 質を理解し,基本 とができる。	関数の基 的な問題	基本的な性 質を解くこ	指数関数・対数関数の基本的な性質の理解が不十分で,基本的な問題を解くことができない.
評価項目4	1		指数関数・対数	関数の基本的な性 し,応用的な問題を る.	三角関数の基本的人は問題を			三角関数の基本的な性質の理解が 不十分で、基本的な問題を解くこと ができない.
評価項目5	5			する応用的な問題	個数の処理に関す を解くことができ		的な問題	個数の処理に関する基本的な問題 を解くことができない.
学科の至	到達目標耳	頁目との関	 ]係					
教育方法	 法等							
概要		記述する	礎となる数や数式の 欠な重要な関数をよ ための論理的な思考 の考え方を身につい	ぎを身に付ける.ま	式について学んだだ きる能力を身につ た, 場合の数につい	後, 三角 けてもら いては,	列関数およる うう、集合。 身近な題材	び指数・対数関数という自然科学に と論理について学び,正しく証明を 才を効率よく数えることを通じて順列
授業の進め	め方・方法	各授業に	容は,学習・教育到画」における各週の あ」における各週の おける説明事項はあ とめたプリントをチ 間にはiPadを利用す	5らかじめ指定する チェックすると共に	動画教材により学 問題演習を中心に	習し. 、	・能力」に ノートやプ <sup>ロ</sup>	目当するものとする. リントにまとめておくこと. 授業にお
		果におい	て100点法で60点り 績の評価方法および	<b>よ上の成績を取得し</b>	たとき目標を達成	したとる	する.	9中間試験,前期末試験,後期中間詞票の重みは概ね均等とする.評価結
注意点		30%としまの後にはいる。	試験を課し,再試験 が続くで置き換えるも 得要件> 学業成績 じめ要求される基礎 式の計算,三平方の iPadを利用し指 毎回配布する課題	間毎に評価し、これ 使の成績が定期試験 5のとする。 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識のを選別でを の方法で課までに を次の授業までに こっかり理解し	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すで学んだ数学の矢同条件・相似条件 はまること、長期代 は実にやっておくで で実になっておくで で対しておくで	深評価と、 場合には 一識を周がまた。 が業と、といる。 にないこと	学年末の話する. ただま, 60点 要と中心単元ででは、 60点 またびに変われる またが できる 10点 できる 10	験結果を70%, 小テストや課題をし、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式,ルーカ関係等を復習しておくこと。ごとに個人に対する課題を課す. いらなかった課題等は、教科書で調べ資料はTeamsに掲載するので、こま料である.
	属性・履修	30%としまの後にはいる。	試験を課し、再試験 成績で置き換えるも 得要件> 学業成績 であ要求される基礎 ではのまり、三平方の iPadを利用し指定 毎回配布する課題 に質問するなどして はすること、本教科に	間毎に評価し、これ 使の成績が定期試験 5のとする。 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識のを選別でを の方法で課までに を次の授業までに こっかり理解し	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すで学んだ数学の矢同条件・相似条件 はまること、長期代 は実にやっておくで で実になっておくで で対しておくで	深評価と、 場合には 一識を周がまた。 が業と、といる。 にないこと	学年末の話する. ただま, 60点 要と中心単元ででは、 60点 またびに変われる またが できる 10点 できる 10	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと・ことに個人に対する課題を書す。 りらなかった課題等は、教科書で調へ 資料はTeamsに掲載するので、こま
授業の属	<u>属性・履信</u> -ィブラーニ	30%としている。	試験を課し、再試験 成績で置き換えるも 得要件> 学業成績 であ要求される基礎 ではのまり、三平方の iPadを利用し指定 毎回配布する課題 に質問するなどして はすること、本教科に	間毎に評価し、これ 使の成績が定期試験 5のとする。 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識のを選別でを の方法で課までに を次の授業までに こっかり理解し	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すで学んだ数学の矢同条件・相似条件 はまること、長期代 は実にやっておくで で実になっておくで で対しておくで	評価といる。 記識 円 を 記述 円 中 だっここと で で で で で で で で で で で で で で で で で で	学年末の話する. ただま, 60点 要と中心単元ででは、 60点 またびに変われる またが できる 10点 できる 10	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーD関係等を復習しておくこと、ごとに個人に対する課題を課す。いらなかった課題等は、教科書で調へ資料はTeamsに掲載するので、こま料である。
授業の属	・イブラーニ	30%としている。	試験を課し、再試験を課し、再試験を課し、再試験が成績で置き換えるも 得要件> 学業成績 じめ要求される平方の 計Padを利用し指定 毎回配布する課題 に質問するよとして すること、本教科に	間毎に評価し、これ 使の成績が定期試験 5のとする。 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識のを選別でを の方法で課までに を次の授業までに こっかり理解し	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すること、 学で学んだ数学の矢 同条件・相似条件 出すること、長期作 在実にやっておくこ てから次の授業に 積分 I ,線形代数	評価といる。 記識 円 を 記述 円 中 だっここと で で で で で で で で で で で で で で で で で で	学年末の話する. ただま, 60点 要と中心単元ででは、 60点 またびに変われる またが できる 10点 できる 10	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと、ごとに個人に対する課題を課す。いらなかった課題等は、教科書で調べ資料はTeamsに掲載するので、こま料である。
授業の属	・イブラーニ	30%として 者には 再は は は は を の と の を で の を の を の の を の の を の の の の の の の の の の の の の	試験を課し、再試験 成績で置き換えるも 得要件> 学業成基 じめ要求される平方の iPadを利用し指定 毎回配布する課題 に質問するなどして はてること・本教科に 図 ICT 利用	間毎に評価し、これ 使の成績が定期試験 5のとする。 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識のを選別でを の方法で課までに を次の授業までに こっかり理解し	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すること、 すで学んだ数学の矢 同条件・相似条件 まること、長期代 を実にやっておくる てから次の授業に 積分 I , 線形代数	評価には、おいまでは、一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、一部では、一部	学年末の記録を表の記録を表の記録を表示にある。 60点を要とする。 6とびるによびによりに業中では、業工・となる教育を表する。 6となる教育を表する。 6となる 6となる 6となる 6となる 6となる 6となる 6となる 6となる	し、定期試験で60点に達していない 上限としてそれぞれの試験の成績を 特に、因数分解、2次方程式、ルー の関係等を復習しておくこと・ ごとに個人に対する課題を課す・ からなかった課題等は、教科書で調へ 資料はTeamsに掲載するので、こま 斗である・
授業の原図 アクテ	・イブラーニ	30%としまで 名には を を は は い く り る を り る り る り る り る り る り り る り り り り	試験を課し、再試験 成績で置き換えるも 得要件> 学業成績 じめ要求される平方の iPadを利用し指定 毎回配布する課題 に質問するよとして すること. 本教科に 図 ICT 利用	間毎に評価し、これ 後の成績が定期試験 がの成績が定期試験 で60点以上を取得 知識の範囲> 中等 知識のご選題を認め の方法で課題を提い を次の授業までにで 、しつかり理解 後に学習する微分	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すること、 学で学んだ数学の矢 同条件・相似条件 出すること、長期作 産実にやっておくこ てから次の授業に 積分Ⅰ,線形代数	評価には必用を対しています。 いまれては、おいます。 いまれては、おいます。 いまれては、おいます。 いまれては、おいます。 いまれては、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これで	学年末の記 学年、60点 要もとび中で ま、60点 要もとび中で では、業・きと の到達 の の の の の の の の の の の の の	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと。ことに個人に対する課題を課す。 ○らなかった課題等は、教科書で調へ 資料はTeamsに掲載するので、こま 対である。
授業の属図 アクテ	・イブラーニ	30%としまでは、10%としまでは、10%としまで、10%としまで、10%には、1	試験を課し、東京るも 様子の はない。 はな。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	間毎に評価し、これ 後の成績が定期試験 の成績が定期試験 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識の一等の方法で が定理、三角形の の方法で で次の授業で に大しつ。 な次ので は後に学習する微分	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すること、 学で学んだ数学の矢 同条件・相似条件 出すること、長期作 産実にやっておくこ てから次の授業に 積分Ⅰ,線形代数	評価には、必用は、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般で	学年末の記する。60点を 要とする。60点を 要とする。60点を 要といるに 要といるに 実力に 要といる 1点に 要となる 2点に 実力に 要となる 2点に 単元 ない 2点に 単元 また 2点に	し、定期試験で60点に達していなし上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと。ごとに個人に対する課題を課す。いらなかった課題等は、教科書で調からなかった課題等は、教科書で調からいるかった課題等は、教科書で調からいるかった課題等は、教科書で調からいる。  □ 実務経験のある教員による授業
授業の属	・イブラーニ	30%としまで 名には を を は は い く り る を り る り る り る り る り る り り る り り り り	試験を課し、再試験を課し、再試験を課し、再試験が成績で置き換業のを要素を表するできた。	間毎に評価し、これ 後の成績が定期試験 の成績が定期試験 で60点以上を取得 知識の範囲 > 中等 知識の一等の方法で が定理、三角形の の方法で で次の授業で に大しつ。 な次ので は後に学習する微分	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること、 すること、 学で学んだ数学の矢 同条件・相似条件 出すること、長期作 産実にやっておくこ てから次の授業に 積分Ⅰ,線形代数	評価といい。 部内 部内 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	学年末の記念を表しています。 60点を 要といるに、 では、 60点を では、 60点を では、 50点に では、 50点に では、 50点に できる。 6点に でき	し、定期試験で60点に達していなし上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこととではしたに対する課題等は、教科書で調からなかった課題等は、教科書で調からなかった課題等は、教科書で調からなかった課題等は、教科書である。  □ 実務経験のある教員による授業  除の計算や、式の展開ができる。  分解の公式を理解し、利用できる。
授業の属図 アクテ	・イブラーニ	30%としまでは、10%としまでは、10%としまで、10%としまで、10%には、1	試験を課し、東京るも 様子の はない。 はな。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。 はない。	間毎に評価し、これ 焼の成績が定期試験 気のとする。 で60点以上を取得 知識の一点の に知識の一点の に知識の一点の に知識の一点の に知識の一点の を次のでで ででのようでで ででのは、 ででのは、 ででのは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのがいまでは、 ででのが、 ででのは、 ででのは、 ででのは、 ででのは、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででのが、 ででいるが、	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること・ すること・ すで学んだ数学の矢間条件・相似条件・相似条件・をつておくででから次の授業にである。 は実にから次の授業には、 最別が、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	評場 ・ では、 ・ では、 、 では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 ・ では、 、 で	学すよ、60年末の記念を表しています。 という では、 という という では、 という という では、 という という という という では、 という という には、 という という には、 という にはいいう には、 という にはいいう にはいいう にはいいう にはいいう にはいいう にはいいう にはいいう にはいいう にはいいいう にはいいう にはいいう にはいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいう にはいいいいいいいいいい	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと。これではに対した課題等は、教科書で調りらなかった課題等は、教科書で調りらなかった課題等は、教科書で調りらなかった課題等は、教科書で調りである。  「実務経験のある教員による授業をの計算や、式の展開ができる。」  「大解の公式を理解し、利用できる。」  「利用して、4次までの簡単な整式の・・公約数を理解している。
授業の属図 アクテ	・イブラーニ	30%としまのとします。 名は験の	試験を課し換を課し 原える様で置く で置く 学業成基礎 じめ要す。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	間毎に評価し、これ 飲の成する。 で60点以上を取得 にで60点以上を取得 にで60点が定期、を取得 に対しまを取得 に対した。 に対した。 を次の方法で受力がりまではした。 を次の方がりまでは、 を次の加減・乗法・ を式の加減・乗法・ には、 を式の公約数	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること・ すること・ すで学んだ数学の矢間条件・相似条件・相似条件・をつておくででから次の授業にである。 は実にから次の授業には、 最別が、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	評場   コート   1   1   2   3   3   4   5   5   1   2   3   4   5   5   5   6   6   7   7   7   7   7   7   7   7	学す。 60 ま、 という では、 という でん さい という でん はい という はい という はい という はい という はい という はい という はい はい という はい はい という はい	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと、ごとに個人に対する課題を課す。からなかった課題等は、教科書で調か当ればTeamsに掲載するので、こまれである。  「実務経験のある教員による授業学のの計算や、式の展開ができる。分解の公式を理解し、利用できる。  利用して、4次までの簡単な整式の・・公約数を理解している。 の意味を理解し、絶対値の簡単な計
授業の属図 アクテ	サード・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・	30%としまのとしまでは 名は は は は ない ない ない ない ない ない ない ない ない ない	試験を課し換を課した。 東える様で含される平均には、 は、できないできないでは、 は、できないでは、 は、できないでは、 は、できないでは、 は、できないできないでは、 は、できないできないできないでは、 は、できないできないでは、 は、できないできないできないできないできないできないでは、 は、できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない	間毎に評価し、これ 後の成する以上を に調えずる。 で60点範囲の に知識の、こまでは、 に知識の、こまでは、 に知識の、こまでは、 で次の方がでする。 で方での方がでする。 では、 を式の加減・乗法・ を式の加減・乗法・ を式の加減・乗法・ には、、 に理、整式の公約数 をは、、 に理、を式の公約数 をは、、 に理、を式の公約数 をは、、 に理、を式の公約数 をは、、 に理、を式の公約数 をは、、 に理、を式の公約数 をは、、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること・ すること・ すで学んだ数学の矢間条件・相似条件・相似条件・をつておくででから次の授業にである。 は実にから次の授業には、 最別が、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	評場   コート   1   1   2   3   3   4   5   5   6   6   6   1   1   1   1   1   1   1	学すよ、 要とは、 というでは、 といういうでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 というでは、 という	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと、ごとに個人に対する課題を課す。からなかった課題等は、教科書で調か当ればTeamsに掲載するので、こまれである。  「実務経験のある教員による授業学のの計算や、式の展開ができる。分解の公式を理解し、利用できる。  利用して、4次までの簡単な整式の・・公約数を理解している。 の意味を理解し、絶対値の簡単な計
	サード・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・	30%とは既の修かさ > / 長記	試験を課し、換業を課し、換業成権で置き業成権で置き業成基礎できれる平指型です。 一個 「自動を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を	間毎に評価し、これ に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること・ すること・ すで学んだ数学の矢間条件・相似条件・相似条件・をつておくででから次の授業にである。 は実にから次の授業には、 最別が、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	評場	学すよ、 要とは、	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくことにできたに関しに対する課題を課す。からなかった課題等は、教科書で調べ資料はTeamsに掲載するので、こま料である。 □ 実務経験のある教員による授業学の計算や、式の展開ができる。  利用して、4次までの簡単な整式の・・公約数を理解している。 の意味を理解し、絶対値の簡単な計的な計算ができる(分母の有理化も乗除の計算ができる。
授業の属図 アクテ	サード・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・エー・	30%とは (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本) (本)	試験を課します。 は	間毎に評価に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	らの平均値を最終の成績を上回った。 すること・ すること・ すで学んだ数学の矢間条件・相似条件・相似条件・をつておくででから次の授業にである。 は実にから次の授業には、 最別が、 は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	評場	学すす、要はよ業にとの式、本に数解式数き方に数理で次年3、60 まで、といび中授ないでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きなのでは、大きないでは、大きなのでは、大きないでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	し、定期試験で60点に達していない上限としてそれぞれの試験の成績を特に、因数分解、2次方程式、ルーの関係等を復習しておくこと、ごとに個人に対する課題を課す。からなかった課題等は、教科書で調か当ればTeamsに掲載するので、こまれである。  「実務経験のある教員による授業学のの計算や、式の展開ができる。  「別用して、4次までの簡単な整式ので、2は、2の意味を理解している。」  「会別を理解している。」 「会別を記述されている。」 「会述されている。」 「会別を記述されている。」

評価割合	<u> </u>			, , , , , ,	, H, ,H , , , , , , , , , , , , , , ,				1-1		
分類	コグルワー	<u>- ユラム()</u> 分野	ノ子首	内容と到達 <sub>学習内容</sub>	日信 学習内容の到達目	 ]標			到達レベル	授業	週
エデリー	<u> </u> コマカロイ	16週  - コ <b>ラ</b> ム の	7 学习	内のレ列法							
		15週	円順列	列,場合の数に	こ関する様々な演習	12 1	35. 様々な場合( 上記33~35	ル女Xで廻り. 	ルケス件へ		(20
		14週	組合t	せ, 二項定理			上記34. 35. 様々な場合の	の粉を油H	コに多う級ノ	マレが	できる
		13週	積の流	去則・和の法則	則,順列		33. 積の法則と場合の数を数える。 34. 簡単な場合 きる.	和の法則を ことができ について,	 利用して, る. 順列と組合	 簡単な せの計算	事象の
	4thQ	12週	常用対	対数,指数関数	数・対数関数に関す	 する様々な演習	32. 常用対数を 上記26~32	利用した問		とがで	きる.
		11週	対数関	関数とグラフ,	対数方程式		30. 対数関数のができる. 31. 対数関数を記る.		•		
		10週	対数な	とその性質			29. 対数の意味きる	を理解し,	対数を利用	した計算	算がで
後期		9週	指数關	関数とそのグラ	ラフ,指数方程式		27. 指数関数のできる. 28. 指数関数を行る.		•		
		8週	後期口	中間試験			上記18,20~	2 6			
		7週	指数位	の拡張・累乗机	艮		26. 累乗根の意味	味を理解し ができる.	ノ,指数法則 	を拡張	し, 計
		6週	和積化習	の公式・積和の	の公式, 三角関数(	こ関する様々な演	上記16~25				
	Jiuq	5週	三角	関数の合成, 3	三角方程式・三角ス	不等式	上記22,23 24.三角関数を記る。 25.三角関数を記			くこと	ができ
	3rdQ	4週			公式,半角の公式		22. 加法定理お することができる. 23. 加法定理お を使うことができ	よび加法定			
		3週	三角	 関数のグラフ	(正接) , 周期		上記21				
		2週			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	弦)	20. 角を弧度法 21. 三角関数の できる.	で表現する 性質を理解	ることができ なし, グラフ	る. を書く	ことが
		1週	一般角	 角と三角関数の	 D値		上記18				
		15週 16週	止弦	正埋・余弦正均	里, 三角形の面積		19. 正弦定理・	余弦正埋を	生解し, 利	用でき	<b>ර</b>
		14週			系, 三角比の鈍角/	への拡張	17. 三角関数の る. 18. 一般角の三1	角関数の値	を求めるこ	とがで	きる.
		13週	方程式	尤・不等式・右	命題に関する様々だ	な演習, 三角比	上記9~15 16. 三角比を理り 求めることができ	る.			
		12週	等式	・不等式の証明	<b>归</b>		15. 等式・不等:   程を記述すること	式の証明に ができる.	ついて埋解	し, 証	明の過
		11週	集合。	と命題			14.集合と命題にている.				
		10週	恒等記	式,高次方程式	式・高次不等式		12. 因数定理等 解くことができる。 13. 因数定理等 ができる。	を利用して 	, 高次不等	式を解	くこと

鈴牌		 穿専門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	基礎数学B
	<u> </u>	<u> </u>	וארו און און און און און און און און און או	10211/2/	<u> </u>	
<u>-                                    </u>		0016		科目区分	一般 / 必修	:
授業形態	,	授業		単位の種別と単位数		
開設学科	4	機械工学	科	対象学年	1	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/勃		「基礎数		社)問題集:「基礎数	数学問題集」(数	理工学社),ドリルと演習シリーズ 
担当教員	-	川本 正治	<u> </u>			
到達目						
2次関数 る.	なについてク	フノや判別式	など関連する基本的な性質を理解し利力	用でき, 半面図形と	万程式の関係を均	<b>E解し様々な問題の解決に利用でき</b>
	リック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベル	の目安	未到達レベルの目安
評価項目	1		2次関数に関する応用的な問題を解くことができる.	2次関数に関する基 くことが出来る.	本的な問題を解	2次関数に関する基本的な問題を解くことができない.
評価項目	12		関数とグラフに関する応用的な問 題を解くことができる.	関数とグラフに関す 題を解くことができ		関数とグラフに関する基本的な問 題を解くことができない.
評価項目	13		図形と式に関する応用的な問題を 解くことができる.	図形と式に関する基 解くことができる.	基本的な問題を	図形と式に関する基本的な問題を 解くことができない.
学科の	到達目標	項目との関	係			
教育方	法等					
概要		の学力を	いて多くの場面で利用される2次以下の平行移動,対称移動と90度回転,逆身につける.直線と2次曲線に関してはを解決する.	の式で表せる関数,類 関数や2次方程式・ は,図形を方程式で表	無理関数,分数関 2次不等式等を発 し,図形の性質	別数,直線と2次曲線について学ぶ 系統的に理解し,自在に扱えるだけ を方程式の問題として扱うことで様
授業の進	差め方・方法	全ての内 「授業計 各授業に 問題演習	容は、学習・教育到達目標(B)<基础画」における各週の「到達目標」はこのおける各週の「到達目標」はこのおける説明事項はあらかじめ指定するまを中心に進める、 演習の時間には手計	Ê>に対応する. の授業で修得する「タ 教材により学習してる 算だけでなく数式処	印識・能力」に相 6くこと. 授業に 理ソフトの使用(	3当するものとする. おいては予習をチェックすると共に こよる計算および描画を含む.
注意点		験の成績 <単位修 <あらか の方程式 <備考>	がある、再試験の成績が定期試験の成績で置き換えるものとする。 で置き換えるものとする。 得要件> 学業成績で60点以上を取得で じめ要求される基礎知識の範囲> 中学 , 三平方の定理を復習しておくこと、 日常から予習と復習をすること、本教	すること. で学んだ数学の知識	を必要とする.	特に, 整式の計算, 因数分解, 直線
		修上の区分		T_ \		I
□ アク:	ティブラー	ニンク	☑ ICT 利用	□ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
授業計	· 庙i					
JX <del>X</del> DI		週	授業内容	调	 ごとの到達目標	
			授業の概要,変数と関数記号	1		数の概念を理解し,利用することが
		2週	関数のグラフ	2		の関係を理解し, 直線のグラフをか
		3週	平行移動	3		関数を定め, そのグラフをかくこと
	1 = +0	4週	対称移動・回転移動,拡大・縮小	4	. 対称移動, 回転 そのグラフをかっ	伝移動, 拡大・縮小した関数を定め くことができる.
	1stQ	5週	1次関数の最大・最小	5	. 1次関数の最大	大値・最小値を求めることができる
		6週	逆関数、2次関数のグラフ	7	<ul><li>2次関数の基準</li></ul>	
					かくことができる	o, それを利用することができる. 体形を理解し, 平行移動したグラフ る.
前期		7週	2次関数の標準形	8		本形を理解し,平行移動したグラフ る. 5完成と平行移動することができ
前期		7週 8週	2次関数の標準形 中間試験	8 , 上	. 2次関数の平元 そのグラフをから 記1~8	本形を理解し, 平行移動したグラフる. ち完成と平行移動することができくことができる.
前期				8 , 上 9 方	. 2次関数の平2 そのグラフをから 記1~8 . 2次関数のグラ 程式を解くことが	本形を理解し、平行移動したグラフる. ち完成と平行移動することができくことができる. ラフと判別式の関係を理解し、2次ができる.
前期		8週	中間試験	8 , 上 9 方 1 こ	. 2次関数の平元 そのグラフをから 記1~8 . 2次関数のグラ 程式を解くことが 0. 2次関数のなとができる.	本形を理解し、平行移動したグラフる. ち完成と平行移動することができくことができる. ラフと判別式の関係を理解し、2次ができる. ブラフを利用し、2次不等式を解く
前期	2ndQ	8週	中間試験 2次方程式とグラフ	8 , 上 9 方 1 こ 1 る	. 2次関数の平式 そのグラフをから 記1~8 . 2次関数のグラ 程式を解くことが 0. 2次関数のかとができる。 1. 2次関数のか	本形を理解し、平行移動したグラフる. ち完成と平行移動することができくことができる. ラフと判別式の関係を理解し、2次ができる. ブラフを利用し、2次不等式を解く 最大値・最小値を求めることができ
前期	2ndQ	8週 9週 10週	中間試験 2次方程式とグラフ 2次不等式とグラフ	8 , 上 9 方 1 こ 1 る 1 こ	. 2次関数の平式 そのグラフをから 記1~8 . 2次関数のグラ 程式を解くことが 0. 2次関数のかとができる. 1. 2次関数のか 2. 無理関数のなとができる。	本形を理解し、平行移動したグラフる。 ち完成と平行移動することができ くことができる。 ラフと判別式の関係を理解し、2次ができる。 ブラフを利用し、2次不等式を解く 最大値・最小値を求めることができ 主義域や値域を求め、グラフをかく
前期	2ndQ	8週 9週 10週 11週 12週 13週	中間試験 2次方程式とグラフ 2次不等式とグラフ 2次限数の最大・最小	8 , 上 9 方 1 こ 1 る 1 こ 1 こ	. 2次関数の平元 そのグラフをから 記1~8 . 2次関数のグラ 程式を解くことが 0. 2次関数のか とができる。 1. 2次関数のか 2. 無理関数のか とができる。 3. 分数関数のか きる。	本形を理解し、平行移動したグラフる. ち完成と平行移動することができくことができる. ラフと判別式の関係を理解し、2次ができる. ブラフを利用し、2次不等式を解く 最大値・最小値を求めることができ

		15週	]	べき問	関数、偶関数	 と奇関数		15. べき関数, 個	男関数,奇	関数とグラフ	の性質を理
		16週			33011    311 3301			解できる.			
		1週	1	2 占限	 間の距離			16.2点間の距离	雑を求める	ことができる	 S
		2週			シェニュー 点と外分点			17. 内分点や外分			
		3週			<u> </u>			18. 傾きや通る点できる.			
		4週		2 直統	泉の平行・垂			19.2つの直線の ることができる.	D平行・垂	直条件を理解	解し,利用す
	3rdQ	5週		円のフ	 5程式			20. 円の方程式を	を求めるこ	とができる.	
		6週		アポロ	コニウスの円			21. 軌跡の概念をの方程式を導くこと	·理解し,	与えられた条	条件から関数
		7週		円と正	直線			22. 円と直線の関方程式を求めること	係を理解	!し,交点の個	歴標や接線の
		8週		後期口	中間試験			上記16~22	_/3 CC &	'1	
		9週			(横長)			23. 楕円の焦点, ができる.	標準形を	理解し, 概用	/をかくこと
後期		10週	]	楕円	(縦長),双	曲線(左右)		上記23 24. 双曲線の焦点 をかくことができる	点, 標準形 る.	, 漸近線を理	里解し, 概形
		11週	]	双曲約	泉(上下),	放物線		上記24 25. 放物線の焦点 かくことができる.	点,標準形	, 準線を理解	解し,概形を
	4thQ	12週	1	2次由	曲線の平行移	動, 2次曲線と直線		26. 2次曲線の ことができる. 27. 2次曲線と 接線の方程式を求め	直線の関係	を理解し、多	lを利用する ∑点の座標や
		13週	]	不等式	代と領域			28. 不等式が表す とができる.	す領域を理	解し,領域を	図示するこ
		14週	]	線形記	†画法			29. 線形計画法を ことができる.	を使って,	最大値や最小	\値を求める
		15週	]	総合演	寅習			上記23~29			
		16追	]								
モデルニ	]アカリ:			学習	内容と到達	性目標					
分類			分野		学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	<b>†</b>
						連立方程式を解くこ				3	前9,後5
						無理方程式及び分数				3	前14
						一次不等式及び二次			D.1 = =	3	前10
						上次関数の性質及C とができる。	アクフノを埋解し	、最大値や最小値を	求めるこ	3	前6,前7,前 9,前11
						分数関数や無理関数 関数を含む不等式に		フを理解し、分数関	数や無理	3	前12,前 13,前14
基礎的能力	り 数学	į	数学		数学	与えられた関数の逆	関数を求め、そ	の性質を説明できる	۰	3	前6
						与えられた二点から	距離や内分点を	求めることができる	0	3	後1,後2
						直線及び円の方程式	で求めることが	できる。		3	後3,後4,後 5,後6
						二次曲線について、	方程式とグラフ	の概形の関係を説明	できる。	3	後9,後 10,後11,後 12
						不等式の表す領域を	図示できる。			3	後13,後14
評価割合	<u> </u>										
				試			課題・小テスト		合計		
総合評価書	合			70			30		100		
配点				70	<u> </u>		30		100		

		等専門学校	☆   開講年度 令和06年度(2	2024年度)   7	受業科目	物理 I
	礎情報	3 (3) 33 12	( )			
<u>· · · · · · · · · · · · · · · · · · · </u>		0022		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	Ř	授業		単位の種別と単位数	履修単位:	2
開設学科	1	機械工	学科	対象学年	1	
開設期		通年		週時間数	2	
教科書/勃	<b>教材</b>	教科書 (数研	: 「物理基礎改訂版」植松恒夫・酒井啓 出版), 「センサー総合物理」(啓林館	司・下田正編(啓林館) )	,参考書:	「フォローアップドリル物理基礎」
担当教員	Į	三浦 陽	子			
到達目	標					
力学(及	び熱力学の	初歩)に関	連する物理量を取り扱って必要な計算が	できる.		
ルーブ	リック					
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの	目安	未到達レベルの目安
評価項目	1		物体の運動に関する応用的な問題 を解くことができる.	物体の運動に関する基 を解くことができる.	本的な問題	物体の運動に関する基本的な問題  を解くことができない.
評価項目	12		仕事や熱とエネルギーに関する応 用的な問題を解くことができる.	仕事や熱とエネルギー 本的な問題を解くこと	に関する基 ができる.	仕事や熱とエネルギーに関する基本的な問題を解くことができない
学科の	到達目標	項目との				
教育方	<u></u> 法等					
概要		である 数式を くなれ 具体	は,自然の仕組みを調べる学問の基礎と ・中学校の理科では,自然の仕組みを言 使い計算を通して行うという物理学本来 て欲しい. 的には,物理学の中でも,基礎となるカ ルギー」等を学ぶ.	葉の説明を通して理解しの方法を学ぶ. この方法	,てきた. この ほは, 専門科目	)授業では,自然を理解するときに 目の理解の方法とも一致するので早
授業の進	め方・方法	・前後	期共に第1週〜第15週までの内容はす 業計画」における各週の「到達目標」は	べて,学習・教育到達F この授業で習得する「知	目標(B)<星 ]識・能力」に	基礎>に相当する. こ相当するものとする.
注意点		評価する。  る)  <単位	成績の評価方法および評価基準>前期中20%として評価する. 試験で60点を 50%として評価する. 試験で60点を る. 学年末に行う再試は総合評価で60 修得条件>学業成績で60点以上を取得す かじめ要求される基礎知識の範囲>中学	点未満となる場合のみを <sup>-</sup> ること.	対象とし, 糸	が過ぎている。 総合評価60点を上限として評価す
	属性・履	<レポ <備考 る.問 ある. Ⅲ・Ⅳ 修上の区	- ト等> 演習課題を課す. > 勉強の仕方: 基本的に,教科書に従っ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分	て授業は行われる. 授美 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように	ぎが終わったら い. 物理は,	6, 自宅で, 教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 5科目は後に学習する「物理Ⅱ・
	属性・履 ティブラー:	<レポ <備考 る.問 ある. Ⅲ・Ⅳ 修上の区	−ト等>演習課題を課す. >勉強の仕方:基本的に,教科書に従っ 関集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である.	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にすると。	ぎが終わったら い. 物理は,	5, 自宅で, 教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 5科目は後に学習する「物理Ⅱ・
□ アク	ティブラー	<レポ <備考 る.問 ある. Ⅲ・Ⅳ 修上の区	- ト等> 演習課題を課す. > 勉強の仕方: 基本的に,教科書に従っ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分	て授業は行われる. 授美 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように	ぎが終わったら い. 物理は,	5, 自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で
□ アク	ティブラー	<レポ <備考 る.問 ある. Ⅲ・Ⅳ 修上の区	- ト等> 演習課題を課す. > 勉強の仕方: 基本的に,教科書に従っ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分	て授業は行われる. 授美 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように	ぎが終わったら い. 物理は,	5, 自宅で, 教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 5科目は後に学習する「物理Ⅱ・
アク	ティブラー	<レポ   <備考   a	- ト等> 演習課題を課す. > 勉強の仕方: 基本的に, 教科書に従っ 関集の習った範囲の例題, 問題等を解い すぐ答えを見ないで, 自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分 □ ICT 利用	て授業は行われる. 授業で理解を確実にするとるいてみる力を養うように 遠隔授業対応 週ご	が終わったらい、物理は, S努力する. オ	6, 自宅で, 教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 5科目は後に学習する「物理Ⅱ・
アク	ティブラー	< レポマ (	- ト等> 演習課題を課す. > 勉強の仕方: 基本的に, 教科書に従っ 題集の習った範囲の例題, 問題等を解い すぐ答えを見ないで, 自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 遠隔授業対応	が終わったらい、物理は、 ・努力する、オ ・タカする・オ	5, 自宅で, 教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・
アク	ティブラー	< L   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等> 演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従つ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように □ 遠隔授業対応 □ 週ご 1 2 上記:	が終わったらい、物理は、 ・努力する、オ との到達目標 数値の基礎的な 東度に関する。	5, 自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授業 は知識を有している.
アク	ティブラー:	C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従つ 電集の習った範囲の例題, 教刊書に従つ すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ 操業内容 授業内容 □ 速度,等速直線運動 □ 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 」 遠隔授業対応 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りでする。 りですると。 りでする。 りです。 りです。 りです。 りです。 りです。 りです。 りで。 りで。 りで。 りで。 りで。 りで。 りで。 りで。 りで。 りで	が終わったらい、物理は、 一学力する。本 との到達目標 数値の基礎的な 速度に関する。 2 1)速度を理解し	5, 自宅で, 教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 な知識を有している.
アク	ティブラー	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等> 演習課題を課す. > 勉強の仕方: 基本的に, 教科書に従っ 題集の習った範囲の例題, 問題等を解い すぐ答えを見ないで, 自分の力で考え解 」の基礎となる科目である.	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 」 遠隔授業対応 りに りに りに りに りに りに りに りに りに りに りに りに りに	が終わったらい、物理は、 一学の到達目標 数値の基礎的で 東度に関する。 を理解し 別速度を理解し	5, 自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 は知識を有している. 計算ができる.
アク	ティブラー:	< L / L / R / R / R / R / R / R / R / R /	- ト等>演習課題を課す. > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従っ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ 球業内容 授業内容 □ 速さ,速度,等速直線運動 □ 速度の合成、相対速度、ベクトル □ 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下)	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 」 遠隔授業対応	が終わったらい、物理は、 で努力する、オートの到達目標 数値の基礎的で 速度に関する。 と 別速度を理解し はない運動を調	5, 自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 は知識を有している. 計算ができる.
アク	ティブラー:	< L   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す. > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従っ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分 □ ICT 利用 □ ICT 利用 □ 接業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射)	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 」 遠隔授業対応	が終わったらい、物理は、 い、物理は、 一努力する、オ との到達目標 数値の基礎的。 東度に関する。 2 1速度を理解し 3 3 3 3 4	5, 自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 」, 関連した問題を解ける.
<u>アク</u> 受業計	ティブラー:	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従つ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分 □ ICT 利用  「授業内容 授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように	が終わったらい、物理は、 一次の到達目標 数値の基礎的で 東度に関する。 2 日速度を理解し 3 5体の運動を記 4 までの学習内	あ、自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 」 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる.
<u>アク</u> ・	ティブラー:	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す. > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従つ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 」 遠隔授業対応	が終わったらい、物理は、 一努力する。 オ との到達目標 数値の基礎的。 東度に関する。 別速度を理解し 3 5体の運動を記 はまでの学習内容。	5, 自宅で,教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 」, 関連した問題を解ける.
<u>アク</u> ・	ティブラー:	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従つ 電集の習った範囲の例題, 教題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするともいてみる力を養うように 」 遠隔授業対応	が終わったらい、物理は、 一学の到達目標 数値の基礎的で 速度に関する。 2 引速度を理解し 3 3 3 4 までの学習内に でのでででである。	あ、自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 」 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる.
<u>アク</u> ・	ティブラー:	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従っ 題集の習った範囲の例題,問題等を解い すぐ答えを見ないで,自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするともいてみる力を養うように はいてみる力を養うように 過ご。 1.3 2.3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 上記:	が終わったらい、物理は、 が変力する。本 との到達目標 数値の基礎的な 速度に関する。 2 別速度を理解し 3 多体の運動を記 までの学習内に うについて理解 5	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. □ , 関連した問題を解ける. □ 送述できる. ○ 公式できる.
<u>アク</u> 受業計	ティブラー:	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す. > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従っ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとも いてみる力を養うように 遺ご 1. 3 2. 3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 5. 力	が終わったらい、物理は、 がい、物理は、 がい、物理は、 がでの到達目標の基礎的で 速度に関する。 と 別速度を理解し る なの運動を記 は までの学習内に かについて理解 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 2. 以関連した問題を解ける. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している.
□ <i>アク</i> ・ 受業計	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に、教科書に従つ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするともいてみる力を養うように 過ご 1.3 2.3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 上記: 1.1 5. 力 上記: 5. 力 上記:	が終わったらい、物理は、対象の可達目標との到達目標との到達目標的基礎的対象度に関する。2011 対象を運動を記しまでの学習内について理解したのででである。	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 」、関連した問題を解ける. ②述できる. 容について理解している. 経し、記述できる.
□ <i>アク</i> ・ 受業計	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す. > 勉強の仕方:基本的に, 教科書に従っ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 週ご 1 2; 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 5. 力 上記: 6. 様 7 ¿ る.	が終わったらい、物理は、2 との到達目標の基礎的。 速度に関する。2 別速度を理解し 3 8体の運動を記 までの学習内容。 でついて理解 5 5 6 6 6 6 7	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ □ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 」、関連した問題を解ける. ②述できる. 容について理解している. 経し、記述できる.
<u>アク</u> 受業計	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に、教科書に従つ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするともいてみる力を養うように 過ご 1.3 2.3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 上記: 1.1 5. 力 上記: 5. 力 上記:	が終わったらい、物理は、2 との到達目標の基礎的。 速度に関する。2 別速度を理解し 3 8体の運動を記 までの学習内容。 でついて理解 5 5 6 6 6 6 7	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 2. 以関連した問題を解ける. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している.
<u>アク</u> 受業計	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	C   C   C   C   C   C   C   C   C   C	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に, 教科書に従つ	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするとる いてみる力を養うように 道ご 1.3 2.3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 5. 力 上記: 6. 様 第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第二、第	が終わったらい、物理は、 との到達目標の基礎的が 速度に関する。 との理解しまでの学習内について理解をでの学習内について理解します。	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 2. 以関連した問題を解ける. 会について理解している. 経し、記述できる.
□ <i>アク</i> ・ 受業計	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	Control   Co	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に, 教科書に従っ	て授業は行われる. 授養 て理解を確実にするとうに いてみる力を養うように り り し 遠隔授業対応 り 1. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 3. カ 上記: 4. 落 上記: 5. 5. 5. 1 上記: 1 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 4 2 3 4 5 5 5 5 5 6 6 7 8 7 8 8 8 8 8 8 8 9 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	が終わったらい、物理は、2 との到達目標 数値の基礎的。 速度に関する。2 引速度を理解し 3 5体の運動を記 4 までの学習内容 5 5 6 6 6 7 7	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 2. 以関連した問題を解ける. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している.
□ <i>アク</i> ・ 受業計	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	Control   Co	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に,教科書に従つ	て授業は行われる. 授養 て理解を確実にするとうに いてみる力を養うように 過ご 1. 3 2. 3 上記: 4. 液 上記: 5. 力 上記: 上記: 1. 1 2. 3 上記: 4. 2 2. 3 上記: 2. 1 2. 3 2. 3 2. 3 2. 3 2. 3 2. 3 2. 3 2. 3	が終わったらい、物理は、 との到達目標 数値の基礎的。 速度に関する。 2 別速度を理解し 3 3 3 3 4 までの学習内について理解 5 5 6 6 6 6 6 7 7	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 2. 以関連した問題を解ける. 会について理解している. 経し、記述できる.
受業計	ティブラー: 画 1stQ 2ndQ	Control   Co	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に、教科書に従つ 題集の習った範囲の例題, 的題等を解い すぐ答えを見ないで、自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分  □ ICT 利用  授業内容 授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2  摩擦力(外面方向) 放物運動、空気抵抗がはたらく落下運	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするともいてみる力を養うように 週ご 1. 3 2. 3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 6. 様 7. 漢 上記: 上記: 上記: 上記: 上記:	が終わったらい、物理は、対象の可達目標との到達目標との到達目標の基礎的対象度に関する。2010速度を理解しまでの学習内容がについて理解しまでのがで理解します。	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. の、関連した問題を解ける. 会について理解している. 解し、記述できる. ので理解した問題を解ける.
□ <i>アク</i> 授業計 一	ティブラー <u>:</u> 画 1stQ	Control   Co	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に、教科書に従つ題集の図った範囲の例題, 問題等を解いて、自身分の力で考え解すぐ答えを見ないで、自身分の力で考え解りの基礎となる科目である 分 □ ICT 利用 - 授業内容 授業内容の説明, 物理で使う数値 速き, 速度, 等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度, 等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射)前期中間試験 力の表し分解、力のつり合い作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2 - 摩擦力(水平方向) 摩擦力(斜面方向) 放物運動、空気抵抗がはたらく落下運 仕事	て授業は行われる。授業 て理解を確実にするように はいてみる力を養うように りまにする。 りまには りまにする。 りまには りまにする。 りまには りまれる。 りまる。 りまれる。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。 り。	が終わったらい、物理は、対象の到達目標的を関する。 対象を関する。 対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	5, 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. 2. 以関連した問題を解ける. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している. 会について理解している.
	ティブラー: 画 1stQ 2ndQ	Control   Co	- ト等>演習課題を課す > 勉強の仕方:基本的に、教科書に従つ 題集の習った範囲の例題, 的題等を解い すぐ答えを見ないで、自分の力で考え解 」の基礎となる科目である. 分  □ ICT 利用  授業内容 授業内容の説明,物理で使う数値 速さ,速度,等速直線運動 速度の合成、相対速度、ベクトル 加速度,等加速度直線運動 加速度が負の運動 落体の運動(自由落下) 落体の運動(鉛直投射) 前期中間試験 力の表し方、いろいろな力 力の合成と分解、力のつり合い 作用と反作用 圧力と浮力 慣性の法則、運動の法則、運動の三法 単位と次元、運動方程式の応用その1 運動方程式の応用その2  摩擦力(外面方向) 放物運動、空気抵抗がはたらく落下運	て授業は行われる. 授業 て理解を確実にするともいてみる力を養うように 週ご 1. 3 2. 3 上記: 4. 落 上記: 5. 力 上記: 6. 様 7. 漢 上記: 上記: 上記: 上記: 上記:	が終わったらい。 が終わったらい。 が終わったらい。 かりは、物理は、対象値の基礎的の基度に関する。 を関する。 を理解しる。 をでの学習中の。 をでのかる、対象を理解しる。 をでのかる。 をでの。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでの。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでの。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでのる。 をでの。 をでの。 をでの。 をでのる。 をでの。	5 , 自宅で、教科書の内容を復習す 自分で考え理解することが大切で 科目は後に学習する「物理Ⅱ・ 実務経験のある教員による授 な知識を有している. 計算ができる. の、関連した問題を解ける. 会について理解している. 解し、記述できる. ので理解した問題を解ける.

自然科学	≠□物理		物理	重力、弾性力、抗力、張力の概念を る計算ができる。 圧力、浮力について説明できる。 運動の三法則について説明できる。 運動方程式を用いて、物体に生じる どを求めることができる。 静止摩擦力がはたらいている場合の きる。	理解し、それぞれの力に関す	3	前10,前11 前10,前11 前12 前13 前14,前15 後1,後2
				重力、弾性力、抗力、張力の概念を る計算ができる。 圧力、浮力について説明できる。 運動の三法則について説明できる。 運動方程式を用いて、物体に生じる どを求めることができる。	理解し、それぞれの力に関す	3 3 3 3	前10,前11 前12 前13
				重力、弾性力、抗力、張力の概念を る計算ができる。 圧力、浮力について説明できる。 運動の三法則について説明できる。 運動方程式を用いて、物体に生じる	理解し、それぞれの力に関す	3 3 3	前10,前11 前12 前13
				重力、弾性力、抗力、張力の概念を る計算ができる。 圧力、浮力について説明できる。		3	前10,前11 前12
				重力、弾性力、抗力、張力の概念を る計算ができる。		3	前10,前11
				重力、弾性力、抗力、張力の概念を			,
				真無にほんうくがのううめいに関す	「る計算かできる。	3	前10,前11
				質点にはたらく力のつりあいに関す			
				力の合成と分解ができる。		3	前10
				物体に作用する力を図示できる。		3	前9
				ができる。		3	1
				水平投射及び斜方投射した物体の変	位、速度、時間に関する計算	3	後3
				ができる。		3	則6,則/
							前6,前7
							246 243
				物体の変位、速度、加速度を做力・る。	<b>惧分を用いて相互に計算でき</b>	3	
					 積分を用いて相互に計算でき	2	
				とができる。		3	
					ベクトルの変化として扱うこ	3	
						3	
				する計算ができる。		3	כוּוּל, דינּוּ
					物体の変位、時間、速度に関	3	前4,前5
				自MXの十川理制にのいて、迷度を 合成・分解及び相対速度に関する計	ハントルこして近え、迷度の -算ができる。	3	前3
							1
					 計算ができる。		前2
	773		םנום נ			T	前2
<i>,</i> /J / ¬		<u>クナロ</u>				到達しべま	授業組
アカロナ		フ学習	大窓と到達				
		ヌいかり	り仏態変化と	熱・仕事	<u> </u>		
						こ   選しに同意	思で胜りる.
		7 1	57.15	方程式 -		こ関連した問題	頭を解ける
ithQ		-	 训用		1		
lth∩			<u>/又</u>		上記10		177 01
	10週 11週				10. 熱と温度を理解し、関連	 連した問題を係	 解ける.
				イルキーの保任、保任力以外の力力・	上記9		
	9週				上記9		
						らい (埋産	単している.
		1		WHO CONTROL			
	thQ <sup>7</sup> カリキ	11週 12週 13週 14週 15週 16週	8週 後期中 9週 力学的 10週 保存が 仕事を 11週 熱と派 12週 熱量 13週 熱の利 14週 気体の 15週 気体の 16週	8週 後期中間試験 9週 力学的エネルギー 10週 保存力と力学的工 仕事をする場合 11週 熱と温度 12週 熱量 13週 熱の利用 14週 気体の法則と状態 15週 気体の状態変化と 16週	8週 後期中間試験 9週 カ学的エネルギー保存の法則その2 10週 保存力と力学的エネルギーの保存、保存力以外の力が 仕事をする場合 11週 熱と温度 12週 熱量 13週 熱の利用 14週 気体の法則と状態方程式 15週 気体の状態変化と熱・仕事 16週  アカリキュラムの学習内容と到達目標	別子的エネルギー保存の法則での1   題を解ける。   後期に入ってからの学習内容   り週 カ学的エネルギー保存の法則その2   上記9   10週 保存力と力学的エネルギーの保存、保存力以外の力が 仕事をする場合   11週 熱と温度   10. 熱と温度を理解し,関注   11週 熱と温度   上記10   14週 気体の法則と状態方程式   11. 気体の様々な状態変化に   15週 気体の状態変化と熱・仕事   上記11   16週     上記11     上記11     上記11     日の夢   学習内容   学習内容の到達目標	接期中間試験   接期中間試験   接期に入ってからの学習内容について理例

鈴鹿	工業高等	専門学校	開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授	業科目	工学基礎実験
科目基礎	計報							
科目番号		0017					専門 / 必修	
授業形態		実験・実	実験・実習			位数	履修単位: 1	
開設学科		機械工学	機械工学科			1		
開設期		前期			週時間数		2	
教科書/教	材	各教員配						
担当教員		打田 正樹	,長谷川 賢二					
到達目標	Ē							
1. 各学科 2. 実験・	料で実施する ・実習内容を	5実験・実習 空理解し, 結	に関する基礎知識を 果や考察など各学科	と理解し,安全に配 料で要求された内容	慮し実験・実習を を報告書にまとめ	:行うこ。 ること:	とができる ができる.	5.
ルーブリ	<b>リック</b>							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レ			未到達レベルの目安
評価項目1			実験・講義に関 分に理解し、安 実習を確実に行	する基礎知識を十 全に配慮し実験・ うことができる.	実験・講義に関解し,安全に配行うことができ	慮し実験	<sup>楚知識を理</sup> 検・実習を	実験・講義に関する基礎知識の理解が足りず,実験・実習を確実に行うことができない.
評価項目2	:		実験・講義内容 , 結果や考察な れた内容を報告 ができる.	を十分に理解し ど各学科で要求さ 書にまとめること	実験・講義の内! まえたうえで報 とができる.	容およて告書にま	が結果を踏 まとめるこ	実験・講義の内容および結果を報告書にまとめ報告できない.
学科の到	]達目標項	目との関	係					
教育方法	 :等							
概要		本科目は味・関心	機械工学への導入教 を高めるとともに,	対育の位置づけで開設 主体的・積極的に	講されており,初 学問に取り組む姿	歩的な3	実験・実習 こ付けるこ	を経験することで、工学に対する興 とを目的とする。
授業の進め	b方・方法	・授業内 ・「授業	容は,学習・教育至 計画」における各週	達目標(B)<専門ス  の「到達目標」はる	> に対応する. この授業で習得す	る「知詞	哉・能力」	に相当するものとする.
注意点		ね同じで <学業成終 <単位修行 本あらかし 都度解説 <レポー	ある. 満点の60%0 責の評価方法および 得要件>学業成績で じめま される基礎 する. ト等> 報告書は、決	D得点で,目標の達 評価基準>実験レオ 60点以上を取得する 知識の範囲>1年生 められた期日までに	成を確認する. ペート, 講義課題 ること. Eの授業で学習する - 提出すること.	(20点潟 る基礎的	満点)の総 ], 基本的	画の「到達目標」の各項目の重みは概和で評価する.な内容.ただし必要な基礎知識はそのなどもその都度控えておく.
授業の属	性・履修	上の区分						
	・ィブラーニ		□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応	<u></u>		□ 実務経験のある教員による授業
授業計画								
		週				週ごと	の到達目標	
				関するガイダンス, レポートの書き方、		いため , 安全	, また事品 に関する基	実習において怪我等の事故を起こさな 気が起きてしまった時の対処法など 基礎的な心得を把握している. 方を把握している.
		2週	安全教育に関するが	ゴイダンス		上記1.		
	1stQ	3週	ミニ四駆の製作と乳			型を製	作できる. におけるタ	従って正しい道具を正しく使用して模 条件の策定、実験の遂行、データ記録
		4週	ミニ四駆の製作と第	<b>上</b> 上除②		上記3.		
			ミニ四駆の製作と			上記3.		
			- 一			5.実験内容や結果を報告書にまとめることができ		<b>見を報告書にまとめることができる。</b>
			実験レポートの製作	_		上記5		KERRIGICS COSCESS CC S.
		8週	<定期試験期間>					
前期		O:E	機械工学の基礎メカトロニクスや制	制御工学の基礎		6.メカ できる		スや制御工学の基礎を理解することが
		10,A	機械工学の基礎			7.数値計算やシミュレーションの基礎を理解すること ができる。		ミュレーションの基礎を理解すること
		11個	機械工学の基礎 材料力学の基礎			8.材料	力学の基礎	楚を理解することができる。
	2ndQ		機械工学の基礎 機械力学の基礎			9.機械	力学の基礎	楚を理解することができる。
		13週	機械工学の基礎 熱力学の基礎			10.熱力	力学の基礎	を理解することができる。
		14/0	機械工学の基礎 流体力学の基礎					き礎を理解することができる。
			振り返り			上記1~	×11	
		16週						
モデルニ	1アカリキ	ニュラムの	学習内容と到達	目標				
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル 授業週
評価割合								
	_		宝駁	シルポート			合計	

総合評価割合	100	100
配点	100	100

		開講年度	令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	機械工作実習
	71 7 1V	// <del>[ [</del> [] ]	」 15 IHOO <del></del> /文(2	· · · /× /		I WIW - II A B
77口坐巡问报 科目番号	0018			科目区分	専門 / !	以修
770日7 授業形態	実験・実習			単位の種別と単位		
開設学科	美験・美賀     機械工学科			対象学年	1	<u>и.</u> т
開設期	通年			週時間数	4	
				1		<b>業時に参考プリント配布することがある</b>
教科書/教材 			参考書は多数図書館		\$ (C//L/O C)\$5	
担当教員	白木原 香織,	,松枝 剛広				
到達目標						
機械工学に関する専門) ることができる.	用語および基2	<b>ҍ的な工作機械</b> ₫	D使用方法を理解し	, 実際の操作ができ	る. また, 得	られた知見を論理的にまとめ・報告す
ルーブリック						
		理想的な到達レ	ベルの目安	標準的な到達レベ	 ルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1		加工作業における て十分理解できる	る安全確保についる.	加工作業における て理解できる.		い 加工作業における安全確保につい て理解できていない.
評価項目2		レポートの制作だ , レポートを制作 る.	方法を十分理解し 作することができ	レポートの制作方式	法を理解し,   ことができる.	レポートの制作方法を理解できず , レポートを制作することができ ない.
評価項目3		旋盤の構造を操作 , 外丸削り等が <sup>-</sup>	 作を十分理解し	旋盤の構造を操作 削り等ができる.	を理解し、外流	丸 旋盤の構造を操作を理解できず ,外丸削り等ができない.
評価項目4		シェーパやフラー 作を十分理解で コロの製作する。	イス盤の構造や操 き,アルミ材サイ ことができる.	シェーパやフライ 作を理解でき、ア の製作することが	ス盤の構造や! ルミ材サイコ! できる.	操 シェーパやフライス盤の構造や操 ロ 作を理解できず、アルミ材サイコ ロの製作することができない.
評価項目5	<u>:</u>	, けがき等の基 <sup>;</sup> 理解し, アルミ <sup>†</sup> 製作することが <sup>*</sup>	ール盤, ねじ切り 本的な作業を十分 材を用いた容器を できる. また, ド ール盤の種類につ できる.	の製作することができる。 ヤスリがけ、ボール盤、ねじ切り 、けがき等の基本的な作業を理解 し、アルミ材を用いた容器を製作 することができる。また、ドリル の種類やボール盤の種類について も理解できる。		解  , けがき等の基本的な作業を理解作   できず, アルミ材を用いた容器をルー製作することができない. また
評価項目6		溶接の種類や特征のでは いて十分理解でき 、あるいはアーク	徴, 溶接棒等につ き, 簡単なガス ク溶接ができる.	溶接の種類や特徴 いて理解でき、簡 いはアーク溶接が	単なガス,あ	つ 溶接の種類や特徴,溶接棒等について理解できず,簡単なガス,あるいはアーク溶接ができない.
評価項目7		鋳物の製作方法: おり, 鋳型の作! 的な作業ができ!	等を十分理解して 製と鋳込みの基本 る.	鋳物の製作方法等 , 鋳型の作製と鋳 作業ができる.		
評価項目8		NC旋盤やワイヤー放電加工機等の 特徴や種類や原理、プログラミン グの流れを十分理解することがで き、与えられた課題に対するNCプ ログラムを完成させ、そのプログ ラムを加工機に読み込ませ、実際 に加工作業ができる.		NC旋盤やワイヤー放電加工機等の 特徴や種類や原理、プログラミン グの流れを理解することができず		
学科の到達目標項 教育方法等					•	
概要	機械工作実習	習は,機械技術者 上産技術および研	ばにとって重要なも 1空・闘発の各分野		験し, その経	験をもとに機械工学での授業とともに ろ
授業の進め方・方法	実社会での生産技術および研究・開発の各分野において活用することを目的とする.  ・本科目の内容は、すべて学習・教育到達目標(B) < 専門> に相当する. ・「授業計画」における「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする. ・クラスを6班に分け、それぞれの班が以下の1~6のテーマについて、機械加工等の基礎的な知識とそれらの作業、習得する.ただし、1テーマあたりの授業期間は4週とする.また、第1週目は、クラス全体での機械工作実習におけ標と心構え、災害防止と安全確保のためにすべきこと、レポートの作成方法等の学習を行った後、各テーマの授業う。.  1. 旋盤:旋盤の構造と基本操作を学習する.さらに、技能検定3級課題の加工を行う.特に、外丸削り作業を行う.2.機械仕上げ:シェーパとフライス盤等の構造を学習する.またそれらを用いた加工(平面削り、側面削り等)をアルミ製のサイコロの製作を行う. 3. 手仕上げ:アルミ材を用いた容器を製作することにより、ヤスリがけ、ボール盤、ねじ切り、けがき等の基本的業を学習する。また、ドリルの種類やボール盤の種類についても学習する. 4. 溶接:溶接の種類や特徴、溶接棒等について学習する.さらに、ガス、アークおよびTIG溶接の基本操作を学習、溶接部材の強度について理解を深める. 5. 鋳造:鋳物の強敷きを製作することにより、鋳型の作製と鋳込みの基本的な作業を行う。6. NC加工:NC旋盤やワイヤー放電加工機等の特徴や種類や原理、プログラミングの流れを学習する。また、NC加工行うことにより、NC加工機においてプログラミングと基本作業を学習する。					当するものとする. 等の基礎的な知識とそれらの作業方法を クラス全体での機械工作実習における目 学習を行った後,各テーマの授業を行 行う.特に,外丸削り作業を行う. 上加工(平面削り、側面削り等)を行い と盤,ねじ切り,けがき等の基本的な作 でおよびTIG溶接の基本操作を学習し
注意点	< 到達目標の評価方法と基準> 授業計画における「到達目標」1~6につい 確認する. <学業成績の評価方法および評価基準> 実習報告書の内容を100%(100点)として とする。 <単位修得要件> 与えられた実習テーマの報告書を全て提出し <あらかじめ要求される基礎知識の範囲> テキストおよび機械工作の教科書で勉強して <レポート等> 毎週の実習内容を報告書にまとめ提出する. <備考> 最初の時間に行う実習に対する安全教育の記				より評価する の未提出分が を取得するこ た内容を記述 . 対象が工学	ある場合には,学年末評価を59点以下 と。 する.
授業の属性・履修			- 7日 7に貝円 9 る	ここ、小女行は役に	っつい 口信り天	日17日22金兆による大村も20分。
□ アクティブラーニン	<b>ノ</b> グ	□ ICT 利用		□ 遠隔授業対応		☑ 実務経験のある教員による授業

授業計	画				
		週	授業内容		週ごとの到達目標
		1週	クラスを6班に ーマを実施する	分け,それぞれの班が以下の1〜6のテ る.	1. 旋盤: 旋盤の構造を操作を理解し,技能検定3級レベルの課題の加工ができる. 特に,外丸削り等ができる.
		2週	1テーマあたり	の授業期間は4週とする.	2. 機械仕上げ:シェーパやフライス盤を理解できる . また, それらを用いて平面削りや側面削りができ , さらに, アルミ材サイコロの製作ができる.
		3週	1. 旋盤:旋盤 , 技能検定3級 を行う.	の構造と基本操作を学習する. さらに 課題の加工を行う. 特に, 外丸削り作業	3. 手仕上げ:ヤスリがけ、ボール盤、ねじ切り、けかき等の基本的な作業ができ、アルミ材を用いた容器を製作することができる。また、ドリルの種類やボール盤の種類についても理解できる。
		4週	する.それらを	「: シェーパとフライス盤等の構造を学習 を用いた加工(平面削り,側面削り等 レミ材サイコロの製作を行う.	4. 溶接:溶接の種類や特徴,溶接棒等について理解できる. 簡単なガス,あるいはアーク溶接ができる.
	1stQ	5週	一より ヤスリナ	アルミ材を用いた容器を製作することに がけ,ボール盤,ねじ切り,けがき等の を行う.また,ドリルの種類やボール盤 ても学習する.	5. 鋳造:鋳物の鍋敷きを製作することにより,鋳型の作製と鋳込みの基本的な作業ができる.
前期		6週	4. 溶接:溶接 る. さらに, 力 を学習し, 溶抗	その種類や特徴,溶接棒等について学習す ガス,アークおよびTIG溶接の基本操作 妾部材の強度について理解を深める.	6. NC加工:NC旋盤やワイヤー放電加工機等の特徴や種類や原理,プログラミングの流れを理解することができる.また,与えられた課題に対するNCプログラムを完成させ,そのプログラムを加工機に読み込ませ,実際に加工作業ができる.
		7週	5. 鋳造:鋳物作製と鋳込みの	Jの鍋敷きを製作することにより, 鋳型の D基本的な作業を行う.	
		8週	種類や原理, J , NC加工を行	NC旋盤やワイヤー放電加工機等の特徴や プログラミングの流れを学習する、またうことにより、NC加工機においてプロ 基本作業を学習する。	
		9週	各テーマの実施	<del></del> 包	
		10週	各テーマの実施	· 他	
		11週	各テーマの実施	 <del></del> 包	
	240	12週	各テーマの実施	色	
	2ndQ	13週	各テーマの実施	色	
		14週	各テーマの実施	色	
		15週	各テーマの実施	色	
		16週			
		1週	各テーマの実施	<b>他</b>	
		2週	各テーマの実施	色	
		3週	各テーマの実施	色	
	3rdQ	4週	各テーマの実施		
	SidQ	5週	各テーマの実施	<b>他</b>	
		6週	各テーマの実施 各テーマの実施		
		7週			
後期		8週	各テーマの実施	<b>他</b>	
1227/1		9週	各テーマの実施	色	
		10週	各テーマの実施	色	
		11週	各テーマの実施	色	
	4thQ	12週	各テーマの実施	<b>他</b>	
	4010	13週	各テーマの実施	<b>他</b>	
		14週	各テーマの実施	<b>他</b>	
		15週 各テーマの実		色	
		16週			
モデル	コアカリ	キュラムの	の学習内容と	到達目標	
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割	<del></del> 合				<del></del>
				実習報告書	合計
総合評価	割合			100	100
配点				100	100

鈴鹿	工業高等	専門学校	開講年度 令和06年度 (2	2024年度)	授業科目	機械製図 Ι
科目基礎		<u>VI. L L L L L L L L L L L L L L L L L L L</u>		2021—12)		IMI/WEXEST
科目番号	LIDTK	0019		科目区分	専門 / 必何	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
授業形態		授業		単位の種別と単位		
開設学科		機械工学	· 科	対象学年	_	
開設期		通年	• •	週時間数	2	
教科書/教	材	教科書:	「機械製図」 富岡 淳 監修(実教			ート」 長澤 貞夫 他2名著 (実
担当教員		藤松 孝祥				
到達目標	<u> </u>	•				
		するための基	基本的な知識や技術を習得して, 製作図	  を正確に作成した		 とができる.
ルーブレ			,		,	
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レヘ	 ベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	_		第3角法の意味と製図法を理解し 、それらの知識を実際の図面作成 時に用いることができる.	第3角法の意味と ている.	上製図法を理解し	第3角法の意味と製図法を理解していない。
評価項目2	2		製作図のあらましや図形の表し方 (選び方と配置,断面図示,特別な図示方法,線・図形の省略 ),寸法記入について理解しており,それらの知識を,実際の図面作成時に用いることができる.	製作図のあらまし、(選び方と配置, な図示方法,線・),寸法記入にこる.		製作図のあらましや図形の表し方 (選び方と配置, 断面図示, 特別 な図示方法,線・図形の省略 ), 寸法記入について理解できない.
評価項目3	}		公差(サイズ公差,はめあい,幾何公差,普通公差)と表面性状の意味を理解しており,それらを実際の図面作成時に用いることができる.	公差(サイズ公差 何公差,普通公差 意味を理解してい	E) と表面性状の	公差(サイズ公差,はめあい,幾 何公差,普通公差)と表面性状の 意味を理解していない.
評価項目4	ŀ		基本的な締結要素の種類, 規格を 理解し, 図示できる.	基本的な締結要素理解している.	素の種類, 規格を	基本的な締結要素の種類,規格を 理解していない.
評価項目5			伝達要素(歯車,ベルト,チェーン等)の基本的な知識や概要を理解し,与えられた条件から伝達要素を設計し,製作図を作成できる	伝達要素(歯車, ン等)の基本的な 解している.	ベルト, チェー 公知識や概要を理	伝達要素(歯車,ベルト,チェーン等)の基本的な知識や概要を理解していない.
		目との関	- i. ]係			
教育方法	<del>5</del> 等					
概要		技術の交換	流には,製図の規格に従った設計図が 体をしっかり体得することを目的とす	必要である. 機械製 ろ これにより **	製図法の内容を十2 継械設計製図に網[	分に理解し修得するとともに,製図 味を持つようにする
授業の進め	か方・方法	・授業の ・授業は ・「授業	の内容はすべて、学習・教育到達目標(E 講義・演習(図面の作図)形式で行う 計画」における各週の「到達目標」は の達成を確認する。	3) <専門> に相当す	<sup>-</sup> る.	
注意点		「験,<前前後学期各<上じ修<中>基,>到お評学期期期年の種単述て得あ学レ礎演備達よ価業中末中末成試位のすとら校示製習考>目び項成間・間・繰験修学べすかに一図誤>	じめ要求される基礎知識の範囲> おける数学と理科について十分理解し ト等>  練習ノートを各自で練習し、後期最初  題を与えることがある。  練習ノートは、各自で練習されたい。	《学業成績の評価が 《を成績とする。 よび前期未試験50% - ト10%および中間 :試験50%によって 試験の配点が大きい の評価を受けるこ 出を前提としている ており、本校第1学	が法および評価基準 のによって得られた は試験40%によって 得られた成績と、 い前期中間試験は対 と、ただし、学年 るため、未提出課題 学年の数学の知識も 出すること、また、	注>に示す). 満点の60%の得点で に成績と、中間での成績と平均する. て、後期中間の成績とする. 中間での成績との平均点によって後 再試験を実施する. 末時の評価に関しては、1年間を通 題が1つでもある場合には、単位末 を必要となる. 、理解を深めるため、必要に応じて
拇業の間	属性・履修 ≒ィブラーニ	<u> </u>	】 □ ICT 利用	☑ 遠隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
	_					
□ アクテ	<u> </u>				\B	
□ アクテ		週	授業内容		週ごとの到達目標	
□ アクテ		週 1週	授業内容 図面の役目と種類,製図の規格,図面線,基本的な図形の書き方	に用いる文字と	1. 図面の役割と字の種類,線の用	種類を把握し,図面に用いる線と文 途とそのひき方の注意事項が十分に
	1stQ		図面の役目と種類, 製図の規格, 図面	「に用いる文字と 「の説明	1. 図面の役割と 字の種類,線の用 理解している.	

	1		1		T		
		4週	製作図のあらまし(製作図, 尺度, 図 図の書き方, 材料記号, 検図), 達成	面の様式, 製作 度小試験	3. 尺度と図面の様式(表題欄,部品欄)製作図の書き方,材料記号を理解している.また,製作図の検図ができる.		
		5週	図形の表し方と断面図示		4. 図の選び方と配置, 断面図の種類を把握し, 片側断面図を作図することができる.		
		6週	特別な図示方法,達成度小試験		5. 特別な図示方法を習得している.		
		7週	達成度1~5範囲の演習問題と解説		上記1~5		
		8週	前期中間試験		上記1~5		
		9週	前期中間試験解説と基本的な寸法記入		上記1~5 6. 基本的な寸法記入ができる.		
		10週	様々な寸法記入法と寸法記入の留意事	 項	7. 基本的なものだけでなく,様々な寸法記入の方法を 習得している.		
		11週	面の肌(表面性状),サイズの許容限	 界	8. 面の肌(各種表面性状), サイズの許容限界が理解できる.		
	2ndQ	12週	はめあいと幾何公差の概要		9. はめあいの意味を理解し、その応用を習得している 10. 幾何公差と図示方法が理解できる.		
		13週	→   幾何公差とその図示方法,達成度小試	<b>E</b> 余	上記9, 10		
		14週	製作図の作り方と前期末試験範囲の演		上記5,10 上記6~10 11. 基本製図(スケッチ)を行い,製図法を習得して いる.		
		15週	スケッチ		上記11		
		16週					
		1週	前期末試験の解説と締結要素に関する説明		上記6~11 12. 基本的な締結要素の種類, 規格を理解し, 図示で きる.		
		2週	締結要素に関する説明		13. ねじの大きさが計算できる		
		3週	締結要素の製図		上記12		
	3rdQ	4週	締結要素の製図		上記12		
		5週	締結要素の製図		上記12		
		6週	締結要素の製図		上記12		
		7週	締結要素の製図		上記12		
		8週	後期中間試験		上記12, 13		
後期		9週	後期中間試験の解説と伝達要素の基礎知識と設計に関する説明		上記12,13 14. 歯車の基本的な知識(モジュール,基準円直径 ,減速比等),ならびに種々の歯車の概要を理解し ,与えられた条件から歯車を設計し,製作図を作成で きる		
		10週			上記14		
		11週	歯車の設計製図		上記14		
	4thQ	12週			上記14		
		13週	伝達要素の基礎知識と設計に関する説	明	15.伝達要素(ベルト、チェーン)の概要を理解し、そ   れらに関する計算ができる.		
		14週	伝達要素の基礎知識と設計に関する説	 明	上記15		
		15週	位達安系の基礎和職と取引に関する説明   伝達要素の知識に関する復習		上記14, 15		
		16週					
エデリー	コアカロ・				1		
<u>モノル.</u> 分類	<u> </u>	<u>ヤユ ブム</u> 0 分野	グチョウ谷と到底ロ信 学習内容 学習内容の到達目	<u> </u>	到達レベル 授業週		
		刀野		示	到廷レバソル   技業週		
評価割る	<u> </u>		- hg A	-mar <i>tet</i>	I A = 1		
۸۱ ۸ <del> '</del>			試験	課題等	合計		
総合評価	割台		50	50	100		
配点			50	50	100		